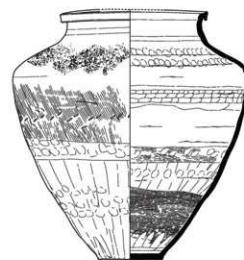


平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡（HJG10次）

令和2年度発掘調査報告書

平城京左京三条六坊十二坪 奈良町遺跡（HJG10次）

—令和2年度発掘調査報告書—



2022

公益財団法人 元興寺文化財研究所

2022

公益財団法人

元興寺文化財研究所

平城京左京三条六坊十二坪
奈良町遺跡（HJG10次）
—令和2年度発掘調査報告書—

2022

公益財団法人 元興寺文化財研究所

序

和銅 3 年（710）に藤原京から遷都された平城京は、延暦 3 年（784）の長岡京遷都に伴って廃都となります。平安時代には外京域を中心に中世都市へと変貌します。そして、数度の兵火や災害による荒廃と復興を繰り返しながら、現在に至る「ならまち」の景観が成立していきます。

この度の発掘調査では奈良時代をはじめ、平安時代から江戸時代までの遺構が見つかりました。奈良時代の溝や柱穴は、平城京の外京域の開発に関わる重要な遺構であり、平安時代後期には急激に遺構が増加する傾向も見出されました。これは、都市としての発展過程を示すものとして貴重な成果といえます。これまでに行われた発掘調査の成果を併せ見ることで、都市奈良の歴史がより詳らかになることが期待されます。

近年の文化財を観光資源・文化資源として活用するという方向性には、地道な調査研究が根底にあることを忘れてはなりません。昨今のコロナ禍は、多方面に影響を及ぼしましたが、感染対策を講じながら発掘調査を実施することができました。それはひとえに、開発事業者様のご理解と、調整・指導いただきました奈良県・奈良市教育委員会のご協力によるものです。関係各位には深く感謝の意を表したいと思います。

令和 4 年 3 月 31 日

公益財団法人 元興寺文化財研究所
理事長 辻村泰善

例言

1. 本書は平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡において、ホテル建設に先立ち実施した発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 調査地は奈良県奈良市小西町 30 番 1、30 番 2、31 番 1、31 番 2、31 番 3 に所在し、開発面積 1136.27m²のうち調査対象面積は 400m²である。
3. 調査は大和ハウス工業株式会社より委託を受けた公益財団法人元興寺文化財研究所が行い、令和 2 年 4 月 16 日～同年 6 月 25 日を現地調査、同年 6 月 26 日～令和 4 年 3 月 31 日を整理期間とした。
4. 発掘調査は坂本俊（公益財団法人元興寺文化財研究所）が担当し、小林友佳、三井淳（奈良大学学生）が補佐した（所属は当時）。
5. 調査地の座標および基準点測量は、公益財団法人元興寺文化財研究所が実施し、株式会社文化財サービスが分担した。
6. 発掘調査における土工等土木部門は株式会社アートが担当した。
7. 遺構写真撮影は坂本が、遺物写真撮影は大久保治（公益財団法人元興寺文化財研究所）が行った。
8. 出土遺物の実測は伸井光代（公益財団法人元興寺文化財研究所）、田中稔（大阪大谷大学大学院）、小林友佳（奈良大学大学院）、松田青空（奈良大学学生）、小久保茉優（立命館大学学生）、大崎拳斗（天理大学学生）が行い、浄書ならびに図面等の整理作業は武田浩子、芝 幹、山本知佳（公益財団法人元興寺文化財研究所）が行った（所属は当時）。
9. 本書に使用した土器の分類、編年、年代観については以下の文献を参照した。本文中に触れる分類名、年代記はこれらに依拠している。

愛知県史編さん委員会 2012「愛知県史 別編 窯業 3」

尾上実・森島康雄・近江俊秀 1995「瓦器」「概説中世の土器・陶磁器」中世土器研究会編 真陽社

小野正敏 1982「15～16世紀の染付椀・皿の分類と年代」「貿易陶磁研究」No.2 貿易陶磁研究会

川口宏海 1990「16世紀における大和型土釜の動向」「中近世土器の基礎研究」VI 日本中世土器研究会

佐藤聖圭 1996「大和における瓦質土器の展開と画期」「中近世土器の基礎研究」X 日本中世土器研究会

重根弘和 2017「備前・編年と分布」「第 36 回中世土器研究会 国産陶器の系譜と層年代 資料集」中世土器研究会

中世土器研究会事務局 2015「東播系須恵器群の分類と編年」「中近世土器の基礎研究」26

奈良市教育委員会 2014「南都出土中近世土器資料集・奈良町高天町遺跡（H）第 559 次調査」出土資料・

備前市教育委員会 2013「備前窯詳細分布調査報告書」

藤澤良祐 2005「施釉陶器生産技術の伝播」「中世窯業の諸相・生産技術の展開と編年」発表要旨集 全国シンポジウム「中世窯業の諸相・生産技術の展開と編年」実行委員会

藤澤良祐 2008「中世瀬戸窯の研究」高志書院

森田融 1982「14-16世紀の白磁の分類と編年」「貿易陶磁器研究」No.2 貿易陶磁器研究会

山崎信二 2000「中世瓦の研究」奈良国立文化財研究所

山本信夫 2000「太宰府茶条跡 XV-陶磁器分類編」太宰府市教育委員会

10. 発掘調査及び整理報告書作成にかかる費用については、大和ハウス工業株式会社が全額負担した。
11. 当該調査において出土した遺物、実測図、写真は奈良市教育委員会において保管している。
12. 本書の執筆は第3章遺物を村田裕介(公益財団法人元興寺文化財研究所)、それ以外を坂本が行った。
　本書の編集は坂本が行い、芝がこれを補佐した。
13. 発掘調査及び報告書作成に際しては、以下の方々からのご助言、ご協力を頂いた。記して感謝申し上げたい。
　奈良市教育委員会、奈良県教育委員会、原田香織、狭川真一（敬称略、順不同）

目次

第1章 調査に至る経緯と調査体制	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査の経過（調査日誌抄）	2
第2章 周辺環境と調査体制	3
第1節 遺跡の立地と環境	3
第2節 周辺の既往調査	4
第3節 本調査の課題	5
第3章 調査の成果	6
第1節 基本層序と遺構面の認定	6
第2節 奈良時代の遺構と遺物	6
第1項 遺構	6
第2項 遺物	11
第3節 中世の遺構と遺物	11
第1項 遺構	11
第2項 遺物	34
第4節 近世の遺構と遺物	59
第1項 遺構	59
第2項 遺物	59
第5節 表土出土遺物	60
第4章 総括	61
第1節 遺構の変遷	61
第2節 特徴的遺物について	63

図版目次

図 1	調査地位置図 (S=1/25,000)	3
図 2	今回の調査地と既往の調査地 (『平城京条坊総合地図』を変更) (S=1/2,000)	4
図 3	SD388 平面・断面図 (S=1/40)	6
図 4	全体平面図 (S=1/200)	7
図 5	壁面上層断面図 (1) (S=1/80)	9
図 6	壁面上層断面図 (2) (S=1/80)	10
図 7	SP392 平面・土層断面図 (S=1/40)	11
図 8	SD388 出土遺物実測図 (S=1/3)	11
図 9	SB290 平面・土層断面図 (平面 S=1/80・断面 S=1/40)	12
図 10	SB325 平面・土層断面図 (S=1/40)	13
図 11	SB330 平面・土層断面図 (S=1/40)	14
図 12	SA295 平面・土層断面図 (S=1/40)	15
図 13	SA300 平面・土層断面図 (S=1/40)	15
図 14	SE055 平面・土層断面図 (S=1/40)	16
図 15	SE060 平面・土層断面図 (S=1/40)	17
図 16	SE100 平面・土層断面図 (S=1/40)	17
図 17	SE120 平面・土層断面図 (S=1/40)	18
図 18	SE190 平面・土層断面図 (S=1/40)	18
図 19	SE235 平面・土層断面図 (S=1/40)	19
図 20	SE240 平面・土層断面図 (S=1/40)	19
図 21	SK025 平面・土層断面図 (S=1/40)	20
図 22	SK050 平面・土層断面図 (S=1/40)	21
図 23	SK070 平面・土層断面図 (S=1/40)	21
図 24	SK075 土層断面図 (S=1/40)	21
図 25	SK080 平面・土層断面図 (S=1/40)	22
図 26	SK085 土層断面図 (S=1/40)	22
図 27	SK090 土層断面図 (S=1/40)	23
図 28	SK105 平面・土層断面図 (S=1/40)	23
図 29	SK110 土層断面図 (S=1/40)	23
図 30	SK115 平面・土層断面図 (S=1/40)	24
図 31	SK165 平面・土層断面図 (S=1/40)	24
図 32	SK170 土層断面図 (S=1/40)	25
図 33	SK180 平面・土層断面図 (S=1/40)	25
図 34	SK185 土層断面図 (S=1/40)	25

図 35 SK215 平面・土層断面図 (S=1/40)	26
図 36 SK230 平面・土層断面図 (S=1/40)	26
図 37 SK245 平面・土層断面図 (S=1/40)	27
図 38 SK250 平面・土層断面図 (S=1/40)	27
図 39 SK260 平面・土層断面図 (S=1/40)	28
図 40 SK305 平面・土層断面図 (S=1/40)	29
図 41 SK315 平面・土層断面図 (S=1/40)	29
図 42 埋表遺構平面・土層断面図、SX210 平面図 (S=1/40)	30
図 43 SX145 平面図、SX010・145 土層断面図 (平面 S=1/80・断面 S=1/40)	31
図 44 SX030 平面・土層断面図 (S=1/40)	32
図 45 SX040 土層断面図 (S=1/40)	33
図 46 SX140 土層断面図 (S=1/40)	33
図 47 SX175・210 土層断面図 (S=1/40)	33
図 48 SB290・325・330、SA295・300 出土遺物実測図 (S=1/3)	35
図 49 SEO55 出土遺物実測図 (S=1/3・1/4)	36
図 50 SEO60 出土遺物実測図 (S=1/3)	37
図 51 SE100 出土遺物実測図 (1) (S=1/3)	39
図 52 SE100 出土遺物実測図 (2) (S=1/3・1/5)	40
図 53 SE120 出土遺物実測図 (S=1/3)	41
図 54 SE190 出土遺物実測図 (1) (S=1/3)	42
図 55 SE190 出土遺物実測図 (2) (S=1/5)	43
図 56 SE235 出土遺物実測図 (1) (S=1/3・1/4)	44
図 57 SE235 出土遺物実測図 (2) (S=1/3)	45
図 58 SE240 出土遺物実測図 (S=1/3)	47
図 59 SG005 出土遺物実測図 (S=1/3)	47
図 60 SK025・050・075 出土遺物実測図 (S=1/3)	48
図 61 SK080・105 出土遺物実測図 (S=1/3)	49
図 62 SK110 出土遺物実測図 (S=1/3・1/5)	50
図 63 SK165・170・180 出土遺物実測図 (S=1/3)	51
図 64 SK185 出土遺物実測図 (S=1/3)	52
図 65 SK215・245 出土遺物実測図 (S=1/3・1/5・1/6)	53
図 66 SK250・260・293 出土遺物実測図 (S=1/3)	54
図 67 SK305・310・315・376 出土遺物実測図 (S=1/3)	55
図 68 埋表遺構出土遺物実測図 (S=1/3・1/2)	56
図 69 SX010 出土遺物実測図 (S=1/3)	57
図 70 SX140・145・175 出土遺物実測図 (S=1/3)	58
図 71 SP189 出土遺物実測図 (S=1/3)	58
図 72 SE216・285 出土遺物実測図 (S=1/3)	59
図 73 表土出土遺物実測図 (S=1/3・1/2)	60

図 74 左京三条六坊十二坪の遺構変遷 (S=1/400)	62
図 75 唐古・鍵遺跡出土の爪痕付土器 (S=1/8) (藤田 1989 より転載)	63
図 76 鼠の前肢および後肢模式図 (関島 1997 より転載)	63
図 77 瓦器小椀出土例 (S=1/4)	64
図 78 検出遺構配置略図 (S=1/200)	67

表目次

表 1 ~ 10 報告遺物一覧 (1) ~ (10)	69 ~ 78
表 11 ~ 20 検出遺構および出土遺物一覧 (1) ~ (10)	79 ~ 88

写真図版目次

図版 1	図版 7
調査前風景（東から）	SB325a 土層断面（北から）
重機掘削状況（東から）	SB325c 土層断面（北から）
図版 2	図版 8
遺構検出状況（1）（北西から）	SB325e 土層断面（北から）
遺構検出状況（2）（西から）	SB330 全景（北西から）
図版 3	図版 9
調査区全景（1）（東から）	SB330b 土層断面（北から）
調査区全景（2）（西から）	SB330d 土層断面（南から）
図版 4	図版 10
東側拡張区検出状況（東から）	SE055 土層断面（東から）
東側拡張区全景（北から）	SE060 完掘状況（西から）
図版 5	図版 11
SD388 全景（西から）	SE100 土層断面（南から）
SD388 土層断面（東から）	SE100 完掘状況（西から）
図版 6	図版 12
SB290 全景（東から）	SE120 土層断面（東から）
SB325 全景（南西から）	SE120 完掘状況（南から）

- 図版 13
SE190 土層断面（南から）
SE190 完掘状況（北から）
- 図版 14
SE235 土層断面（北から）
SE235 完掘状況（南から）
- 図版 15
SE240 土層断面（北から）
SE240 完掘状況（南から）
- 図版 16
SK025 土層断面（西から）
SK245 土層断面（南から）
- 図版 17
SK250 遺物出土状況（北から）
SK250 土層断面（北から）
- 図版 18
SK260 土層断面（北から）
埋甕遺構検出状況（北から）
- 図版 19
埋め戻し風景（南から）
埋め戻し後風景（東から）
- 図版 20
SD388、SB290・325 出土遺物
- 図版 21
SB325・330、SA295・300、SE055 出土遺物
- 図版 22
SE055 出土遺物
- 図版 23
SE055・060 出土遺物
- 図版 24
SE060・100 出土遺物
- 図版 25・26
SE100 出土遺物
- 図版 27
SE100・120 出土遺物
- 図版 28
SE100 出土遺物
- 図版 29
SE190 出土遺物
- 図版 30
SE190・235 出土遺物
図版 31・32
SE235 出土遺物
図版 33・34
SE240 出土遺物
図版 35
SE240、SG005、SK025・050 出土遺物
図版 36
SK050・075・080 出土遺物
図版 37
SK080・105 出土遺物
図版 38・39
SK110 出土遺物
図版 40
SK165・170・180 出土遺物
図版 41
SK185・215 出土遺物
図版 42
SK215・245 出土遺物
図版 43
SK250・260・293 出土遺物
図版 44
SK305・310・315 出土遺物
図版 45
SK315・376・268 出土遺物
図版 46
SK269・272・281、SX010 出土遺物
図版 47
SX010 出土遺物
図版 48
SX140・145 出土遺物
図版 49
SX145・175 出土遺物
図版 50
SX175、SP189、SE216 出土遺物
図版 51
SE285、表土出土遺物

第1章 調査に至る経緯と調査体制

第1節 調査に至る経緯

令和2年1月10日付けで株式会社はれコーポレーションより、ホテル新築に伴う埋蔵文化財発掘調査の届出が提出された。当地が平城京跡および奈良町遺跡の範囲であることから、奈良県文化財保存課は同年2月28日付けで奈良市教育委員会を通じて発掘調査の実施を指示した。これを受け奈良市教育委員会は発掘調査の実施に向けた協議を開始したが、工期等を勘案した結果、公共機関による発掘調査は困難と判断されたため、公益財団法人元興寺文化財研究所へ発掘調査を依頼することとなった。

公益財団法人元興寺文化財研究所は、同年3月27日付けで奈良県文化財保存課より発掘調査の依頼を受け、株式会社はれコーポレーションから代理人を委任された大和ハウス工業株式会社と同年4月13日付けで平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡発掘調査整理報告書作成業務に係る委託契約を締結した。その後、発掘調査届出を提出のうえ、同年4月16日より現地調査を開始した。

現地調査は同年6月25日に終了し、その後すみやかに整理・報告書作成業務に移行した。現地調査から報告書の刊行に至るまで、株式会社はれコーポレーションおよび大和ハウス工業株式会社の全面的な支援・協力があった。また、奈良県文化財保存課、奈良市教育委員会からの適切なご指導を賜った結果、調査・整理作業を無事に終ることが出来た。関係各位に感謝する次第である。

第2節 調査体制

発掘調査並びに整理・報告書作成は以下の体制で実施した。

(発掘調査)

調査指導：奈良県文化財保存課・奈良市教育委員会

調査主体：公益財団法人元興寺文化財研究所

理事長 辻村泰善

所長 辻村泰善（兼務、令和2年7月まで）

田邊征夫（令和2年7月から）

事務局長 江島和哉

総合文化財センター長 塚本敏夫

文化財調査修復研究グループ

リーダー 金山正子

主務 佐藤亞聖

研究員 村田裕介

研究員 坂本 俊（現地調査担当）

現地作業員：株式会社アート

測量：公益財団法人元興寺文化財研究所・株式会社文化財サービス

(整理報告)

調査指導：奈良県文化財保存課・奈良市教育委員会

調査主体：公益財団法人元興寺文化財研究所

理事長 辻村泰善

所長 田邊征夫

事務局長 江島和哉

総合文化財センター長 塚本敏夫

文化財調査修復研究グループ

リーダー 金山正子

研究員 村田裕介

研究員 坂本 俊（整理報告担当）

研究員 濑戸哲也（令和3年6月から）

技師 江浦 洋（令和3年6月から）

第3節 調査の経過（調査日誌抄）

令和2年

4月16日（木）重機、機材等搬入。奈良市教育委員会立会いのもと、調査区の設定を行う。新型コロナウイルスの蔓延により緊急事態宣言が発令されていた状況下であったため、協議により常時マスク着用等の措置を講じたうえで、重機掘削を開始する。

4月21日（火）重機掘削。黄橙色の地山を確認するが、部分的に留まる。相当数の遺構が重複していると判断された。

4月23日（木）重機掘削。耕土置き場の関係で反転調査となる。調査区東側の遺構検出状況写真撮影。

4月27日（月）地区杭打設。SX010のサブトレを掘削し、土層の様相から落ち込みであることを確認、14世紀頃に埋没か。

5月1日（金）S-45の上層断面図作成。SE055の井戸枠内より錫連弁を施す青磁碗出土。

5月7日（木）SE055の上層断面図作成。S-45を完掘後、床面を遺構検出する。

5月22日（金）SX210を完掘後、床面を遺構検出し、埋糞の据え付け穴を確認。まとまりを持つため、埋糞遺構とする。

5月25日（月）埋糞遺構は、強く削平を受けているのか、据え付け穴には5cm程しか堆積していない状況であった。

5月27日（水）SK250より底部のない土師器釜が出土。出土状況写真撮影および取り上げ。

5月29日（金）調査区東側の全景写真撮影および全体測量を実施する。

6月3日（水）埋め戻しを開始。小西通りの道路側溝を確認することを目的に調査区東側に2×9mの拡張区を設定する。

6月5日（金）調査区東側埋め戻し。東側拡張区の遺構検出状況写真撮影。

6月8日（火）SA295・300、SB325・330を検出。断面図作成。

6月16日（火）調査区西隅に奈良時代の逆L字に屈曲する溝SD388を検出する。溝は調査区外に延びるため、全容は不明。調査区全景写真撮影および全体測量を実施する。

6月19日（金）埋め戻し完了。現地調査終了。

第2章 周辺環境と調査体制

第1節 遺跡の立地と環境

調査地は奈良市小西町30番1、30番2、31番1、31番2、31番3に所在する。平城京の条坊復元では外京域の左京三条六坊十二坪にあたり、東六坊坊間東小路のやや西寄りに位置する。この地域一帯は、奈良坂褶曲と佐保田褶曲の中位段丘面にあたり、中世においては都市域の西辺に相当する。

『奈良坊目拙解』(享保20年)の小西町の項には、興福寺の別院であった宝積院觀音堂が北側会所にかつてあり、天正2年(1574)の地子帳から宝積院町と呼ばれていたと記載している。また、辻の東南会所内には道祖神宮と宝積院から移建された天川弁財天宮があること、元禄2年(1689)の家改帳に記載する41軒の屋敷の内容などが記されており、隣接する東向中町や東向南町と同様に興福寺に関する土地であったことが分かる。

また、調査地から三条大路を挟んだ平城京左京四条六坊九坪ないし十坪には「中市」と呼ばれる市場が設置されていた。中市は『大乘院寺社雜事記』長禄4年(1460)において「中市号木守尻ノ市去応永廿一年四月十七日立始了」とあり、応永21年(1414)の設立であることが史料から窺える。その他にも、現在の飛鳥小学校周辺に位置した「南市」(弘安3年(1280)を初見)や南市に先行する「北市」などの商業空間の存在が知られている。調査地は、興福寺境内のすぐ西にあり、一帯には都市形成において重要な装置が分布する中に位置しているのである。

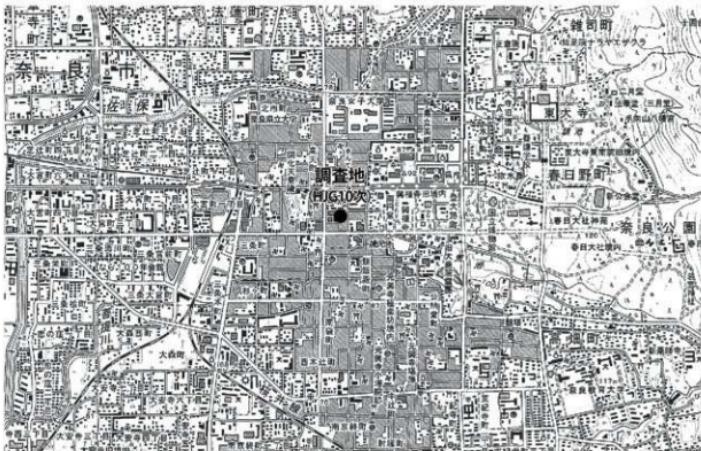


図1 調査地位置図 ($S=1/25,000$)

第2節 周辺の既往調査

調査地周辺では、発掘調査が6件（市HJ89次、HJ176次、HJ228次、HJ556次、HJ614次、奈文研第293-6次）実施されている。全体を通してみると、奈良時代から江戸時代までの各時期の遺構が確認されているが、12世紀以降の遺構が中心的である。遺構密度は高く、種類も豊富であるが面的な調査が少なく建物の復元が十分に出来ていない。遺構変遷や土地利用のあり方について課題を残している。

東六坊坊間東小路は、位置関係から小西通として遺存していると考えられているものの、条坊の推定地よりも西に位置しており、その実態について不明な点が多い。奈文研第293-6次調査において条坊推定地を横断する調査区が設定されたが、遺構はSD7450が西側溝の想定位置にあたるのに対して東



図2 今回の調査地と既往の調査地（『平城京条坊総合地図』を改変）（S=1/2,000）

側溝は検出されなかった。SD7450 は、小西通を遺存地割と見た場合には東側溝に位置づけることができるが、14～15世紀の遺物を含み、かつ東肩のみの検出で遺構の全体像が不明である点から、決め手を欠いているのが現状である。

一方、市497次調査では11世紀末頃の土坑（SK01）から鉄滓、17世紀中頃以降の土坑（SK15）から獸骨が出土しているほか、市559次調査では11世紀末～12世紀初頭の土坑からの椀形鉄滓をはじめ、16世紀の土坑や不明遺構からは鉄滓や銅板などが出土しており、金属生産に関する遺構が検出されている。また、市559次調査や奈文研293-6次調査では、獸骨やそれらを加工したもの、用途不明の鹿角製品が11世紀末から16世紀までの土坑や井戸などの遺構から出土している。このように、調査地周辺では様々な生産活動を示す痕跡が確認されている。

第3節 本調査の課題

このような周辺の既知の調査成果を踏まえ、本調査では当地における中世から近世にかけての土地利用のあり方と変遷、奈良時代の遺構の有無、小西通付近での道路に関する遺構を確認し、東六坊間東小路と位置づけられるのか検証することを主な課題とした。なお、東六坊間東小路の検討のため、調査区の東側に2×9mの拡張区を設定した。

《参考文献》

- 池田裕英 2009 「平城京跡（左京三条六坊十一坪）・奈良町遺跡の調査 第556次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成18（2006）年度』奈良市教育委員会
- 池田裕英 2011 「平城京跡（左京三条六坊十二坪）・奈良町遺跡の調査 第614次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成20（2008）年度』奈良市教育委員会
- 奥井智子 2014 「平城京跡（左京三条六坊七坪）・奈良町遺跡の調査 第650次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成23（2011）年度』奈良市教育委員会
- 佐藤亜聖・大橋有佳・吉田芽依 2021 「平城京左京三条六坊十一坪・奈良町遺跡（HIG9次）一令和元年度発掘調査報告書－」
公益財団法人元興寺文化財研究所
- 立石堅志 1987 「平城京左京（外郭）三条六坊十二坪・円證寺旧境内の調査 第89次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査概要報告 曜和60年度』奈良市教育委員会
- 中島和彦 2006a 「平城京跡（左京四条六坊八坪）・奈良町遺跡の調査 第490次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成15年度』奈良市教育委員会
- 中島和彦 2006b 「平城京跡（左京三条六坊十一坪）・奈良町遺跡の調査 第497次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成15年度』奈良市教育委員会
- 中島和彦・池田裕英 2009 「平城京跡（左京三条六坊十坪）・奈良町遺跡の調査 第559次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成18（2006）年度』奈良市教育委員会
- 中島和彦・関野豊 1993 「平城京左京三条六坊五坪の調査 第269次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成4年度』奈良市教育委員会
- 中島和彦・三好美穂・立石堅志 1992 「平城京左京三条六坊十二坪の調査 第228次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成3年度』奈良市教育委員会
- 森下恵介 1990 「平城京左京三条六坊十二坪の調査 第176次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成元年度』奈良市教育委員会
- 山下信一郎・次山淳 1999 「左京三条六坊（興福寺西院）の調査－第293-6次」
- 『奈良国立文化財研究所年報 1999-Ⅲ』奈良国立文化財研究所
- 山前智教 2002 「平城京跡（左京三条六坊六坪）・奈良町遺跡の調査 第449次」
- 『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成12年度』奈良市教育委員会

第3章 調査の成果

第1節 基本層序と遺構面の認定

調査区の地山面は平坦で、東西南北の比高差はほぼ無い。層序は、層厚約0.6mの近現代盛土、次いで層厚0.1～0.3mの焼土層があり、これを除去すると約0.4mの近世の整地土が存在する。焼土層は、北魚屋西町を除いて類焼した宝永元年（1704）の南都大火など、江戸時代に複数回起きた火災に起因するものと想定される。盛土による削平を受けているが、調査区全体で点的に確認できる土層である。近世整地土を除去すると、大阪層群を母材とする細砂層の地山が存在し、この細砂層の上面で複雑に重複する遺構を検出したことから、遺構面と認定した。なお、細砂層には遺物を含まず、細砂以下のシルト層からも遺物の出土はみられなかった。

第2節 奈良時代の遺構と遺物

第1項 遺構

溝

SD388（図3、図版5）

調査区西北端で検出した溝である。幅0.31～0.87m、深さ0.21mを測り、断面形態はレンズ状を呈する。溝はX=-146,115.4、Y=-158,52.2の地点でゆるやかに屈曲するが、調査区外に延びるため全体の平面プランは不明である。

出土遺物は、須恵器杯Aなどで、奈良時代の遺構と考えられる。

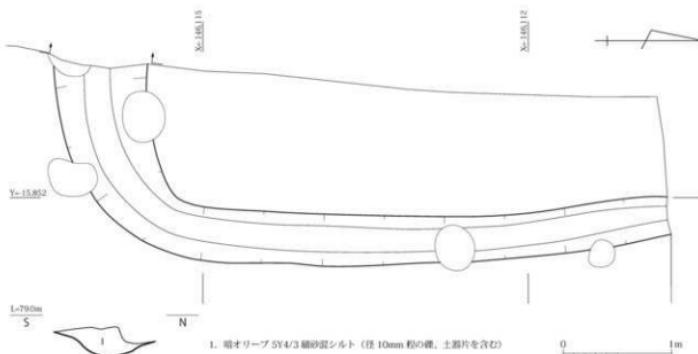


図3 SD388 平面・断面図 (S=1/40)

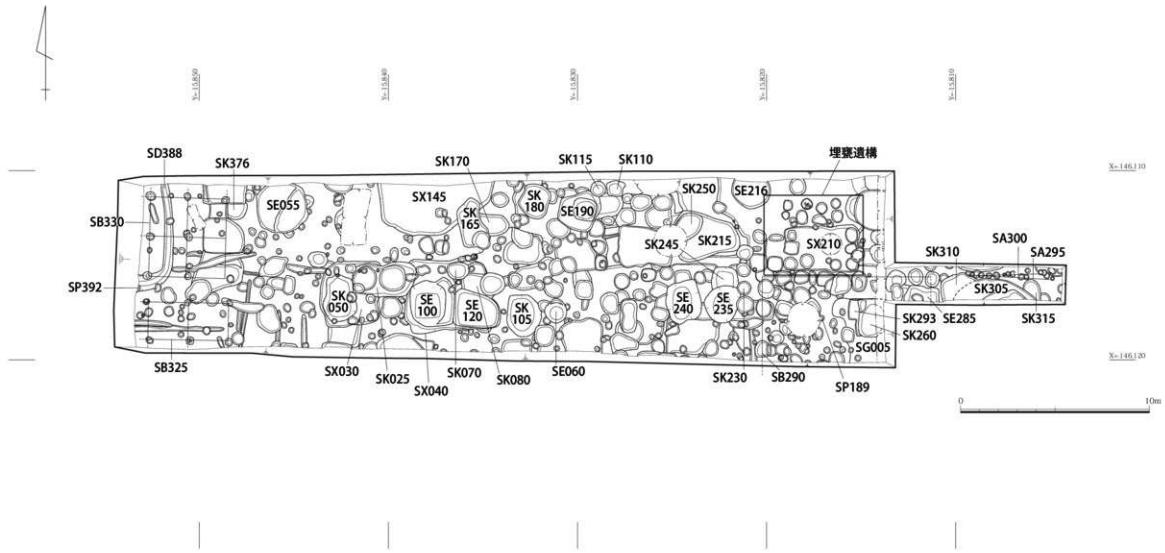
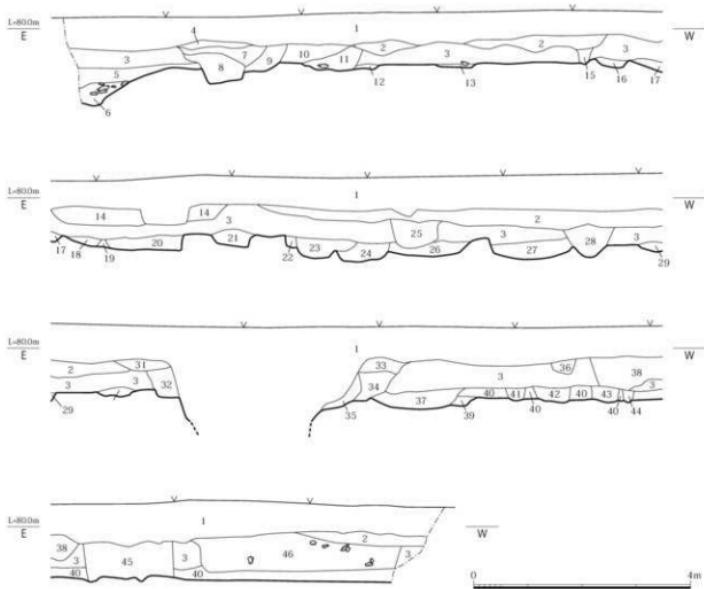


図4 全体平面図 (S=1/200)

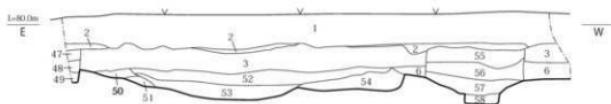
南壁



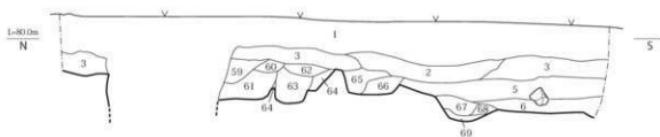
1. 黒 10YR4/4 細砂混シルト (10 ~ 30mm 程の礫、陶器片を含む)
(近現代土)
2. 白周 10YR3/1 粗砂混シルト 多量の焼土、炭化物、10 ~ 40mm 程の礫、
陶器片を含む)
3. 白周 10YR3/4 細砂混シルト (10 ~ 20mm 程の礫、遺物を含む)
(近世土)
4. 白オーリープ周 2.5Y3/2 細砂混粘土 (土層片、炭化物を含む)
5. 黒周 10YR3/2 シルト (大粒の片岩、土塊片、50mm 程の礫を含む) (S0005)
6. 灰白周 10YR4/3 細砂 (土層片、10 ~ 30mm 程の礫を含む) (S0005)
7. 白オーリープ周 2.5Y3/3 細砂混粘土 (土層片、炭化物、地山ブロックを含む)
8. オリーブ周 5Y2/2 シルト (30mm 程の礫、土層片、炭化物、地山ブロッ
クを含む)
9. 黑周 2.5Y3/2 黏土混細砂 (50mm 程の礫、地山ブロックを含む)
10. 黑周 2.5Y3/2 細砂 (50mm 程の礫、土層片、地山ブロックを含む)
11. 黑周 2.5Y3/2 細砂混粘土 (100mm 程の礫、土層片、地山ブロックを含む)
12. オーリープ周 2.5Y4/4 細砂混粘土 (地山ブロックを含む)
13. 黄周 2.5Y5/4 細砂混粘土 (炭化物、地山ブロックを含む)
14. オリーブ周 2.5Y4/4 細砂 (10mm 程の礫を含む)
15. 黒周 2.5Y3/2 細砂 (20mm 程の礫を含む)
16. オリーブ周 2.5Y4/4 細砂混粘土 (土層片、炭化物、地山ブロックを含む)
17. 黒周 2.5Y3/2 細砂混粘土 (20mm 程の礫、地山ブロックを含む)
18. 黑周 2.5Y3/2 細砂混粘土 (100mm 程の礫を含む)
19. 黑周 10YR2/2 細砂混粘土 (土層片を含む)
20. 黄灰 2.5Y4/1 シルト中粗粒 (50mm 程の礫、土層片を含む)
21. オリーブ周 2.5Y4/3 細砂混粘土 (30mm 程の礫、土層片を含む)
22. 黑周 2.5Y3/2 細砂混粘土 (10mm 程の礫を含む)
23. 白オーリープ周 2.5Y3/3 細砂 (50mm 程の礫、土層片、地山ブロックを含む)
24. 白オーリープ周 2.5Y3/3 細砂 (50mm 程の礫、地山ブロックを含む)
25. 黑周 2.5Y3/2 細砂 (50mm 程の礫、土層片、炭化物を含む)
26. オリーブ周 2.5Y4/3 細砂混粘土 (地山ブロックを含む)
27. 白オーリープ周 5Y3/3 細砂混粘土 (50mm 程の礫、炭化物、地山ブロック
を含む)
28. 白オーリープ周 5Y3/2 細砂混粘土 (50mm 程の礫を含む)
29. 白オーリープ周 5Y4/4 細砂混粘土 (70mm 程の礫を含む)

図 5 壁面土層断面図 (1) (S=1/80)

拡張区南壁



東壁



30. 黒泥 2.5Y5/4 細砂 (50mm 程の礁、土壌片を含む)
 31. オリーブ黒 7.5Y3/2 シルト
 32. 白オリーブ灰 2.5Y3/3 細砂 (30mm 程の礁、土壌片、炭化物を含む)
 33. 黒泥 2.5Y5/4 細砂 (150mm 程の礁を含む)
 34. 白オリーブ 5Y4/4 梅細砂粘土 (50mm 程の礁を含む)
 35. オリーブ黄 5Y6/4 梅細砂粘土 (地山ブロックを含む)
 36. 流オリーブ灰 2.5Y3/3 シルト (50mm 程の礁を含む)
 37. オリーブ灰 5Y3/2 細砂粘土 (30mm 程の礁、土壌片を含む)
 38. オリーブ灰 2.5Y2/2 シルト粘土 (100mm 程の礁、土壌片、炭化物を含む)
 39. 明黄泥 2.5Y6/6 梅細砂粘土 (30mm 程の礁を含む)
 40. 黑泥 2.5Y3/2 細砂粘土 (20mm 程の礁、土壌片を含む)
 41. オリーブ灰 5Y2/2 中粒砂粘土 (30mm 程の礁、土壌片を含む)
 42. オリーブ灰 5Y2/2 細砂粘土 (30mm 程の礁、土壌片を含む)
 43. 流オリーブ灰 2.5Y3/3 細砂粘土 (20mm 程の礁を含む)
 44. 黑泥 2.5Y3/2 シルト 粘土 (10mm 程の礁、炭化物を含む)
 45. 黑泥 2.5Y3/2 シルト (10 ~ 50mm 程の礁、土壌片、炭化物を含む)
 46. 流オリーブ 5Y4/2 細砂粘土 (30 ~ 150mm 程の礁、炭化物を多く含む)
 47. オリーブ灰 5Y3/2 中粒砂粘土 (50mm 程の礁、炭化物を含む)
 48. オリーブ灰 5Y3/2 細砂粘土 (10mm 程の礁、土壌片を含む)
 49. 黑泥 2.5Y3/1 細砂粘土 (土壌片を含む)
 50. オリーブ灰 5Y2/2 中粒砂シルト (土壌片を含む)
 51. 黑 5Y2/1 シルト (土壌片、炭化物を含む)
 52. オリーブ灰 5Y3/2 シルト (10 ~ 50mm 程の礁、土壌片、炭化物を含む)
 53. オリーブ灰 5Y3/1 細砂粘土 (30 ~ 100mm 程の礁、土壌片を含む)
 54. オリーブ黒 5Y3/2 細砂粘土 (10 ~ 50mm 程の礁、土壌片、炭化物、地山ブロックを含む)
 55. 黒泥 2.5Y3/2 シルト (10 ~ 100mm 程の礁を含む)
 56. 黒泥 10YR3/2 シルト (2 ~ 10mm 程の礁、土壌片、地山ブロックを含む)
 57. オリーブ黒 5Y3/2 中粒砂粘土 (30 ~ 50mm 程の礁、土壌片を含む)
 58. 灰 5Y4/1 粘土
 59. 灰 黄 10YR4/2 細砂混シルト (小礁、炭化物、地山ブロックを含む)
 60. にぶく 黃泥 10YR3/2 細砂混シルト (小礁、炭化物、地山ブロックを含む) (S-395)
 61. 黑泥 10YR3/2 シルト (地山ブロック、土壌片、小礁を含む) (S-395)
 62. 流泥 10YR3/4 細砂混シルト (少量の地山ブロック、土壌片、炭化物を含む) (S-221)
 63. オリーブ灰 2.5Y4/4 シルト (50 ~ 100mm 程の地山ブロック、20 ~ 30mm 程の礁、土壌片を含む) (S-221)
 64. 黑泥 2.5Y3/2 細砂混シルト (土壌片、炭化物、少量の地山ブロックを含む) (S-229)
 65. 流オリーブ灰 2.5Y3/3 中粒砂混シルト (10 ~ 20mm 程の礁、土壌片、少量の炭化物を含む)
 66. オリーブ灰 2.5Y4/4 細砂 (地山ブロック、土壌片を含む)
 67. 黑泥 2.5Y3/2 中粒砂混シルト (20 ~ 50mm 程の礁、土壌片を含む) (SK260)
 68. 黑泥 10YR3/1 シルト (地山ブロックを含む) (SK260)
 69. 灰 黄 2.5Y6/2 粘土 (SK260)

図 6 壁面土層断面図 (2) (S=1/80)

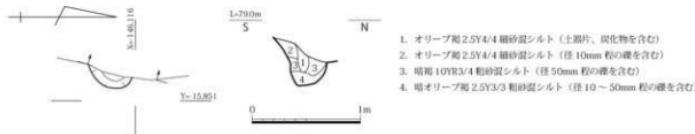


図7 SP392 平面・土層断面図 (S=1/40)

柱穴

SP392 (図7)

調査区西端で検出した柱穴である。東西 0.14m 以上、南北 0.4m、深さ 0.45m を測る。

遺物の出土が無いため明確な年代は捉えられないが、SD388 に先行する重複関係であることから、奈良時代の遺構と考えられる。

第2項 遺物

溝

SD388 (図8、図版20)

須恵器杯（1）杯Aである。内外面とともに回転ナデ調整、底部外面には回転ヘラケズリ調整を施す。口縁部には重ね焼き痕がみられる。



図8 SD388出土遺物実測図 (S=1/3)

第3節 中世の遺構と遺物

第1項 遺構

礎石建物

SB290 (図9、図版6)

調査区東側で検出した礎石建物である。SA295 および SA300 と隣接し、東西五間、南北三間以上の規模を持つ。柱間は東西 1.25 ~ 2.24m、南北 1.68 ~ 2.16m を測り、主軸方向は正方位である。柱穴は幅 0.7 ~ 1.0m 程度の不整円形を呈し、埋土は水平堆積する。礎石は抜き取られていたが、柱穴下では添木を礎石の下に据えている様子が確認できた。不等沈下を防ぐ目的と思われる。

出土遺物は、土師器皿や瓦器などで、13世紀後半頃の遺構と考えられる。

掘立柱建物

SB325 (図10、図版6~8)

調査区西側で検出した掘立柱建物である。SB330 に南接し、東西二間以上、南北一間以上の規模をもつ。建物を構成する東側の柱穴は、S-341・348・364 と重複しており、掘方の痕跡が確認できるのみであった。柱間は東西が 2.10 ~ 2.22m、南北が 1.81m ~ 1.98m を測り、主軸方向は北で東へ 1° 9' 47" 振れるものである。柱穴は幅 0.3 ~ 0.4m 程度の圓丸方形および不整円形を呈し、礎板を持つものが一部で確認できる。

出土遺物から、12世紀前半～中頃の遺構と考えられる。

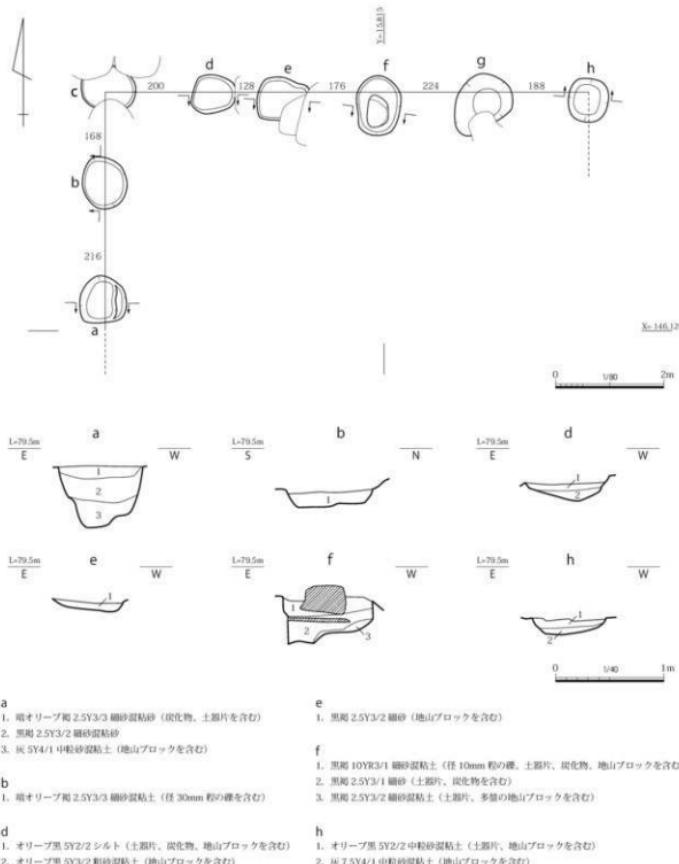
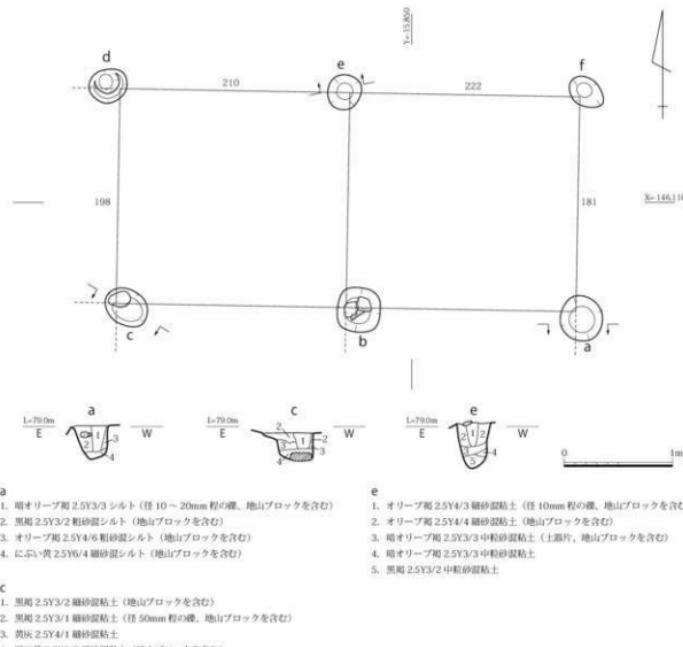


図9 SB290 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

図 10 SB325 平面・土層断面図 ($S=1/40$)**SB330 (図 11、図版 8・9)**

調査区西側で検出した掘立柱建物である。SB325 に北接し、東西二間以上、南北二間以上の規模を持つ。柱間は東西が 2.1 ~ 2.22m、南北が 1.98m を測る、主軸方向は北で東へ $1^{\circ} 9' 47''$ 振れるものである。柱穴は幅 0.3 ~ 0.5m 程度の不整円形を呈する。

出土遺物から、12世紀前半～中頃の遺構と考えられる。

柵・塀**SA295 (図 12)**

東側拡張区の東側で検出した東西方向の柵もしくは塀である。重複関係から SA300 に先行する。SB290 に東接し、東六坊坊間東小路（現小西通り）に向かって東西四間以上の規模を持っていたと考えられる。柱間は 1.32 ~ 1.5m を測る。主軸方向は東で南へ $1^{\circ} 46' 37''$ 振れるものである。柱穴は幅 0.28 ~ 0.38m 程度と小振りで、平面形態は隅丸方形を呈する。

出土遺物から、12世紀後半頃の遺構と考えられる。

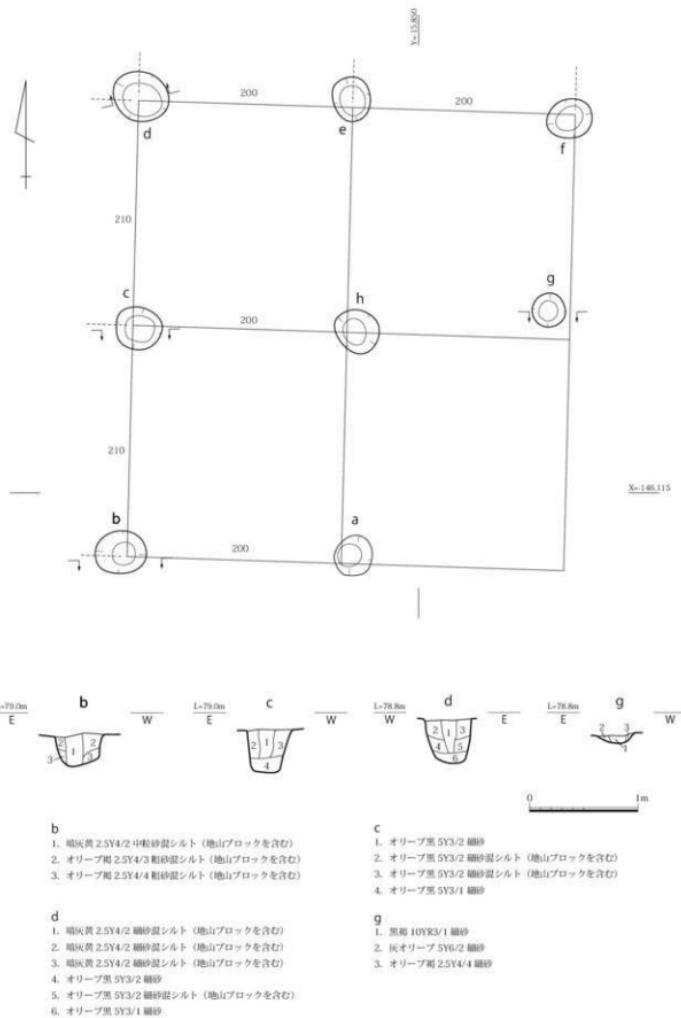


図 11 SB330 平面・土層断面図 (S=1/40)

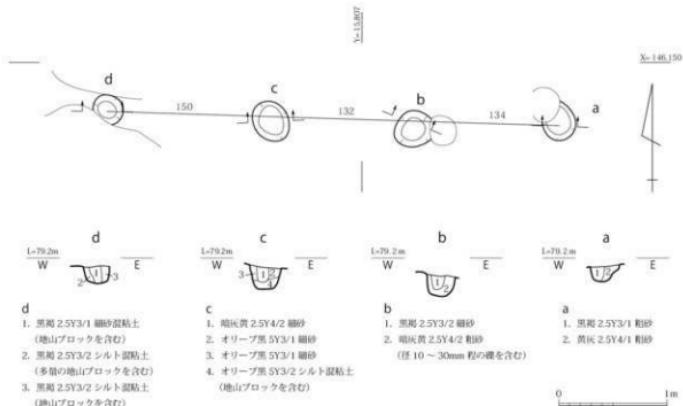


図12 SA295 平面・土層断面図 (S=1/40)

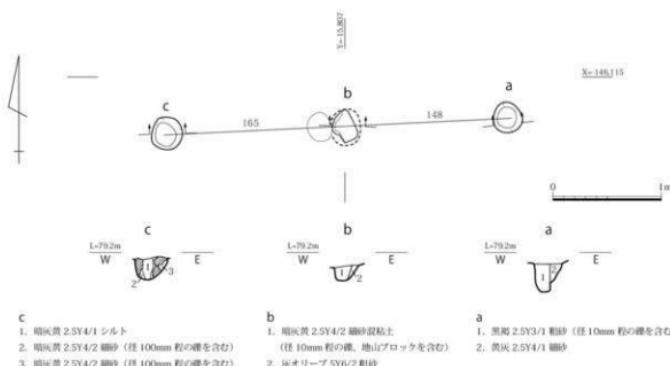


図13 SA300 平面・土層断面図 (S=1/40)

SA300 (図 13)

東側拡張区の東側で検出した東西方向の柵もしくは柵である。重複関係からSA295に後出する。東西二間以上の規模を持ち、柱間は 1.48 ~ 1.65m を測る。主軸方向は東で北へ 2° 18' 14" 振れるものである。柱穴は幅 0.3m 程度で、不整円形を呈する。

出土遺物から、13世紀頃の遺構と考えられる。

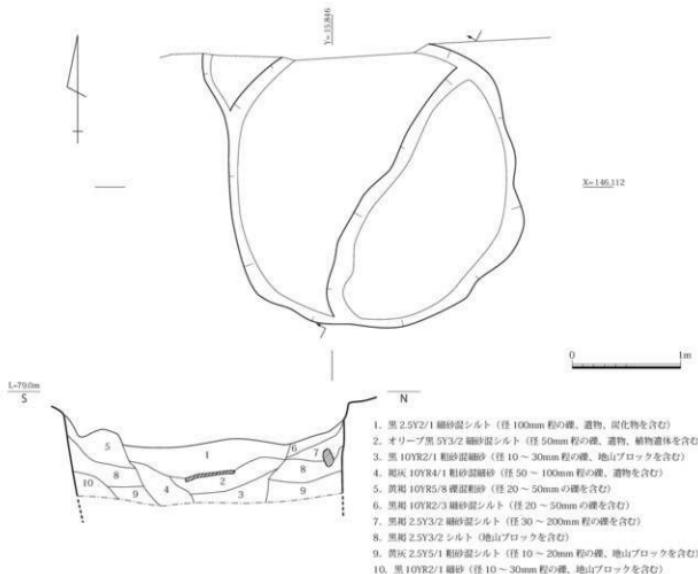


図 14 SE055 平面・土層断面図 (S=1/40)

井戸

SE055 (図 14、図版 10)

調査区西側で検出した井戸である。東西 2.7m、南北 2.52m 以上、深さ 0.86m 以上を測る。調査区北壁に接していたため、安全を考慮して完掘はしていない。井戸枠は抜き取られていたが、埋土の様相から幅 1.56m 程度の規模をもっていたと考えられる。平面形態は円形を呈する。

出土遺物は、土師器皿や青磁碗、雁振瓦などである。14世紀頃には機能していたとみられるが、調査区北壁で近世整地土を切り込んでいることが確認できることから、長期間機能した井戸と推定される。

SE060 (図 15、図版 10)

調査区中央で検出した井戸である。東西 1.16m、南北 1.26m、深さ 0.86m 以上を測り、北側には幅 0.12m 程度の小段が設けられる。狭小のため完掘出来なかったが、井戸枠は抜き取られているようである。埋土に井戸枠の痕跡は確認できなかつたため、構造は不明である。平面形態は円形を呈する。

出土遺物は、土師器皿・釜・台付皿、瓦器碗などで、13世紀後半頃の遺構と考えられる。

SE100 (図 16、図版 11)

調査区中央で検出した井戸である。東西 2.33m、南北 2.44m、深さ 1.3m を測り、東側には、幅 0.74m の小段が設けられる。井戸枠は抜き取られていたが、埋土の様相から幅 0.7m 程度の規模をもっていたと考えられる。平面形態は隅丸方形を呈しており、床面も平滑にしていたものと考えられる。

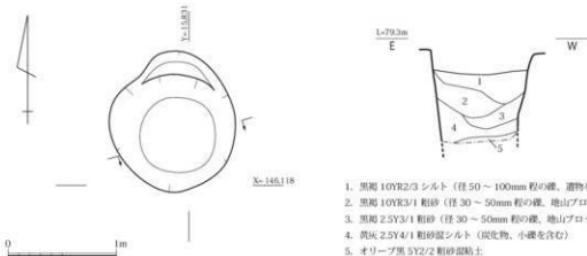


図 15 SE060 平面・土層断面図 (S=1/40)

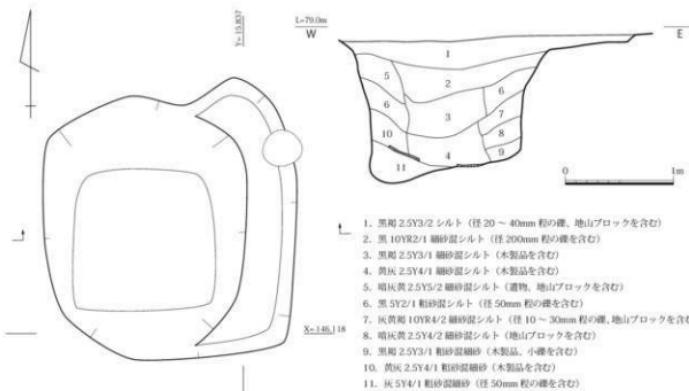


図 16 SE100 平面・土層断面図 (S=1/40)

出土遺物は、土師器皿、瓦器焼・皿、軒丸瓦・軒平瓦などで、12世紀中頃～13世紀前半にかけての遺構と考えられる。

SE120 (図 17、図版 12)

調査区中央で検出した井戸である。重複関係から SE100 に先行すると考えられる。東西 2.4m 以上、南北 1.96m、深さ 0.69m を測る。井戸枠の痕跡等は確認できなかった。平面形態は不整形で、床面は平滑である。

出土遺物は、土師器皿、瓦器皿、輸入白磁碗などで、12世紀頃の遺構と考えられる。

SE190 (図 18、図版 13)

調査区中央で SX010 および SX140 の完掘後に検出した井戸である。重複関係から SP107 や SK115 に先行する。東西 2.22m、南北 2.14m、深さ 1.24m を測り、西側から南側にかけて、幅 0.9m の小段

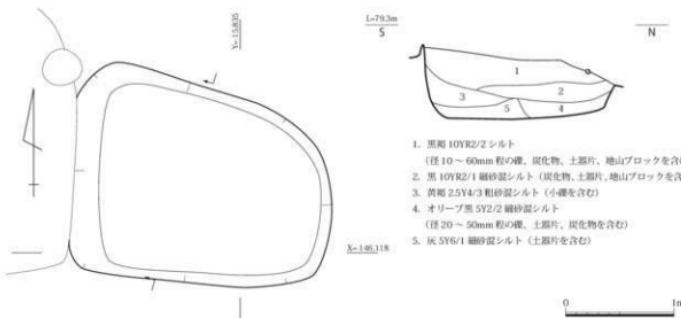


図 17 SE120 平面・土層断面図 (S=1/40)

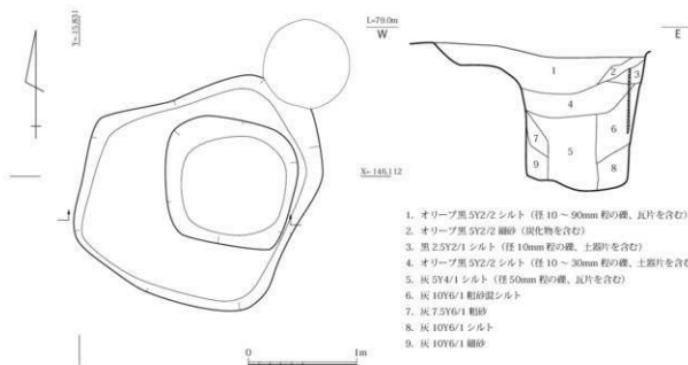


図 18 SE190 平面・土層断面図 (S=1/40)

が設けられる。井戸枠は抜き取られていたが、埋土の様相から幅 0.45m 程度の規模を持っていたと考えられる。平面形態は不整円形だが、床面は比較的平滑にしている。

出土遺物は、土師器皿、黒色土器碗 B 類、軒丸瓦のほか、木製品などで、12 世紀中頃の遺構と考えられる。

SE235 (図 19、図版 14)

調査区東側で検出した井戸である。SB290 の西側に隣接し、重複関係から S-256・257 に先行し、SK245・S-277 に後出す。東西 1.94m、南北 1.96m、深さ 1.62m を測り、断面形態は逆台形を呈する。埋土は水平堆積を基本とし、井戸枠は認められない。中位以下の層は砂混シルトが堆積するが、上層は礫や地山ブロックを含むことから、最終的な埋め戻しは人为的に行われたものと考えられる。

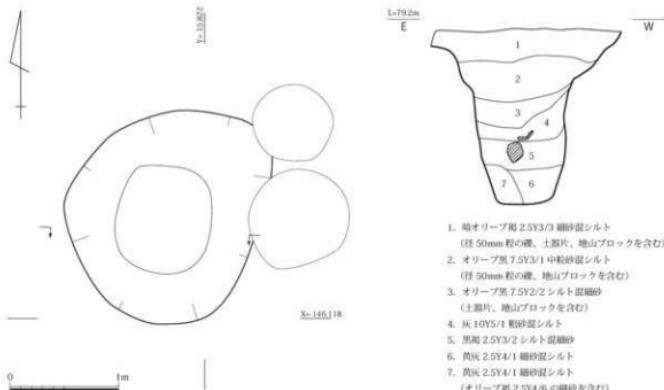


図19 SE235 平面・土層断面図 (S=1/40)

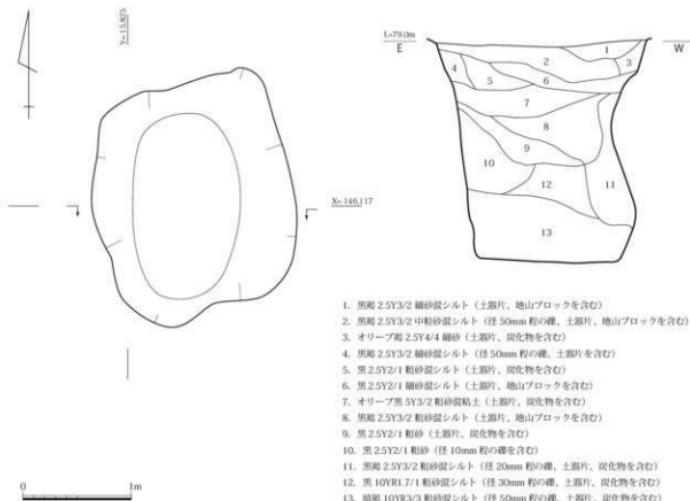


図20 SE240 平面・土層断面図 (S=1/40)



図 21 SK025 平面・土層断面図 (S=1/40)

出土遺物は、土師器皿、瓦器椀・皿、白磁椀、青磁椀のほか、柱材などの木製品で、13世紀頃の遺構と考えられる。

SE240 (図 20、図版 15)

調査区東側で検出した井戸である。SE235 の西側に隣接し、重複関係から S-98・253 に先行する。東西 1.9m、南北 2.18m、深さ 1.98m を測り、平面形態は不整形形を呈する。断面形態は床面を平滑にした箱形であり、井戸枠は確認できなかった。埋土は中位付近を境に堆積が異なっており、地山ブロックや礫を含む細砂～粗砂混シルトが上層に細かく堆積していることから人為的な埋め戻しによる埋没と考えられる。

出土遺物は、土師器皿・釜、瓦器椀・皿、須恵器鉢や白磁耳壺・椀のほか、木製品などで、13世紀中頃の遺構と考えられる。

土坑

SK025 (図 21、図版 16)

調査区中央西寄りで検出した土坑である。重複関係から S-15 に先行し、S-58 に後出する。東西 3.35m、南北 1.72m、深さ 0.18m を測り、断面形態は逆台形を呈する。埋土は大きく 2 層からなり、上層から灰黄褐色シルト、暗灰黄色シルトが堆積する。いずれも地山ブロックを含んでいることから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物から、13世紀前半から中頃の遺構と考えられる。

SK050 (図 22)

調査区中央西寄りで検出した土坑である。重複関係から、SK025・S-17 に先行する。東西 1.75m、南北 2.52m、深さ 0.12m を測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は単層で、地山ブロックを含む黒色粗砂混シルトで埋め戻される。

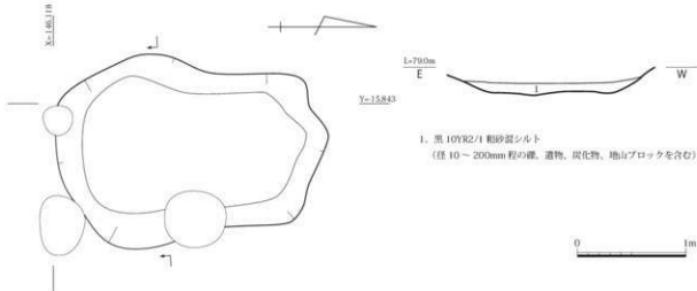


図22 SK050 平面・土層断面図 (S=1/40)

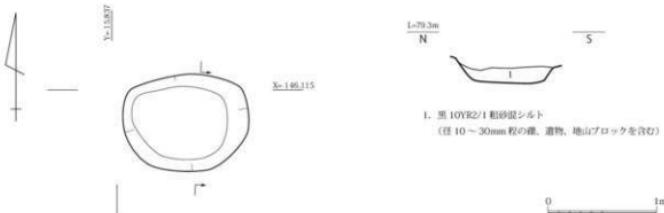


図23 SK070 平面・土層断面図 (S=1/40)



図24 SK075 土層断面図 (S=1/40)

出土遺物は土師器皿、瓦器椀、輸入青磁碗などで、13世紀後半頃の遺構と考えられる。

SK070（図23）

調査区中央でSX040の完掘後に検出した土坑である。重複関係からSK050に後出す。東西0.9m、南北1.16m、深さ0.14mを測り、断面形態は逆台形を呈する。埋土は単層で、地山ブロックと礫を含む黒色粗砂混シルトで埋め戻される。

出土遺物は、土師器皿・釜、瓦器椀などで、中世後半頃の遺構と考えられる。

SK075（図24）

調査区中央でSX040の完掘後に検出した土坑である。重複関係からSE120に後出す。東西0.7m、南北1.0m、深さ0.34mを測り、断面形態は方形を呈する。埋土は3層からなるが、いずれの埋土も礫と地山ブロックを多く含むことから、人為的な埋め戻しによる埋没と考えられる。

出土遺物は、土師器皿、瓦器椀などで、12世紀前半頃の遺構と考えられる。

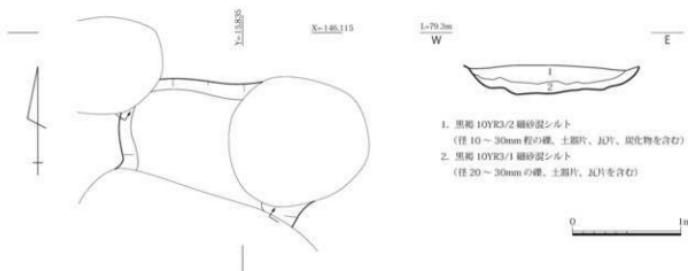


図 25 SK080 平面・土層断面図 (S=1/40)

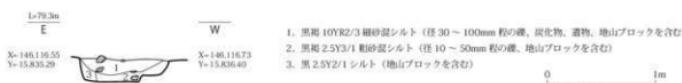


図 26 SK085 土層断面図 (S=1/40)

SK080 (図 25)

調査区中央で SX040 の完掘後に検出した土坑である。重複関係から、SK070・085 に先行し、SE120 に後出する。東西 1.24m、南北 1.9m、深さ 0.26m を測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は 2 層からなり、黒褐色細砂混シルトが水平堆積する。

遺物は多量で、土師器皿・釜、瓦器椀・皿などが出土している。13世紀中頃の遺構と考えられる。

SK085 (図 26)

調査区中央で SX040 の完掘後に検出した土坑である。重複関係から、SE120・SK080 に後出する。東西 0.75m、南北 0.82m、深さ 0.2m を測る。埋土は 3 層からなり、いずれも地山ブロックを含んでいることから、人為的に埋め戻されたと考えられる。

出土遺物は、土師器皿、瓦器椀などで、中世後半頃の遺構と考えられる。

SK090 (図 27)

調査区中央に位置し、SX040 の完掘後に検出した土坑である。重複関係から、SE100 に後出する。東西 0.8m、南北 0.7m、深さ 0.19m を測り、断面形態はレンズ状を呈する。黒褐色粗砂混シルトの埋土には埴土が大量に含まれていたため、火災等の片づけに伴う遺構とも考えられたが、小規模であることや焼土を含む遺構が他に確認されていないことから、火災等の広範囲に影響を及ぼす事象は遺構の成立背景としては考え難いのが現状である。

出土遺物は、土師器皿、瓦器椀・皿などで、中世後半頃の遺構と考えられる。

SK105 (図 28)

調査区中央に位置する土坑である。重複関係から、SE060 や S-78 に先行する遺構である。東西 1.83m、南北 2.22m、深さ 0.42m を測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は 6 層からなり、全体に地山ブロックを含んでいることから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物は、土師器皿などで、12世紀中頃の遺構と考えられる。



図 27 SK090 土層断面図 (S=1/40)

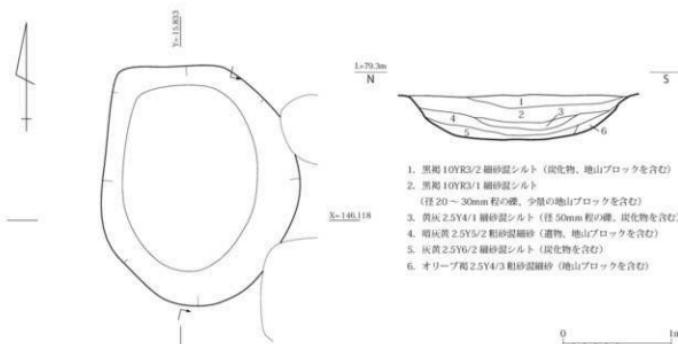


図 28 SK105 平面・土層断面図 (S=1/40)



図 29 SK110 土層断面図 (S=1/40)

SK110 (図 29)

調査区中央で検出した土坑である。重複関係から、SK115 に先行する遺構である。東西 1.3m、南北さ 2.0m、深さ 0.25m を測り、断面形態は逆台形を呈する。埋土は 4 層からなり、地山ブロックと礫を含む黒色シルトなどで人為的に埋め戻される。

出土遺物は、土師器皿、瓦器椀、常滑焼甕などである。常滑焼甕（187）は、後述する埋甕遺構と関連する可能性がある。14 世紀前半頃の遺構と考えられる。

SK115 (図 30)

調査区中央で検出した土坑である。重複関係から、SK110-SE190 の埋没後に形成された。東西 0.79m、南北 0.82m、深さ 0.46m を測り、断面形態は逆台形を呈する。埋土は 3 層からなり、上から黒褐色細砂混シルト、黒褐色粗砂混シルト、黒色細砂混シルトである。特に、最上層には多量の地山ブロックが含まれる。

出土遺物から、中世後半の遺構と考えられる。

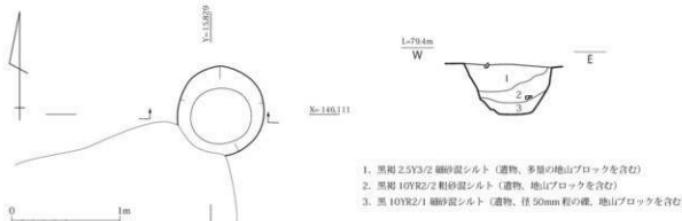


図 30 SK115 平面・土層断面図 (S=1/40)

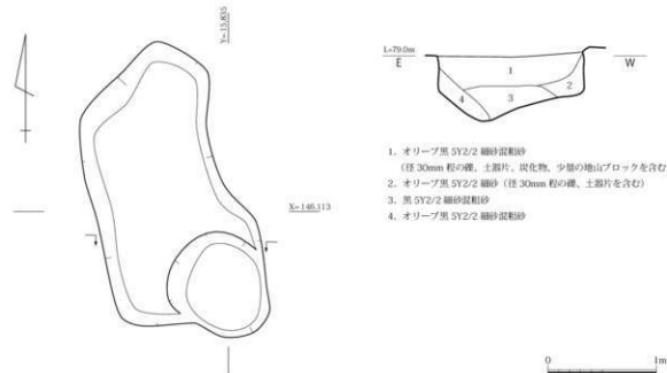


図 31 SK165 平面・土層断面図 (S=1/40)

SK165 (図 31)

調査区中央西寄りで検出した土坑である。重複関係から、SK170 に後出する。東西 1.35m、南北 2.62m、深さ 0.6m を測る。南東隅が東西 0.42m、南北 0.47m の範囲で不整円形に掘りくぼめられていたが、埋土に明確な差は無く、井戸枠も確認できなかったため、広く土坑として捉えた。

出土遺物は、漆器椀や木製品蓋などで、中世後半の遺構と考えられる。

SK170 (図 32)

調査区中央で検出した土坑である。重複関係から、SK165 に後出する遺構である。東西 1.4m、南北 0.7m、深さ 0.11m を測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は単層で、オリーブ黒色中粒砂混シルトで埋没する。

出土遺物から、14 世紀前半頃の遺構と考えられる。

SK180 (図 33)

調査区中央に位置する土坑である。重複関係から S-167 に先行し、SK185 に後出する。東西 1.66m、

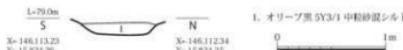


図 32 SK170 土層断面図 (S=1/40)

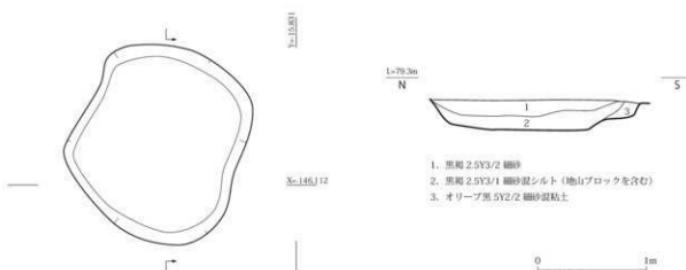


図 33 SK180 平面・土層断面図 (S=1/40)



図 34 SK185 土層断面図 (S=1/40)

南北 1.82m、深さ 0.28m を測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は 3 層からなり、上層から黒褐色細砂、黒褐色細砂混シルト、オリーブ黒色細砂混粘土となる。

出土遺物は、土師器皿や灰釉陶器皿などで、4 世紀前半頃の遺構と考えられる。

SK185（図 34）

調査区中央で検出した土坑である。重複関係から、SK180・SK190 に先行する。遺構の北端は調査区外に延び、東は後出の SX140 により失われている。東西 3.02m 以上、南北 3.4m 以上、深さ 0.17m を測る。埋土は単層で、黒褐色細砂混粗砂で埋没する。

出土遺物は、土師器皿・台付皿、須恵器鉢、瓦器椀などで、13 世紀中頃の遺構と考えられる。

SK215（図 35）

調査区中央東寄りで検出した土坑である。重複関係から SK250 に後出する。東西 3.4m 以上、南北 2.7m、深さ 0.22m を測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は 2 層からなり、上層から黒褐色細砂混シルト、黒色シルトで埋没する。

出土遺物は、土師器皿・甕、黑色土器椀 A 類などで、14 世紀前半頃の遺構と考えられる。

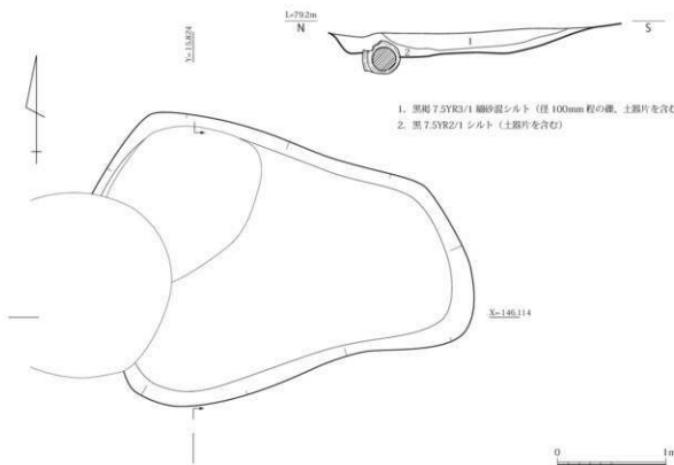


図 35 SK215 平面・土層断面図 (S=1/40)

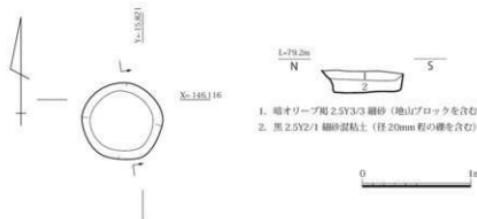


図 36 SK230 平面・土層断面図 (S=1/40)

SK230 (図 36)

調査区中央東寄りで検出した土坑である。SE235 に隣接し、重複関係から SK245 に後出す。東西 0.75m、南北 0.72m、深さ 0.2m を測り、断面形態は逆台形を呈する。埋土は 2 層からなり、上層から暗オリーブ褐色細砂、黒色細砂混粘土で埋没する。

出土遺物が無いため具体的な年代は不明であるが、遺構の重複関係から中世後半の遺構と考えられる。

SK245 (図 37、図版 16)

調査区中央東寄りで検出した土坑である。重複関係から SK230・SE235 に先行する。東西 3.02m、南北 1.0m 以上、深さ 0.17m を測り、断面形態は逆台形を呈する。埋土は 3 層からなり、上層から暗灰色細砂混シルト、暗灰色シルト、オリーブ黒色細砂混シルトで埋没する。いずれの層も地山ブロック

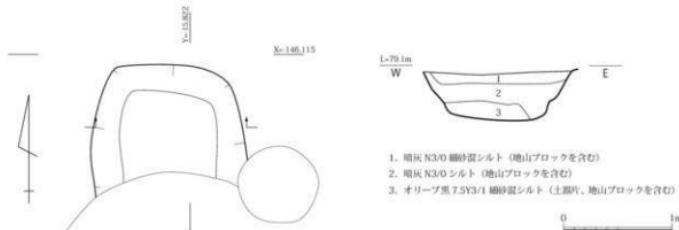


図37 SK245 平面・土層断面図 (S=1/40)

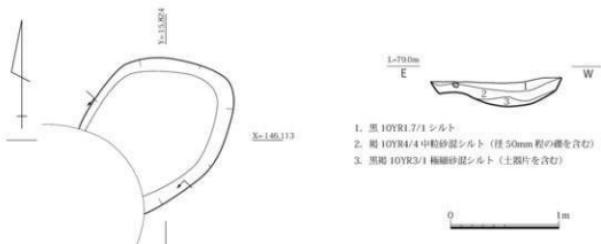


図38 SK250 平面・土層断面図 (S=1/40)

を含んでおり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物は、土師器皿、瓦質土器鉢などのほか、柱材があり、12世紀後半から13世紀前半の遺構と考えられる。

SK250（図38、図版17）

調査区中央東寄りで検出した土坑である。重複関係から、SK215に先行する。東西1.3m、南北1.4m、深さ0.22mを測り、断面形態はレンズ状を呈する。埋土は3層からなり、上層から黒色シルト、褐色中粒砂混シルト、黒褐色極細砂混シルトで埋没する。床而直上からは、底部を欠損する土師器釜が出土している。

出土遺物から、10世紀頃の遺構と考えられる。

SK260（図39、図版18）

調査区東側でSG005の発掘後に検出した土坑である。重複関係から、SK293に先行する。東西1.31m以上、南北2.03m、深さ0.32mを測り、断面形態は台形を呈する。遺構の北西隅に小段を設けるが、東半は調査区外に延びるため平面形態は不明である。埋土は4層からなり、最下層は黄灰色極細砂混シルトが水平堆積するが、第1層から第3層までは斜行する。

出土遺物は、土師器皿・台付皿、瓦器椀などで、12世紀中頃の遺構と考えられる。

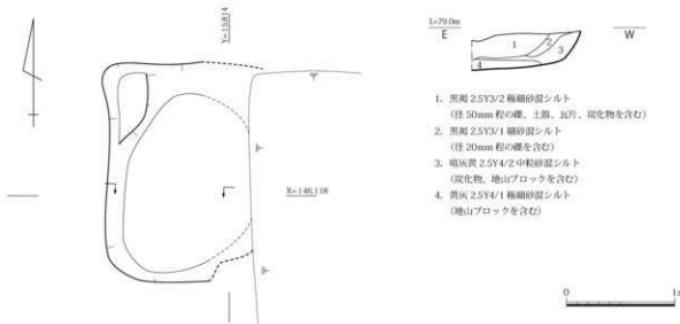


図39 SK260 平面・土層断面図 (S=1/40)

SK293

調査区東側でSG005の完掘後に検出された土坑である。重複関係から、SK260に後出す。東西0.6m以上、南北1.1mを測り、平面形態は隅丸方形である。

出土遺物は、土師器皿、瓦器椀、瓦などで、13世紀前半頃の遺構と考えられる。

SK305（図40）

東側拡張区の中央で検出した土坑である。重複関係から、SK310・315に後出す。東西4.42m、南北1.13m以上、深さ0.52mを測る。南北は調査区外に延びるため平面形態は不明である。埋土は3層からなり、上から暗褐色細砂混シルト、暗褐色中粒砂混シルト、灰黄褐色細砂混シルトで埋没する。堆積の様相から、一度掘り直されているようであり、遺構の縁辺にみえる小段はこの時に形成されたものと考えられる。

出土遺物から、13世紀前半の遺構と考えられる。

SK310

拡張調査区の中央で検出した土坑である。重複関係から、SK305に先行する。東西1.8m以上、南北1.3m以上を測る。

出土遺物から、13世紀後半の遺構と考えられる。

SK315（図41）

拡張調査区東側で検出した土坑である。重複関係から、SK305に先行する。東西0.86m、南北1.08m、深さ0.14mを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は2層からなり、上から黒色シルト、灰黄色粗砂で埋められる。

出土遺物から、12世紀前半の遺構と考えられる。

SK376

調査区西側で検出した土坑である。重複関係から、S-341・371に先行する。東西1.0m以上、南北0.8m以上を測る。

出土遺物から、12世紀の前半の遺構と考えられる。

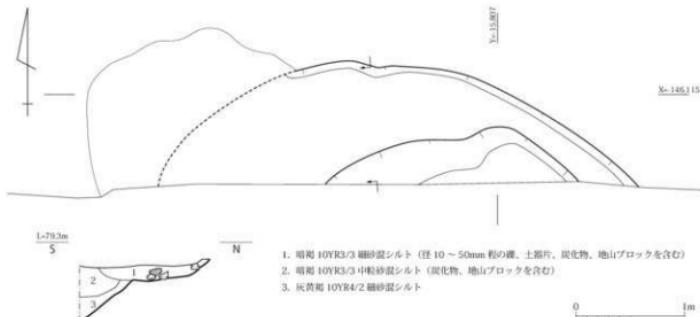


図40 SK305 平面・土層断面図 (S=1/40)

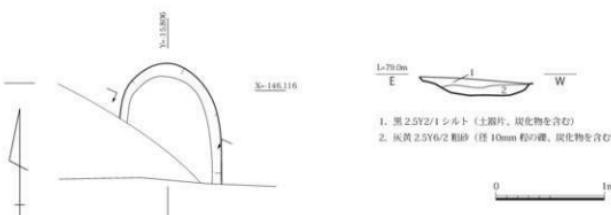


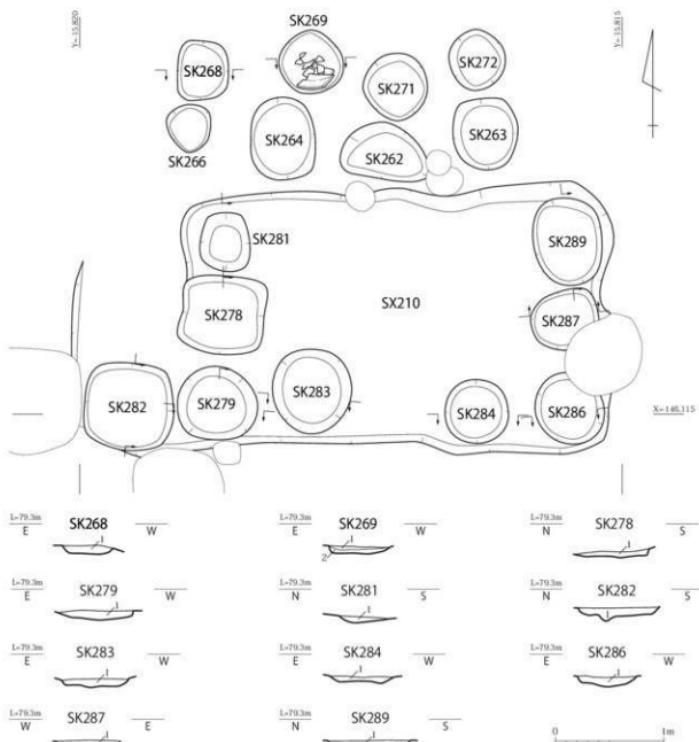
図41 SK315 平面・土層断面図 (S=1/40)

埋葬遺構 (図42、図版18)

調査区東側でSX210の完掘後に17基の埋葬の据え付け穴を検出した。据え付け穴は、東西0.44～0.82m、南北0.44～0.82mを測り、平面形態は不整円形ないし隅丸方形を呈する。断面形態は皿状ないし逆台形を呈するが、深さ0.06～0.12mと残存状況は悪い。

据え付け穴の配置を見ると、SK262・263・264・266・268・269・271・272の8基の群とSK278・279・281・282・283・284・286・287・289の9基の群でグルーピングできる。後者については地山を一段掘り窓められた所に据え付けられており、地下室などの存在も想定できるが、周辺の遺構で復元できた建物はSX210に先行するSB290のみであるため、位置づけ出来ないのが現状である。この配置の違いについては時期差の可能性もあるが、出土遺物が少量であることから明確な時期差は見いだせなかった。

出土遺物は、遺構の残存状況が良好でなかったため、少量であった。SK268・269・272・281からは、土師器皿、国産陶器壺、銭などが出土しており、14世紀前半頃の遺構と考えられる。

**SK268**

1. 黒泥 10YR3/1 シルト
(10mm程の礫、土塊片を含む)

SK269

1. 黒泥 10YR3/1 シルト混細砂
(土塊片、地山ブロックを含む)
2. 黑泥 10YR3/1 シルト混細砂(地山ブロックを含む)

SK278

1. 黑泥 10YR3/1 シルト混細砂 (土塊片を含む)

SK279

1. 喀斯特リーフ周 2.5Y3/3 シルト混細砂
(径 10mm 程の礫、土塊片、炭化物を含む)

SK281

1. 黒泥 10YR3/1 シルト混細砂 (土塊片を含む)

SK282

1. オリーブ黒 5Y3/1 細砂混粘土
(径 10mm 程の礫、土塊片、地山ブロックを含む)

SK283

1. 黑泥 2.5Y3/2 細砂
(径 20mm 程の礫、炭化物を含む)

SK284

1. 黑泥 2.5Y3/2 シルト混細砂
(土塊片、地山ブロックを含む)

SK286

1. 黒泥 10YR3/2 シルト混細砂
(径 10mm 程の礫、土塊片を含む)

SK287

1. 黑泥 10YR3/2 細砂
(土塊片、炭化物、粘土を含む)

SK289

1. 黑泥 10YR3/1 細砂
(径 10mm 程の礫、粘土、炭化物を含む)

図 42 埋藏遺構平面・土層断面図、SX210 平面図 (S=1/40)

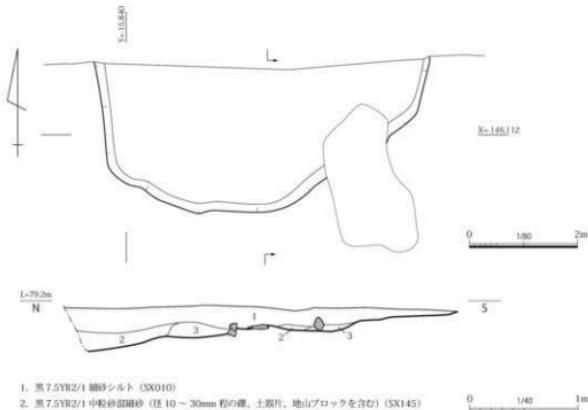


図 43 SX145 平面図、SX010・145 土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

池

SG005

調査区南東隅で検出した池である。東西2.7m、南北3.4mを測る。床面に粘土を貼り付けた痕跡は確認できなかったが、埋土には大量の瓦片を含んでいた。建物の機能が失われた後、転用不可能な瓦の細片とともに埋め戻したものとみられる。

出土遺物から、13世紀前半～中頃の遺構と考えられる。

不明遺構

SX010（図43）

調査区北端で検出した。西に広く伸び、北に向かって緩やかに傾斜する。東西約17.0m、南北3.64m、深さ0.2mを測り、黒色細砂混シルトで埋没する。地盤を平均化するための整地土の可能性も考えたが、埋土には締まりがなく、遺物が豊富に出土することから落ち込みとして捉えた。

出土遺物は、土師器皿、黒色土器椀A類、瓦器椀、瓦質土器などで、14世紀中頃の遺構と考えられる。

SX030（図44）

調査区中央西寄りで検出した。東西3.12m、南北3.36m、深さ0.22mを測り、断面形態は皿状を呈する。SK050などの遺構の埋土が沈下して形成された凹みを埋めたもので、平面形態は不整形を呈する。埋土は3層が斜行して堆積する。

出土遺物から、中世後半頃の遺構と考えられる。

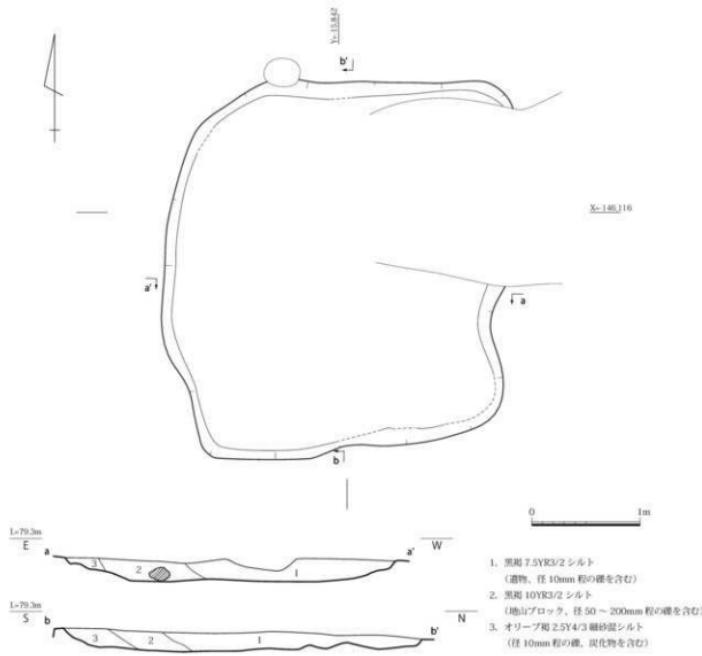


図 44 SX030 平面・土層断面図 (S=1/40)

SX040 (図 45)

調査区中央西寄りで検出した。東西 4.24m、南北 3.58m、深さ 0.26m を測り、断面形態は皿状を呈する。SX030 と同様に、SE100・120 や SK080 などの遺構埋土の沈下によって形成されたと考えられ、2 層の埋土が水平堆積する。

出土遺物から、中世後半頃の遺構と考えられる。

SX140 (図 46)

調査区中央で検出した。SX030・040 と同様に遺構埋土が沈下して形成されたものと考えられる。埋土は単層で、断面形態は皿状を呈する。

出土遺物から、13 世紀後半頃の遺構と考えられる。

SX145 (図 43)

調査区北端で検出した。SX010 の完掘後に検出した一段深い部分が SX145 である。東西 5.8m、南北 2.8m、深さ 0.2m を測る。規模や位置から池の可能性も考えて調査を進めたが、不明瞭な肩部と粘土等の溜水装置が無いこと、埋土の様相などから落ち込みと捉えた。埋土は 2 層からなり、黒色中粒

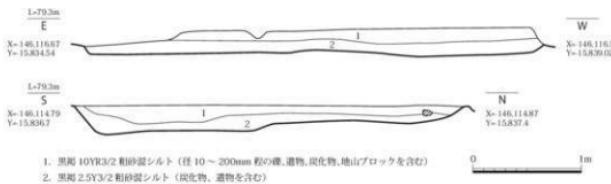


図 45 SX400 土層断面図 (S=1/40)

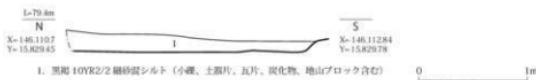


図 46 SX140 土層断面図 (S=1/40)

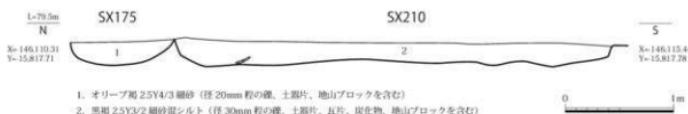


図 47 SX175・210 土層断面図 (S=1/40)

砂混細砂、灰色中粒砂混細砂で埋没するが、調査区全体が北に傾斜する地形であったと推定される。SX145の埋没後、SX010が広く被覆する。

出土遺物は、土師器皿や砥石などで、14世紀中頃の遺構と考えられる。

SX175（図47）

調査区東側で検出した。東西 5.0m 以上、南北 0.96m 以上、深さ 0.22m を測り、SX210 とは南側肩部が接している。検出状況では溝状を呈するが、遺構は調査区外に延びるため平面形態は不明である。埋土は単層で、地山ブロックを含むオリーブ褐色細砂で埋没する。

出土遺物は、土師器皿・台付皿などで、14世紀中頃の遺構と考えられる。

SX210（図42・47）

調査区東側で検出した。東西 5.0m、南北 4.4m、深さ 0.24m を測り、埋甕遺構に被覆する。SX210 の上面では埋甕の据え付け穴は検出されていないため、埋甕遺構の廃絶後に形成されたものと考えられる。埋土は単層で、黒褐色細砂混シルトで埋没する。

出土遺物から、中世後半頃の遺構と考えられる。

柱穴

SPI89

調査区東側で検出した柱穴である。近代の井戸で遺構の一部が破壊されているが、南北 0.42m、深さ 0.4m を測る柱穴である。埋土は 4 層からなり、柱痕が確認できる。

出土遺物は、土師器皿、軒丸瓦などで、土師器皿の年代から 14世紀中頃の遺構と考えられる。

第2項 遺物

礎石建物

SB290 出土遺物 (図48、図版20)

土師器皿 (2~13) いずれも A群である。6・9は「て」字状口縁をもつ皿Aである。4は内外面に被熱痕が認められる。

須恵器鉢(14) 内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁端部は外方に面を持ち、1条の浅い凹線が廻る。

瓦器椀 (15・16) 15は内面のヘラミガキ調整はやや粗いが、外面へのヘラミガキ調整は施されている。

口縁端部は外上方へ伸びる。Ⅲ段階C型式のものである。16は内外面ともに密なヘラミガキ調整を施す。

I段階のものである。

石製品砥石 (17) 凝灰岩製である。断面は方形を呈し、4面を砥面として使用している。置き砥石として利用されたものと考えられる。

掘立柱建物

SB325 出土遺物 (図48、図版20・21)

土師器皿 (18~20) いずれも A群である。底部を押し上げる形態のものが含まれる。

瓦器椀 (21・22) 21は内面のヘラミガキ調整はやや粗いが、外面へのヘラミガキ調整は体部中位まで施されている。Ⅱ段階のものである。22は内面のヘラミガキ調整は密だが、外面へのヘラミガキ調整は施されていない。見込みには連結輪状暗文を有する。断面逆台形の高台を貼り付ける。Ⅱ段階B型式のものである。

SB330 出土遺物 (図48、図版21)

瓦器椀 (23・24) ともに内面には密なヘラミガキ調整、外面中位までヘラミガキ調整を施し、断面逆台形の高台を貼り付ける。見込みには23は連結輪状暗文、24はジグザグ状暗文を有する。23はⅡ段階A型式、24はI段階D型式のものである。

柵・堀

SA295 出土遺物 (図48、図版21)

土師器皿 (25・26) いずれも A群である。25は口縁部が内湾気味に立ち上がり、端部は丸くおさめる。26は「て」字状口縁をもつ皿Aである。

SA300 出土遺物 (図48、図版21)

土師器釜 (27・28) いずれも大和H₁型である。内面には當て具痕が残る。27は萼下部以下に煤の付着がみられる。

井戸

SE055 出土遺物 (図49、図版21~23)

土師器皿 (29・30) いずれも A群である。29は底部と口縁部際に焼成後の穿孔がある。

国産陶器甕 (31) 常滑焼である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、口縁端部は上下に拡張し、外方に面を持つ。

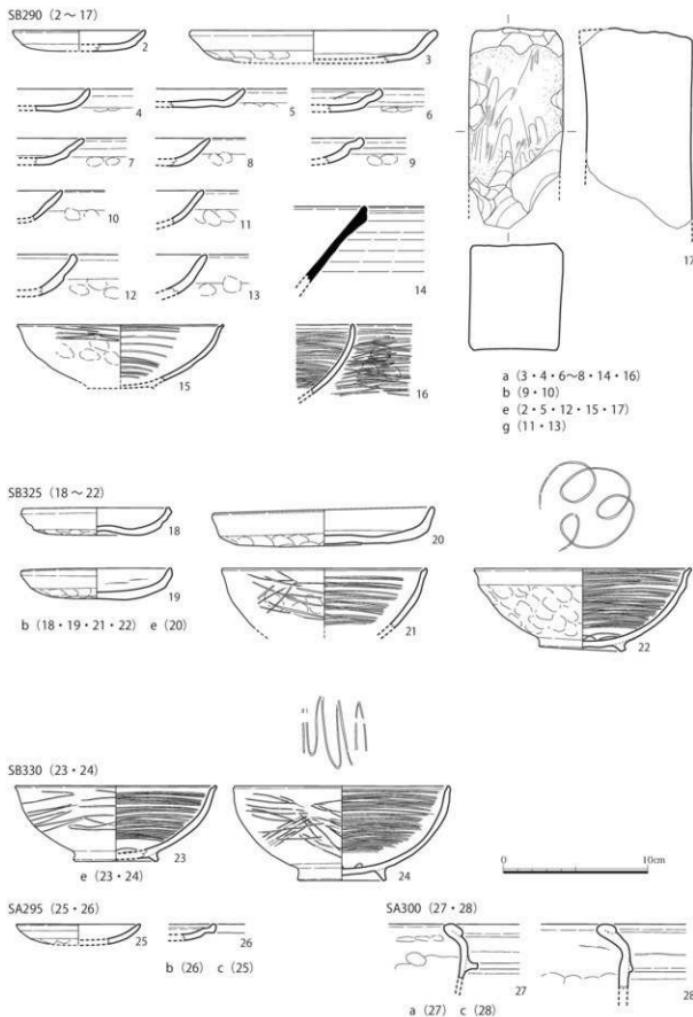


図48 SB290・325・330、SA295・300 出土遺物実測図 (S=1/3)

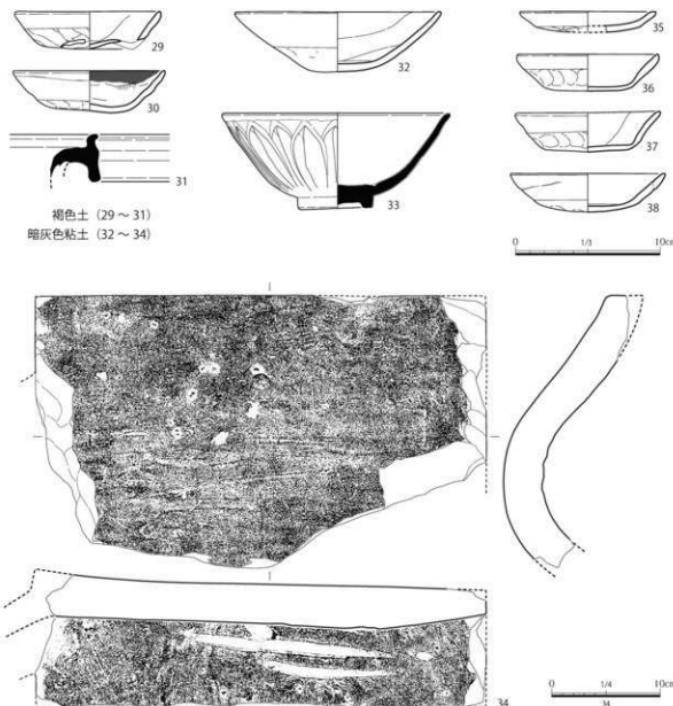


図49 SE055 出土遺物実測図 (S=1/3・1/4)

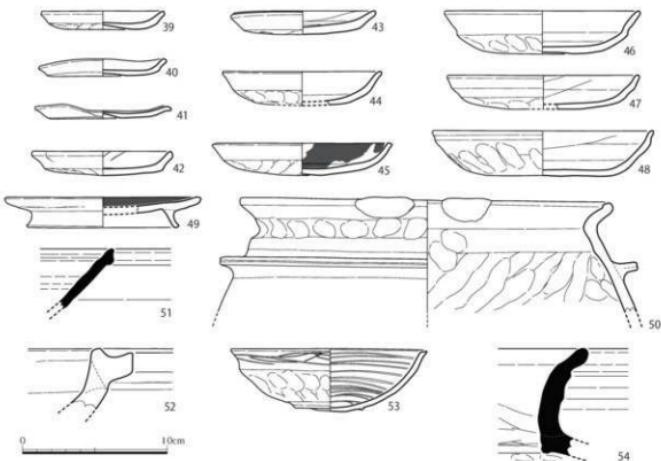
土師器皿(32) B群である。内面及び口縁部外面にヨコナデ調整を施す。底部外面にはナデ調整を施し、ユビオサエ痕を消している。

輸入青磁碗(33) 龍泉窯系II-b類である。内面は無文である。高台部の施釉は置付け途中まで高台内面には及ばない。

道具瓦(34) 雁振瓦である。四面中央部及び凸面にはヘラケズリ調整、四面脇部から端部にかけてはナデ調整を施す。凹面頂部には工具痕が残る。

土師器皿(35～38) 36・38はB群、それ以外はA群である。36は口縁部内面に煤の付着がみられる。

これらの遺物は29～31が褐色土、32～34が暗灰色粘土から出土した。

図 50 SE060 出土遺物実測図 ($S=1/3$)

SE060 出土遺物 (図 50、図版 23・24)

土師器皿 (39 ~ 48) いずれも A 群である。底部を押し上げる形態のものが含まれる。45 は内面に煤の付着がみられる。

土師器台付皿 (49) いわゆる権杯である。胎土は灰白色を呈し、土師器皿 B 群と共通する。皿部内面には全体に煤の付着がみられる。

土師器釜 (50) 大和 B₁ 型である。口縁端部は僅かに内面に肥厚する。内面には当て具痕が残る。外面には煤の付着がみられる。

須恵器鉢 (51) 内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部外面の端部よりやや下がった位置に低い段が廻り、口縁端部は外方に面を持つ。

瓦質土器鍋 (52) 内面及び口縁部外面にヨコナデ調整、体部外面にナデ調整を施す。口縁部外面の凸状の張り出しが口縁端部から一体として成形されている。

瓦器椀 (53) 内面のヘラミガキ調整はやや粗く、外面へのヘラミガキ調整は口縁部付近にとどまり、分割して施した様子はうかがえない。口縁端部は上方に面を持ち、底部より上の位置に断面三角形の高台を貼り付ける。Ⅲ段階 D 型式のものである。

国産陶器甕 (54) 口縁部及び口縁部外面にヨコナデ調整、口縁部内面以下にナデ調整を施し、口縁部付近体部内面にはユビオサエ痕が残る。外面肩部付近に降灰がみられる。

SE100 出土遺物 (図 51・52、図版 24 ~ 28)

【暗灰色粗砂】

土師器皿 (55 ~ 58) いずれも A 群である。57 は「て」字状口縁をもつ皿 A である。55・58 の内面には工具痕が残る。

瓦器椀 (59 ~ 61) いずれも内面には比較的密なヘラミガキ調整、外面中位までヘラミガキ調整を施す。60 は断面三角形の高台を貼り付け、見込みには連結輪状暗文を有する。Ⅲ段階 A 形式のものである。

瓦器皿 (62) 内面及び口縁部にはヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。見込みにはジグザグ状暗文を有する。

瓦質土器鉢 (63) 内面には密な、外面には粗い横方向のヘラミガキ調整を施す。外面にはユビオサエ痕が残る。

輸入白磁椀 (64) 白磁椀 II 類である。外面の施釉は体部中位にとどまる。口縁部外面の玉縁はヘラケズリ調整によるものである。

輸入白磁皿 (65) 白磁皿 VI 類である。施釉は外外面とともに中位まで、それ以下は無釉である。

軒丸瓦 (66) 複弁八葉蓮華文である。外区外縁は無文であり、6301F 型式と考えられる。瓦当面には范傷が確認できる。瓦当裏面にはナデ調整を施す。

軒平瓦 (67) 内区は上段に削れた唐草文、下段に鋸齒文を配する。段頸の形態をとると考えられる。瓦当上面端には面取りを行う。凹面には布目痕が残る。

【灰黄色粗砂】

土師器皿 (68 ~ 72) いずれも A 群である。70 は「て」字状口縁をもつ皿 A である。72 は口縁部外面及び底部内面に煤の付着がみられる。

瓦器椀 (73) 内面には比較的密なヘラミガキ調整、外面中位までヘラミガキ調整を施す。口縁端部は僅かに外反し、沈線はみられない。Ⅱ段階 B 型式のものと考えられる。

瓦器皿 (74 ~ 75) 内面及び口縁部にはヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。見込みにはジグザグ状暗文を有する。

【黒色粘土】

土師器皿 (76 ~ 84) いずれも A 群である。78 は口縁端部付近に煤の付着がみられる。

瓦器椀 (85 ~ 87) いずれも内面には比較的密なヘラミガキ調整、外面中位までヘラミガキ調整を施す。断面三角形の高台を貼り付け、見込みには連結輪状暗文を有する。86 の体部外面には葉脈痕がみられる。Ⅱ段階 B 型式のものである。

瓦器皿 (88 ~ 89) 内面及び口縁部にはヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。見込みにはジグザグ状暗文を有する。88 は重ね焼き痕を有する。

【3 層】

不明木製品 (90・91) いずれも断面長方形を呈し、長辺側の面にはチョウナによる加工痕がみられる。建築部材などの可能性がある。

SE120 出土遺物 (図 53、図版 27)

土師器皿 (92 ~ 94) いずれも A 群である。94 は口縁部に二段のヨコナデ調整を施す。

瓦器皿 (95) 内面及び口縁部にヨコナデ調整後、口縁部内面にヘラミガキ調整を施す。見込みにはジグザグ状暗文を有する。

輸入白磁皿 (96) 白磁皿 III 類である。口縁部は内湾して立ち上がり、端部は僅かに外反し、上方に面

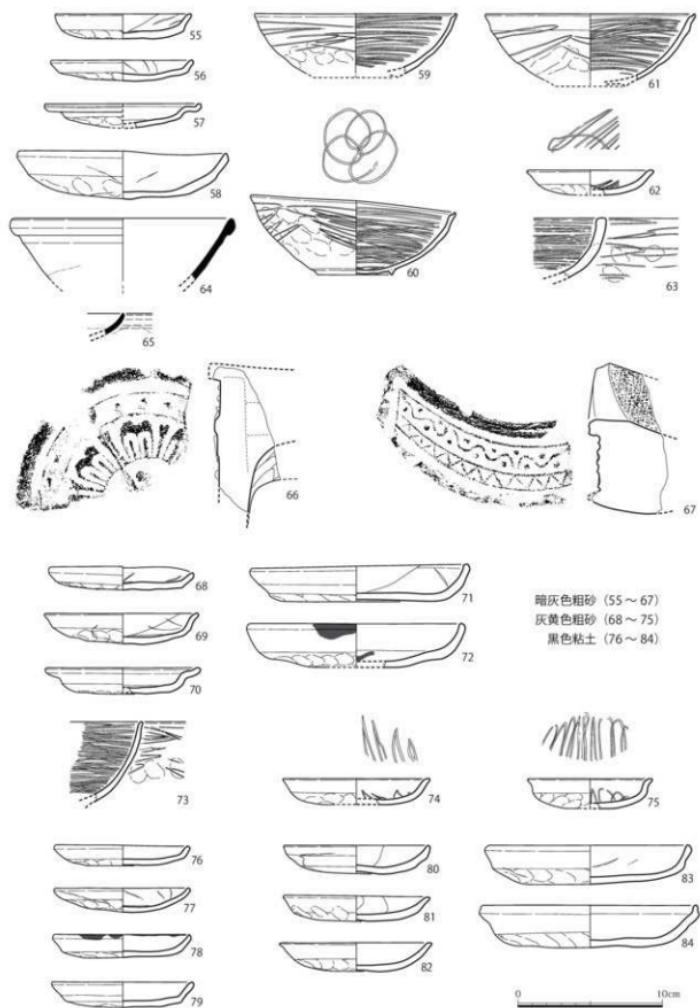
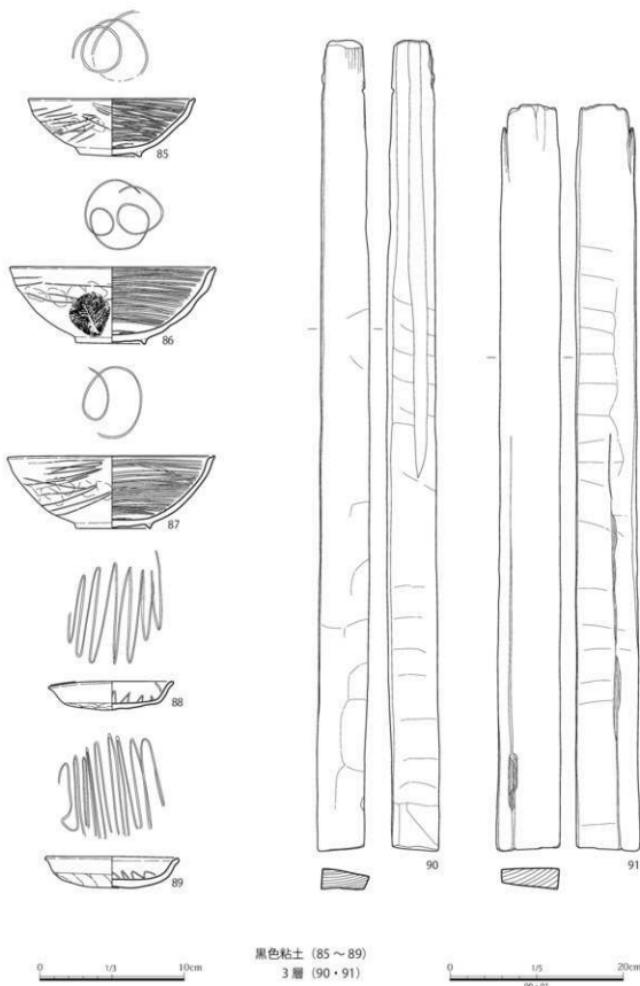


図 51 SE100 出土遺物実測図 (1) (S=1/3)

図 52 SE100 出土遺物実測図 (2) ($S=1/3 \cdot 1/5$)

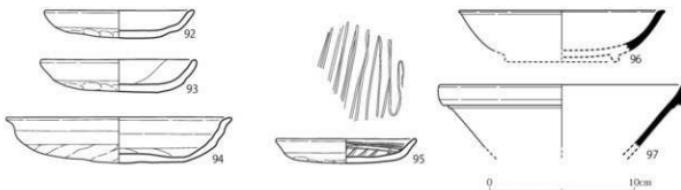


図53 SE120出土遺物実測図 (S=1/3)

を持つ。内外面には施釉がみられる。

輸入白磁碗 (97) 白磁碗IV類である。内外面には施釉がみられる。

SE190 (図54・55、図版29・30)

土師器皿 (98~102) 100を除いてA群である。98・99は「て」字状口縁をもつ皿Aである。100は内外面ともに回転ナデ調整を施し、外面底部付近には回転ヘラケズリ調整を加える。底部は厚く、底部外面には糸切痕が残る。搬入品の可能性がある。

黒色土器碗 (103・104) いずれもB類である。内外面ともにヘラミガキ調整を施し、底部には断面逆台形の高台を貼り付ける。

軒丸瓦 (105) 複弁八葉蓮華文である。中房には1+6の蓮子を置く。外区には珠文を配する。丸瓦部は凸面にヘラケズリ調整、凹面にナデ調整を施す。

木製品曲物 (106) 体部である。内面に斜め及び縦方向の算引きを行い内側に曲げている。接続部には樹皮が残る。

木製品まな板 (107) 曲物の底板を転用したもので、線状の使用痕が残る。中心近くには未貫通の孔がある。側面には底部と体部を固定したときの木釘穴が確認できる。

不明木製品 (108) 断面は方形を呈し、チョウナによる加工痕を残す部分もある。方形もしくは隅丸方形を呈する孔や切り欠きがあり、井戸枠や建築部材であった可能性が考えられる。

これらの遺物は98~105が1~4層、106・107が最下層、108が3層から出土した。

SE235出土遺物 (図56、図版30~32)

土師器皿 (109~111) いずれもA群である。109・110は底部が僅かに凹むが、内面へは影響が及んでいない。

瓦器皿 (112) 内面及び口縁部にはヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。見込みにはジグザグ状暗文を有する。端部は内上方へ面を持つ。

輸入白磁碗 (113) 白磁碗IV類である。玉縁は直下を削り出すことにより成形されている。内面及び外面中位まで施釉される。

土師器皿 (114) A類である。底部にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。内面口縁部付近には工具痕が残る。

瓦器碗 (115) 内面には粗いヘラミガキ調整、外面には口縁部付近に粗いヘラミガキ調整を施す。底部よりやや上の位置に断面三角形の高台を貼り付ける。Ⅲ段階C型式のものである。

輸入青磁碗 (116) 龍泉窯系青磁碗I類である。施釉は内面及び外面高台以上で、壺付と高台内部

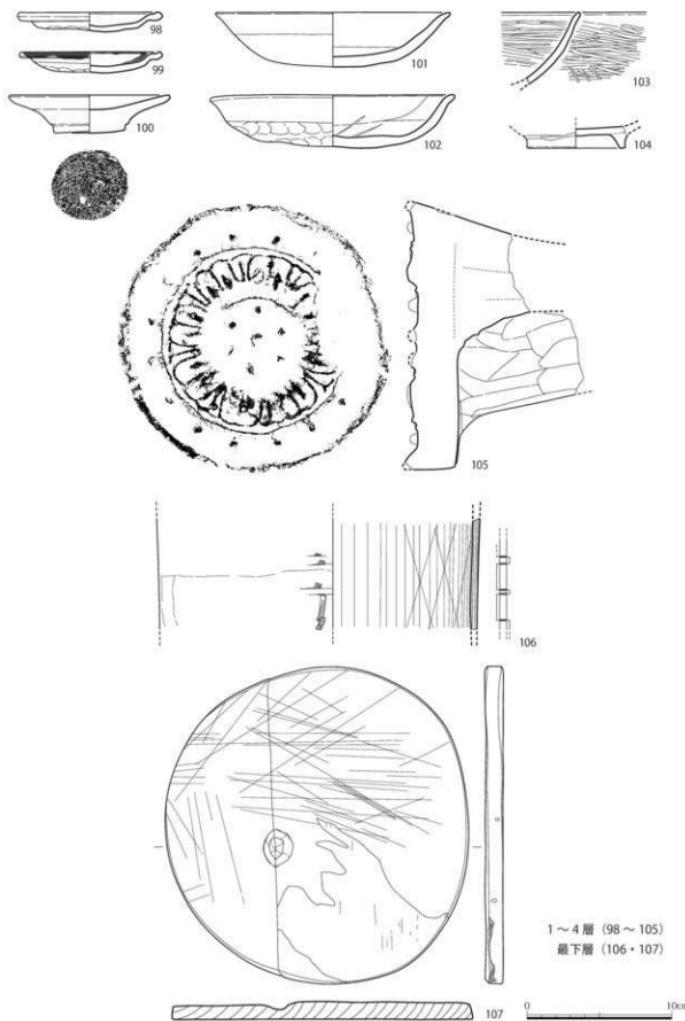


図54 SE190 出土遺物実測図 (1) (S=1/3)

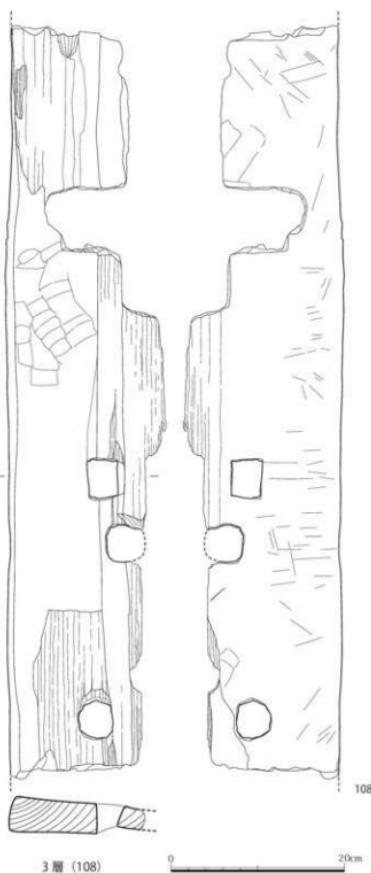


図 55 SE190 出土遺物実測図 (2) (S=1/5)

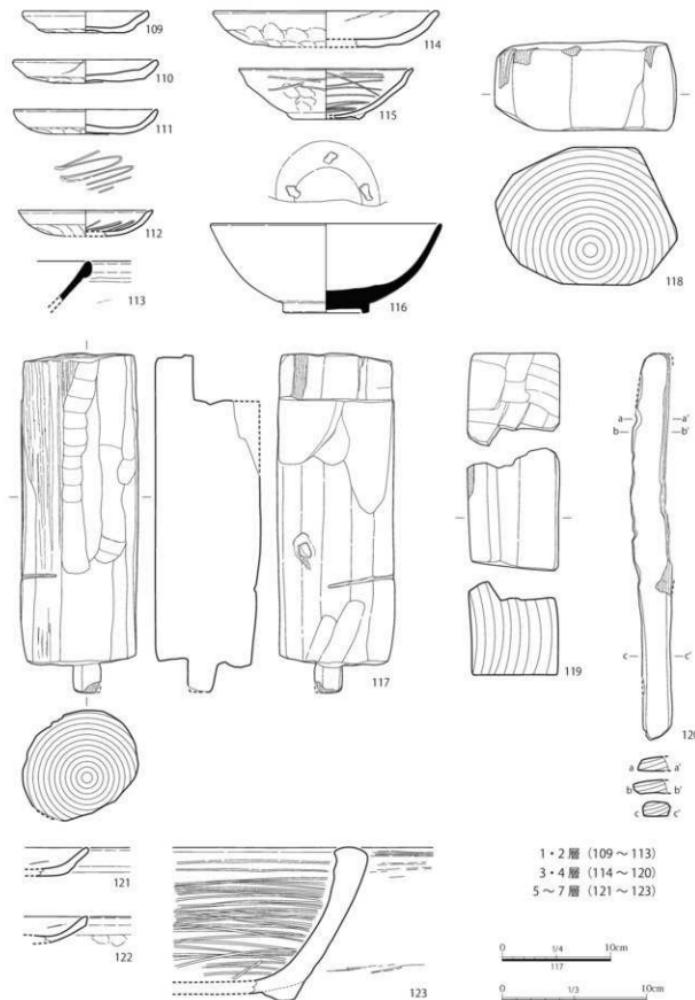


図 56 SE235 出土遺物実測図 (1) (S=1/3・1/4)

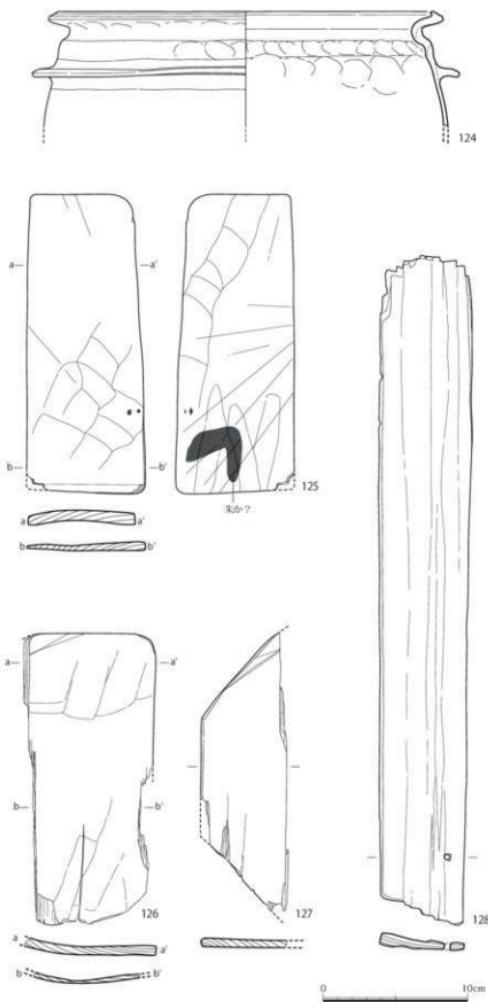


図 57 SE235 出土遺物実測図 (2) (S=1/3)

には及ばない。見込みには3カ所の目跡が確認でき、本来は4カ所であったと推測できる。

木製品柱 (117~119) いずれも柱材からの転用品と考えられる。117は端部に切り欠きと枘の加工がある。

木製品棒さら (120) 擦り合わせて音を出す楽器である。断面方形を呈し、側面は片側を欠損しているが、音を出すために鋸歯状に削り出す。

土師器皿 (121・122) いずれもA群である。122は口縁端部の外方に面を持つ。

瓦質土器鉢 (123) 内面にはヘラミガキ調整、外面は表面劣化のため詳細は不明であるが、ヘラミガキ調整を施した可能性がある。外面下位には工具痕が残る。

土師器釜 (124) 大和I型である。口縁端部は内上方へ突出し、体部内面には当て具痕が残る。外面には煤の付着がみられる。

木製品まな板 (125) 不明製品を転用したもので、線状の使用痕が確認できる。朱の可能性がある赤色彩がみられる。断面は方形を呈し、チョウナによる加工痕が残る。

不明木製品 (126~128) いずれも断面が方形を呈する。126にはチョウナによる加工痕が残る。

127は片側側面を欠損するが、斜めに切り出しており、段差を設ける部分もみられる。128には直径5mm程度の穿孔がある。

これらの遺物は109~113が1・2層、114~120が3・4層、121~123が5~7層から出土した。

SE240出土遺物 (図58、図版33~35)

土師器皿 (129) A群である。底部を押し上げる形態のものである。

土師器釜 (130) 大和II型である。体部内面には板状工具によるナデ調整を施す。鰐端部以下には煤の付着がみられる。

土師器皿 (131~133) いずれもA群である。131は底部外面が僅かに凹むものの内面への影響はみられない。口縁端部は131が玉縁状、132が直立気味、133が外反となり多様である。

瓦器椀 (134) 内面には比較的密なヘラミガキ調整、外面は口縁部付近に粗いヘラミガキ調整を施す。見込みには渦巻き状暗文を有する。底部よりやや上の位置に断面三角形の高台を貼り付ける。III段階C型式のものである。

土師器皿 (135~142) いずれもA群である。口縁端部を内側に巻き込むコースター状の皿D、底部を押し上げる形態の皿Cが含まれる。135・142は口縁端部付近、141は口縁部内面から外面にかけて煤の付着がみられる。136は内面に鼠の爪痕とみられる跡痕がある。

須恵器鉢 (143) 内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部の一部を片口状に外方へ張り出させている。

瓦器椀 (144) 内面にはやや粗いヘラミガキ調整を施し、外面にはヘラミガキ調整を施さない。見込みには連結輪状暗文を有する。底部には断面三角形の高台を貼り付ける。III段階B型式のものである。

瓦器皿 (145) 内面及び口縁部にはヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。見込みにはジグザグ状暗文を有する。口縁端部は僅かに外反する。

輸入白磁椀 (146) 白磁椀IV類である。口縁部玉縁直下にはヘラケズリ調整を施す。内面から口縁部玉縁にかけて施釉がみられる。

輸入白磁壺 (147) 白磁壺III類である。回転ナデにより成形され、内外面ともに施釉がみられる。

輸入陶器壺 (148) 耳壺XIV類である。胎土は赤褐色を呈し、暗赤褐色の釉を全面に施すが、内面は白濁がみられる。口縁端部は外方に拡張し、上方に面を持つ。端部は断面三角形を呈する。

これらの遺物は129・130が1~7層、131~134が8~11層から出土した。

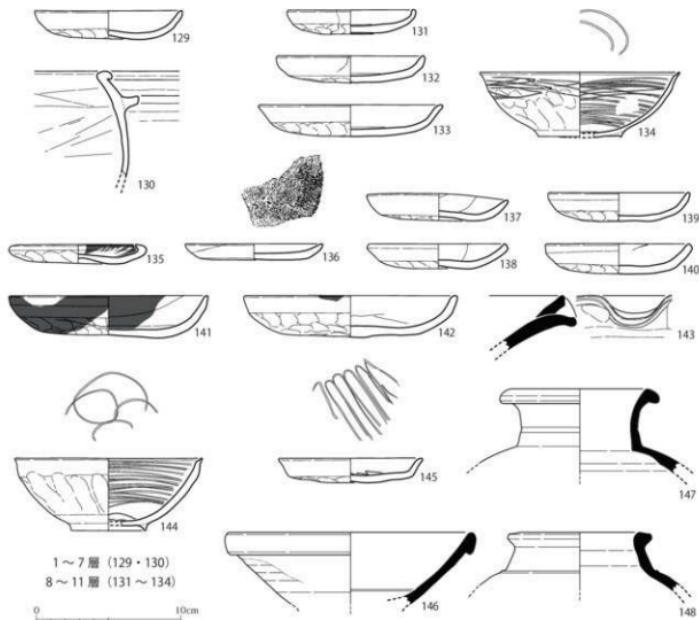
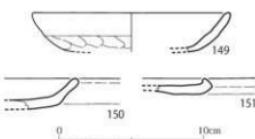


図 58 SE240 出土遺物実測図 (S=1/3)

池

SG005 出土遺物 (図 59、図版 35)

土師器皿 (149～151) いずれも A 群である。151 はコースター状の皿 D である。



土坑

SK025 出土遺物 (図 60、図版 35)

軒平瓦 (152) 内区には三つ巴文、および丸に「興」「福」「寺」を配し、外区には珠文が並ぶ、興福寺所用瓦である。頭は貼り付けである。凹面にナデ調整、凸面にヘラケズリ調整を施す。中世 II 期(1210 年から 1260 年まで) のものである。

SK050 出土遺物 (図 60、図版 35・36)

土師器皿 (153) A 群である。底部にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサ工痕が残る。

図 59 SG005 出土遺物実測図 (S=1/3)

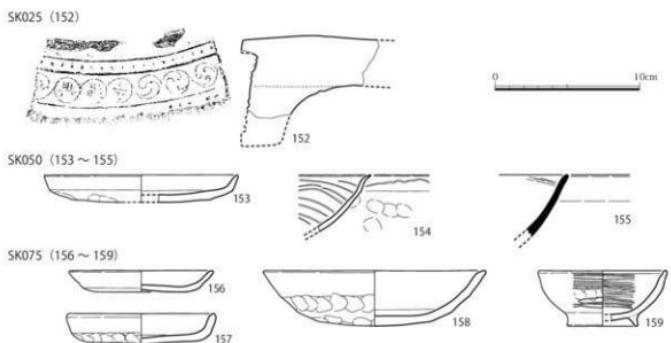


図60 SK025・050・075 出土遺物実測図 (S=1/3)

瓦器椀（154） 内面には粗いヘラミガキ調整、外面には口縁部付近に僅かにヘラミガキ調整を施す。Ⅲ段階D型式のものである。

輸入青磁椀（155） 龍泉窯系青磁椀I類である。口縁部内面にクシメが僅かにみられる。口縁端部は僅かに外反する。

SK075 出土遺物（図60、図版36）

土師器皿（156～158） いずれもA群である。156は僅かに底部が凹む。158は口縁端部は内上方に面を持つ。

瓦器椀（159） 内面に密なヘラミガキ調整、外面は上半は比較的密なヘラミガキ調整、下半には粗いヘラミガキ調整を施す。底部には断面逆台形の高台を貼り付ける。口縁端部には1条の沈線が廻る。Ⅱ段階A型式のものである。

SK080 出土遺物（図61、図版36・37）

土師器皿（160～164） いずれもA群である。口径が10cm代の小皿と15cm代の大皿とに分化していることが分かる。

土師器釜（165） 大和B₁型である。口縁端部は内上方へ突出し、口縁部体部界外面にはユビオサエ痕、体部内面には工具痕が残る。鍔端部以下には煤の付着がみられる。

瓦器椀（166・167） 内面に密なヘラミガキ調整、外面に粗いヘラミガキ調整を施す。166は見込みに連結輪状暗文を有する。Ⅱ段階B型式のものである。

瓦器皿（168～170） 内面及び口縁部にヨコナデ調整後、口縁部内面にヘラミガキ調整を施す。見込みにはジグザグ状暗文を有する。口縁端部は僅かに外反する。

SK105 出土遺物（図61、図版37）

土師器皿（171～175） いずれもA群である。171～174は「て」字状口縁をもつ皿Aである。175は口縁部内面に工具痕が残る。

SK110 出土遺物（図62、図版38・39）

土師器皿（176～184） いずれもA群である。底部を押し上げる形態のものが含まれる。

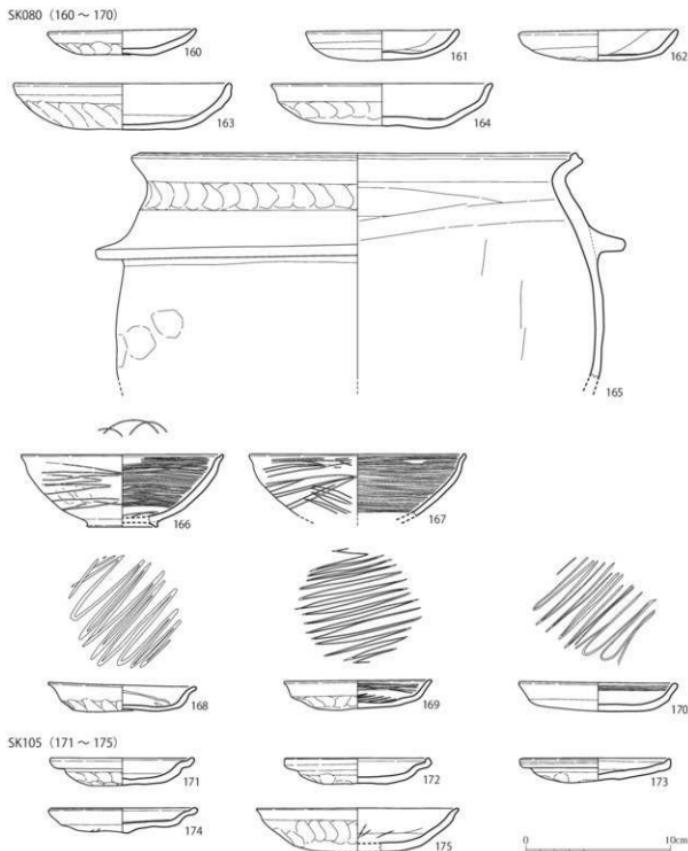


図 61 SK080・105 出土遺物実測図 (S=1/3)

瓦器椀 (185・186) いずれも内面には粗いヘラミガキ調整を施すが、外面にはヘラミガキ調整が施されない。底部よりやや上の位置に断面三角形の高台を貼り付けるが全周しない。186は見込みに連続輪状暗文を有する。Ⅲ段階E型式のものである。

国産陶器甕 (187) 常滑焼である。平底を呈し、体部は板状工具によるナデ調整後ナデ調整を施し、最大径よりやや下がった外面には工具痕が残る。肩部は外面にタタキ目、内面にユビオサエ痕が残る。口縁部はヨコナデ調整を施し、端部は上下に拡張する。

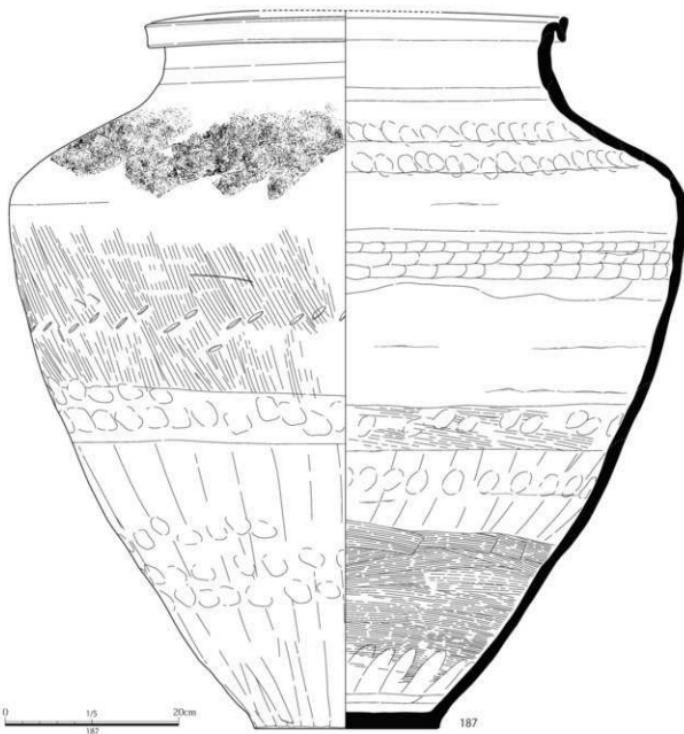
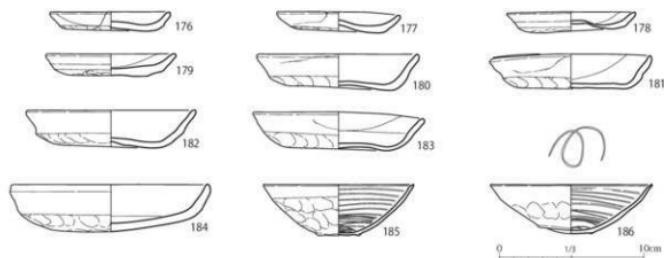


図 62 SK110 出土遺物実測図 (S=1/3・1/5)

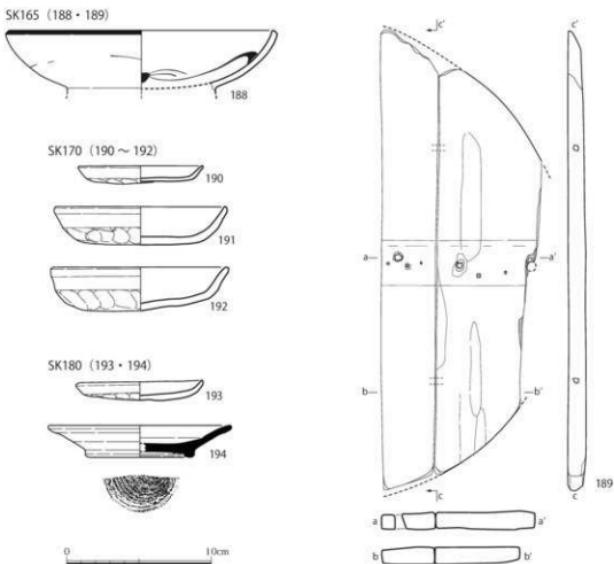


図 63 SK165・170・180 出土遺物実測図 (S=1/3)

SK165 出土遺物 (図 63、図版 40)

漆器皿 (188) 内外面に黒漆を施す。口縁端部は外上方に面を持ち、朱漆を施す。内面には海老と思われる意匠を朱漆で描く。外面にも朱漆で線が描かれるが、文様は不明である。高台は欠損している。木製品蓋 (189) 複数の板材を木釘により結合させている。本来は円形を呈していたと考えられる。中程には把手を取り付けたと考えられる痕跡がある。端部は斜めに削られており、裏面が容器の内側になっていたと推測できる。裏面は炭化する。

SK170 出土遺物 (図 63、図版 40)

土師器皿 (190~192) いずれも A 群である。口径が 8cm 代の小皿と 12cm 前後の大皿とに分化している。

SK180 出土遺物 (図 63、図版 40)

土師器皿 (193) A 群である。胎土は灰白色を呈する。底部内面にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。

灰釉陶器皿 (194) 回転ナデ調整により成形され、底部外面には糸切痕が残る。底部内面には重ね焼き痕がみられる。

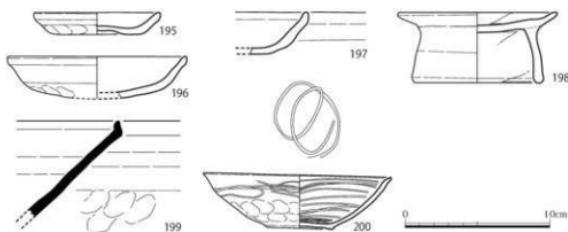


図 64 SK185 出土遺物実測図 (S=1/3)

SK185 出土遺物 (図 64、図版 41)

土師器皿 (195 ~ 197) いずれも A 群である。195 は底部を押し上げる形態の皿 C である。

土師器台付皿 (198) いわゆる権杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には台部を貼り付ける。

須恵器鉢 (199) 内外面ともに回転ナデ調整を施し、口縁端部は上方へ拡張する。内面には使用痕がある。口縁部外面には重ね焼き痕がみられる。

瓦器椀 (200) 内面に粗いヘラミガキ調整、外面口縁部付近に粗いヘラミガキ調整を施す。底部よりやや上の位置に断面三角形の高台を貼り付ける。見込みに連結輪状暗文を有する。Ⅲ段階 B 型式のものである。

SK215 出土遺物 (図 65、図版 41・42)

土師器皿 (201・202) いずれも A 群である。内面から口縁部にかけてヨコナデ調整を施す。底部外面にはユビオサエ痕が残る。

土師器甕 (203) 体部は内面にナデ調整、外面に横方向のヘラミガキ調整、口縁部にはヨコナデ調整を施す。口縁端部は上内方へ突出する。体部内面には粘土紐の接合痕が残る。

黒色土器椀 (204) A 類である。内面には密なヘラミガキ調整を施す。底部外面には高台を貼り付ける。

SK245 出土遺物 (図 65、図版 42)

土師器皿 (205) A 群である。内面から口縁部にかけてヨコナデ調整、底部外面にナデ調整を施す。底部外面にはユビオサエ痕が残る。

瓦質土器鉢 (206) 口縁端部を除き、横方向のヘラミガキ調整を施す。口縁端部は上方へ僅かに肥厚する。

木製品柱 (207・208) いずれも断面方形の柱材で面取りを行う。表面にはチョウナによる加工痕がみられる。208 は方形の柄、切り欠きの加工がある。

SK250 出土遺物 (図 66、図版 43)

土師器釜 (209) 大和 B₂ 型である。口縁部体部界外面にはユビオサエ痕、体部内面には當て具痕が残る。鉗端部以下には煤の付着がみられる。

SK260 出土遺物 (図 66、図版 43)

土師器皿 (210) A 群である。底部内面にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。

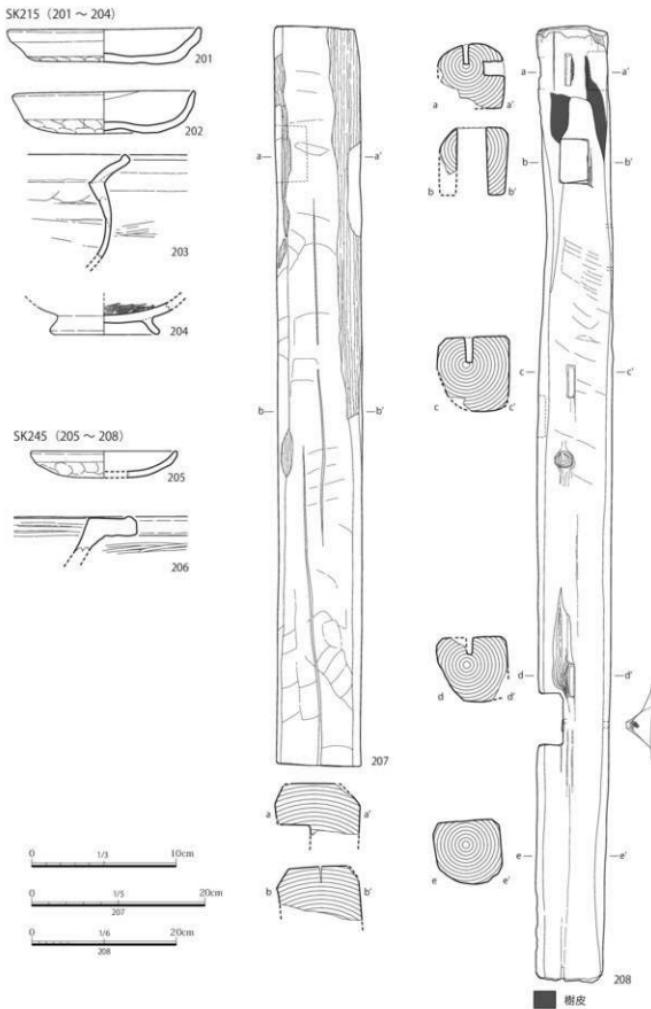


図 65 SK215・245 出土遺物実測図 (S=1/3・1/5・1/6)

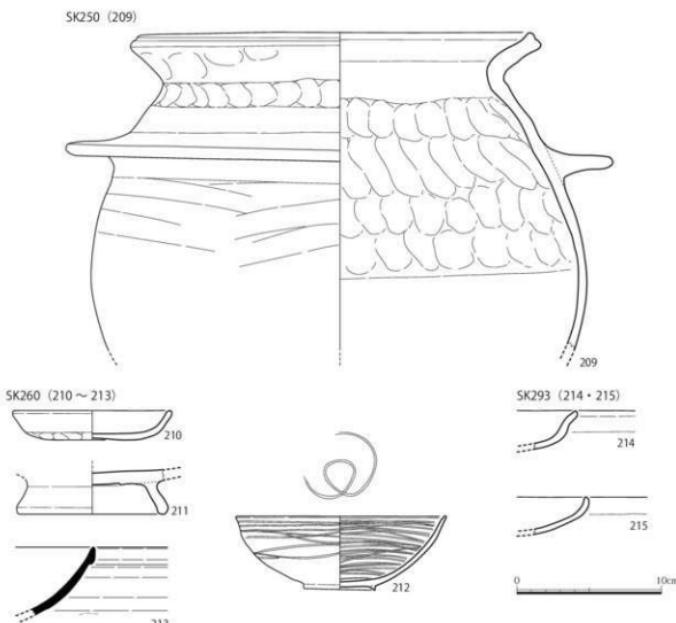


図 66 SK250・260・293 出土遺物実測図 (S=1/3)

土師器台付皿 (211) いわゆる権杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には台部を貼り付ける。底部内面にはユビオサエ痕が残る。

瓦器椀 (212) 内面に比較的密なヘラミガキ調整、外面中位までに粗いヘラミガキ調整を施す。底部には断面三角形の高台を貼り付ける。見込みに連結輪状暗文を有する。II段階B型式のものである。

輸入白磁椀 (213) 白磁椀II類である。口縁部玉縁以下にはヘラケズリ調整を施す。内面から外面中位にかけて施釉がみられる。

SK293 出土遺物 (図 66, 図版 43)

土師器皿 (214・215) いずれも A 群である。214 は内外面ともにヨコナデ調整、215 は内面及び口縁部にヨコナデ調整、底部外面にナデ調整を施す。

SK305 出土遺物 (図 67, 図版 44)

土師器皿 (216 ~ 218) いずれも A 群である。底部内面にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。

土師器台付皿 (219) 内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部は厚いが、口縁端部に向けて薄くなる。

瓦器椀 (220) 内面に粗いヘラミガキ調整、外面中位までに粗いヘラミガキ調整を施す。底部には断

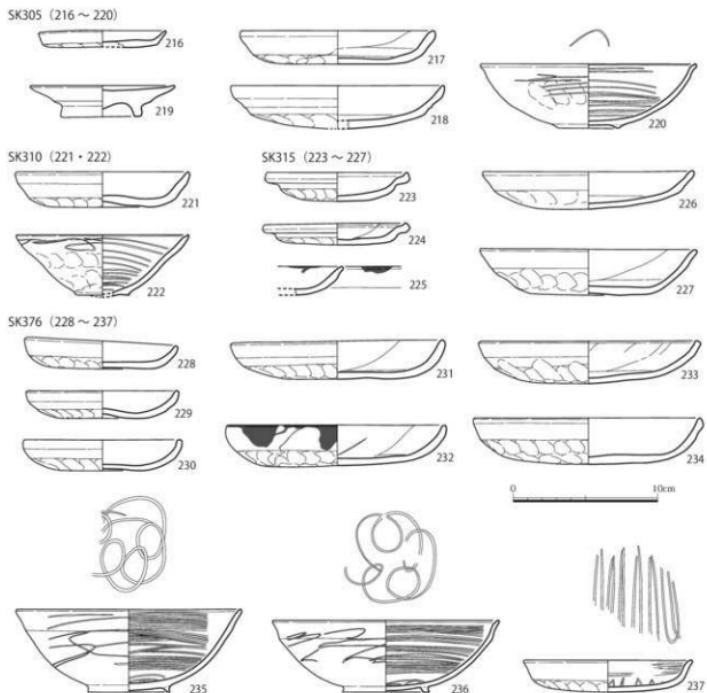


図 67 SK305・310・315・376 出土遺物実測図 (S=1/3)

面三角形の高台を貼り付ける。見込みに連結輪状暗文を有する。Ⅲ段階 B 型式のものである。

SK310 出土遺物 (図 67、図版 44)

土師器皿 (221) A 群である。底部を押し上げる形態の皿 C である。

瓦器椀 (222) 内面に粗いヘラミガキ調整、外面口縁部付近に僅かにヘラミガキ調整を施す。底部よりやや上の位置に断面三角形の高台を貼り付ける。Ⅲ段階 D 型式のものである。

SK315 出土遺物 (図 67、図版 44・45)

土師器皿 (223 ~ 227) いずれも A 群である。223・224 は「て」字状口縁をもつ皿 A である。225 は口縁端部付近に煤の付着がみられる。

SK376 出土遺物 (図 67、図版 45)

土師器皿 (228 ~ 234) いずれも A 群である。底部を押し上げる形態のものが含まれる。232 は口縁部外面に煤の付着がみられる。

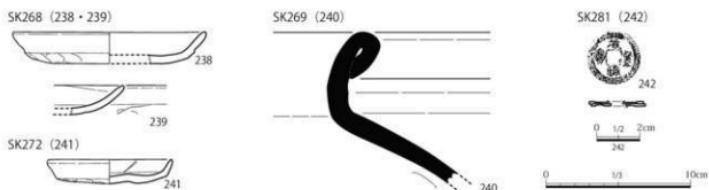


図68 埋葬遺構出土遺物実測図 (S=1/3・1/2)

瓦器椀（235・236） 内面に比較的密なヘラミガキ調整、外面中位までに粗いヘラミガキ調整を施す。底部には断面逆台形の高台を貼り付ける。見込みに連結輪状暗文を有する。Ⅱ段階A型式のものである。

瓦器皿（237） 内面及び口縁部にヨコナデ調整後、口縁部内面にヘラミガキ調整を施す。見込みにはジグザグ状暗文を有する。口縁部は僅かに外反する。

埋葬遺構

SK268 出土遺物（図68、図版45）

土師器皿（238・239） いずれもA群である。底部内面にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、底部外面にはユビオサエ痕が残る。

SK269 出土遺物（図68、図版46）

国産陶器甕（240） 備前焼である。回転ナデ調整により成形され、口縁部は外側へ折り返される。体部内面には工具痕が残る。IV A型式のものである。

SK272 出土遺物（図68、図版46）

土師器皿（241） A群である。底部内面にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、口縁部内面には工具痕、底部外面にはユビオサエ痕が残る。

SK281 出土遺物（図68、図版46）

銭貨（242） 2枚が銹着しており、1枚は元豊通寶であるが、もう1枚の錢種は不明である。

不明遺構

SX010 出土遺物（図69、図版46・47）

土師器皿（243～256） 243・249～252・255がB群、それ以外がA群である。A群土器には底部を押し上げる形態の皿C、コースター状の皿Dが含まれる。

黒色土器椀（257） A類である。外面とともに横方向のヘラミガキ調整を施したものと考えられるが、外面は表面劣化のため不明瞭である。

瓦器椀（258） 内面に比較的密なヘラミガキ調整、外面中位までに粗いヘラミガキ調整を施す。底部には断面逆台形の高台を貼り付ける。見込みに連結輪状暗文を有する。Ⅱ段階B型式のものである。

瓦質土器鉢（259） 口縁部端部を含め外面とともに横方向のヘラミガキ調整を施す。

SX140 出土遺物（図70、図版48）

土師器皿（260～263） いずれもA群である。260は僅かに底部が凹む。

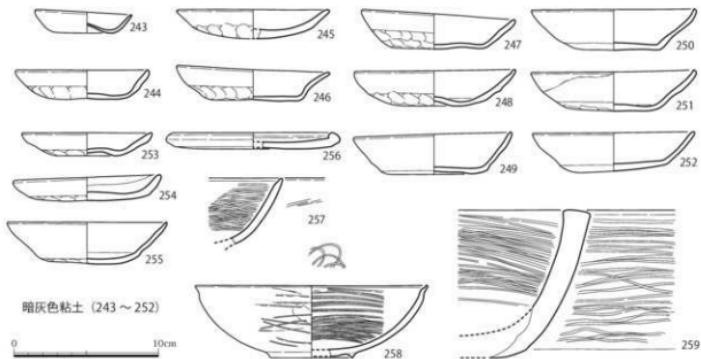


図69 SX010 出土遺物実測図 (S=1/3)

土師器台付皿（264） いわゆる樅杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には台部を貼り付ける。

瓦質土器蓋（265） 天井部にナデ調整、口縁部にヨコナデ調整を施し、天井部口縁部界の外面にはヘラケズリ調整を加える。

SX145 出土遺物 (図70、図版48・49)

土師器皿（266～270） 266がB群、それ以外はA群である。267は口縁部内面に工具痕が残る。

石製品砥石（271） 粘板岩製である。硯として使用後に、砥石に転用されている。破面も砥面となっていることから、硯の折損後に砥石として再利用されたと考えられる。

土師器皿（272～276） いずれもA群である。272・273は口縁部付近に煤の付着がみられる。

これらの遺物は266～271が茶褐色土、272～276が青灰色粘土から出土した。

SX175 出土遺物 (図70、図版49・50)

土師器皿（277～281） いずれもA群である。底部を押し上げる形態のものが含まれる。277は口縁部外面、278は口縁端部付近に煤の付着がみられる。

土師器皿付皿（282・283） いずれも手捏ねによる成形で、皿部口縁部にはヨコナデ調整を施し、全体にユビオサエ痕が残る。台部は皿部底部に貼り付ける。胎土は282が褐灰色、283が灰白色を呈する。283は見込み部と台部内面に煤の付着がみられる。

柱穴

SP189 出土遺物 (図71、図版50)

土師器皿（284） A群である。口縁部および内面にはヨコナデ調整を施す。口縁部上半に強くヨコナデ調整を施したことにより、外面中位には段が形成されている。

軒丸瓦（285） 左巻き三つ巴文に珠文と剣頭文が廻る。凸面にはナデ調整を施し、凹面には布目痕が残る。

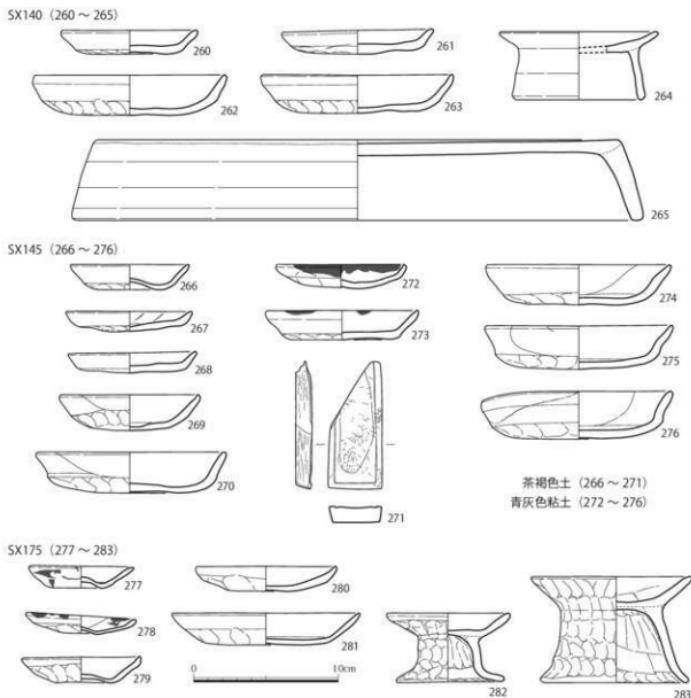


図 70 SX140・145・175 出土遺物実測図 (S=1/3)

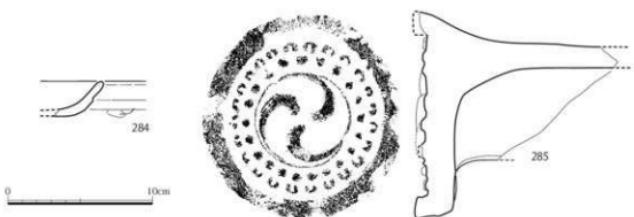


図 71 SP189 出土遺物実測図 (S=1/3)



図 72 SE216・285 出土遺物実測図 (S=1/3)

第4節 近世の遺構と遺物

第1項 遺構

井戸

SE216

調査区東側で検出した井戸である。SX175に後出する遺構で、調査区北壁断面の様相から江戸時代の焼土層を切り込んで形成していることが分かる。東西2.1m、南北1.5m以上、深さ1.0m以上を測る。井戸枠は抜き取られていたため認められなかった。

出土遺物は、陶磁器のほか、「東」の印が押された瓦片などで、近世の遺構であると考えられる。

SE285

拡張調査区西側で検出した井戸である。東西1.8m、南北0.7m以上、深さ1.04mを測り、平面形態は不整形形を呈する。埋土は4層からなり、最下層まで水平堆積する。最下層は、曲物が据えられていたと考えられる地山を幅0.64mに掘り窪めたところに灰色粘土が堆積していた。遺構は近世の遺構面から切り込み、焼土層の被覆で最終的に埋没するが、井戸枠は抜き取ったうえで埋め戻したものとみられる。

出土遺物は、土師器皿などで、近世の遺構と考えられる。

第2項 遺物

井戸

SE216 出土遺物 (図 72、図版 50)

平瓦 (286) 凹面には布目痕が残り、凸面には降灰がみられる。凹面には「東」の印が押され、東大寺所用瓦であったと考えられる。

SE285 出土遺物 (図 72、図版 51)

土師器皿 (287・288) ともにA群である。287は回転ナデ調整が底部内面に及ぶ。

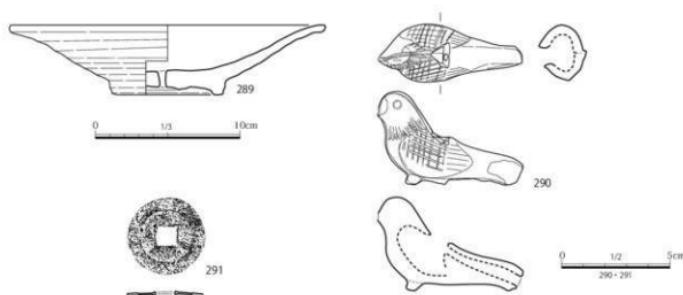


図 73 表土出土遺物実測図 (S=1/3・1/2)

第5節 表土出土遺物 (図73、図版51)

白色土器皿（289）回転ナデ調整により成形され、高台は削り出される。底部中央には焼成前穿孔がなされる。

土製品土笛（290）鳥形を模し、型作りで中空となる。羽部分には赤色の着色が残る。

銭貨（291）寶永通寶である。宝永5年（1708）に鋳造が開始されるが、翌宝永6年（1709）には鋳造が停止されたものである。

第4章 総括

第1節 遺構の変遷(図74)

古代 今回の発掘調査において、最も古い遺構は SP392 であった。これに重複する SD388 が奈良時代に属している。調査地が面する小西通りは、平城京の条坊道路である東六坊坊間東小路に比定されるが、西側側溝の確認を目的に東側拡張区を設けて調査を進めたものと検出されなかった。SD388 は、北延ないし西延する逆 L 字の平面形態を呈しており、南北の主軸座標値が X=-146,112、Y=-15,851.66 であることから分かるように、坪の中心に近い位置にある。調査区では、これら以外の奈良時代の遺構は検出されていないため、東六坊坊間東小路との関係性も含めて坪内景観を復元することは現状では難しい。SD388 が延伸する調査区の北西一帯での今後の調査に期待したい。

次いで、10世紀に比定できる遺構は SK250 であるが、この段階の遺構も今回の調査区では希薄であった。平安京遷都後の奈良の都市域は、11世紀半ばまで寺社周辺に散見される土坑などが確認されるのみであることが指摘されており(佐藤2006)、本調査の成果はこれを追認するものと言えよう。

中世前半 12世紀になると、掘立柱建物(SB325・330)や塀(SA295)が形成され、井戸(SE100・120・190)や土坑(SK075・315・105・260)が多数見られるようになる。それぞれの遺構は、掘立柱建物が調査区西端、塀が東側拡張区東端にあり、それらの間に井戸や土坑などが分布している。掘立柱建物は2基が南北に並列している点で特徴的であるが、北側の SB330 の南辺は SA295 のほぼ西の延長線上に位置していることが分かる。調査区を横断するような明確な施設を設けているわけではないものの、緩やかに南北で区画されていた可能性がある。

13世紀になると遺構数はさらに増え、塀(SA300)が建て替えられるほか、池(SG005)の形成・埋没後には礎石建物(SB290)などが形成される。塀による緩やかな区画は維持されるものの、掘立柱建物(SB325・330)が廃絶すると調査区西側の遺構密度は希薄になることが分かる。年代の決め手となる遺物に欠けるが、素掘小溝が検出されるのも調査区西側に限られる。礎石建物(SB290)と塀(SA300)が隣接しているように、遺構は調査区東側に向かって集中しており、土地利用が変化した様子が窺える。遺構の種別を見れば、調査区東側には東六坊坊間東小路に面して間口を設けた建物や塀など、中央には井戸や土坑など、西側には素掘小溝や柱穴など、というように空間としての使い分けがなされているようにも見える。

これまで、周辺の調査成果から遺構変遷の年期は12世紀にあるとされ、13世紀前半まで遺構数の増加傾向が続くことが指摘されており(佐藤2006)、本調査地も同じ傾向を示していることが分かる。 **中世後半** 14世紀代の遺構は土坑(SK110・170・180・215など)や落ち込み(SX010・030・040など)が中心となり、14世紀前半には埋甕遺構が形成される。当該時期の建物遺構は検出していないが、13世紀後半と考えられる礎石建物(SB290)の北に隣接する位置関係から、建物の付属施設として埋甕が設置された可能性もある。この埋甕遺構は、据え付け穴のまとまりから2つの群に分けられるため、時期差の存在は否定できないが、埋甕遺構を構成する SK269 からは14世紀前半から末頃に比定される備前焼甕が出土しているほか、埋甕遺構の約10m西に位置する SK110 からは14世紀前半に比定で

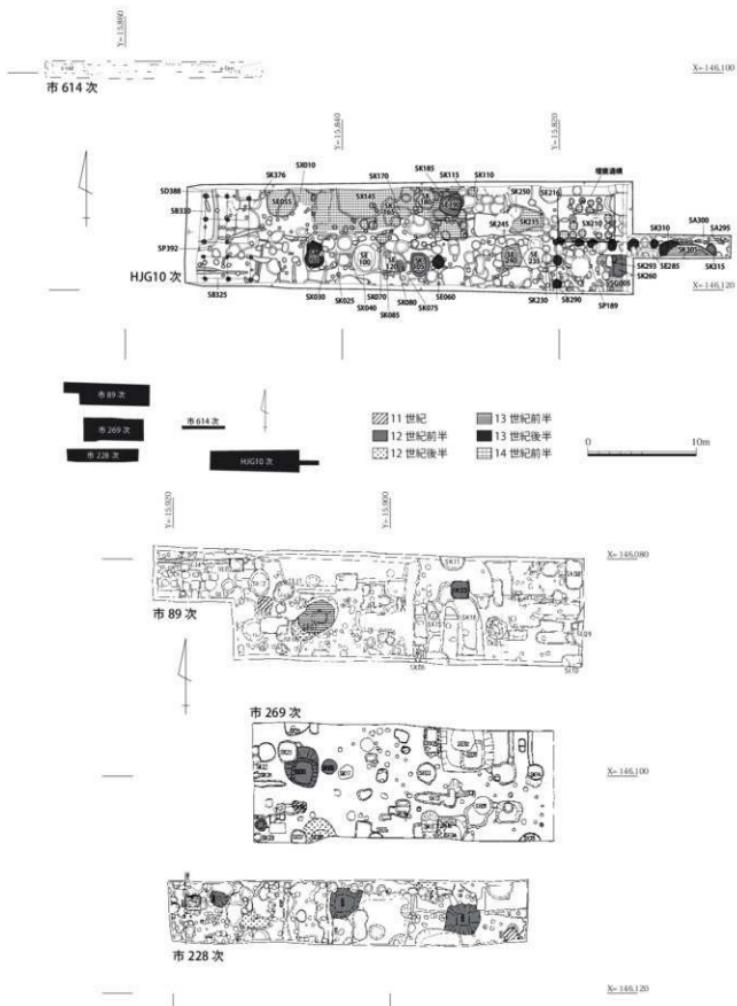


図 74 左京三条六坊十二坪の遺構変遷 (S=1/400)

きる常滑焼甕が出土していることから、型式の年代幅を踏まえても15世紀前半までに形成されたと考えられる。

埋甕構は、調査地近辺では検出事例が無く、元興寺旧境内、平城京左京四条六坊十坪や十五坪などで確認されている。しかし、その大半が15世紀以降に設置されたものであることが分かっている。つまり、本調査で検出した埋甕構は一段階古いもののものであり、応永21年(1414)に設立された「中市」(伝香寺・率川神社東側周辺が推定地)の成立以前に商業的な空間が存在していた可能性がある。このような空間が面的に広がっていたかは今後の調査成果に基づいて検討する必要がある。

また本調査では、15世紀以降の遺構が極めて希薄であった。中世の遺構面は近世と推定される整地土が被覆していることから、15世紀頃を境に調査地一帯が再整備された可能性がある。この整地土の広がりと具体的な年代の特定が大きな課題である。

近世 近世段階の遺構としては、SE055・216・285が挙げられる。いずれも整地土から地山まで切り込んだ遺構であるため、注意が必要である。

第2節 特徴的遺物について

本調査では、特徴的な遺物が数点出土している。ここで、周辺の事例を踏まえながら若干掘り下げてみたい。

土師器皿(136) 土師器皿(136)の内面には線状痕が確認できる。この線状痕は4条あり、明瞭な中央2条に対して左の線状痕は細く、浅い、また右の線状痕は、明瞭ではあるが線ではなく点であった。これらは一定の力で付けられた痕跡ではないため、工具に起因しないことは明白である。むしろ唐古・鍵遺跡第33次調査で出土した弥生土器壺などでも確認されている鼠の爪痕に近似している(図75)。鼠は前肢に4本、後肢に5本の指を持ち、そして前肢は3指が前方に付き、1指が内側に付く身体的特徴を持っている(図76)。この特徴と土師器皿の線状痕を比較すると、点状痕は内側に付く1指、3条の線状痕は前方に付く3指に相当すると考えられることから、左前肢が乾燥中の土師器皿に当たったことで形成された可能性が高い。

土師器皿をどのような環境で乾燥していたかは不明であり、本調査では動物骨の出土もなく、調査地一帯にどのような鼠が生息していたかも明らかではない。また、土師器皿に付けられているのは搔傷であって足跡ではないため、鼠の種類の特定までは困難である。



図75 唐古・鍵遺跡出土の爪痕付土器(S=1/8)
(藤田1989より転載)

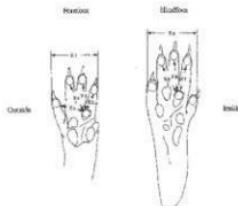


図76 鼠の前肢および後肢模式図
(関島1997より転載)

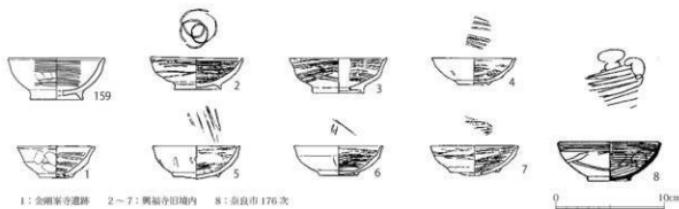


図 77 瓦器小椀出土例 (S=1/4)

瓦器椀（159） 瓦器椀（159）は、形態的特徴から第Ⅱ段階A型式と考えられるが、口径の小さい「瓦器小椀」と呼ばれるものである。瓦器小椀の出土事例は少ないものの、寺院関連遺跡での出土例が目立つことから、法具や宗教儀礼に使用された可能性が指摘されている（秋山 1977、竹田 1987、佐伯 1997）。法具であれば、形態的な類似性から六器・二器椀に相当すると考えられており、実際の使用方法と瓦器小椀の使用痕の分類に基づく比較によって真言ないし天台密教の作法と関連する可能性が高いことが明らかにされている（鳥羽 2007a・b）。

本調査で出土した瓦器小椀は残存率が20%程度であり、使用痕も不明瞭であったため、密教法具として位置づけることは現状では難しい。しかし、興福寺の隣接地で宝積院と呼ばれる興福寺の別院が存在していたことに加え、近接する市 176 次調査や興福寺旧境内でも瓦器小椀の出土が確認されているため、法具として使用するような空間が近隣に存在していたことを示唆するものである（図 77）。両遺物には若干の時期差は存在するが、調査地一帯の性格を考えるうえで重要な遺物といえる。

〔参考文献〕

- 秋山日出雄 1977『斑鳩・佐塙古墳』斑鳩町教育委員会
- 西藤清秀 2003『興福寺旧境内一県分合建設に伴う調査一』奈良県文化財調査報告書 第78集 奈良県立橿原考古学研究所
- 佐伯和也 1997『金剛峯寺遺跡－尼僧研修道場建設に伴う発掘調査と整理概要』『紀北考古学談話会報』紀北考古学談話会
- 佐藤亜聖 2006『平成15～17年度 科学研究費補助金 若手研究B 研究成果報告書 寺院を中心とした中世都市形成に関する基礎的研究』
- 関島恒夫 1997『足跡法によるヒメネズミヒカネズミの垂直的ハビタット利用の評価』『日本生態学会誌』第47巻第2号 日本生態学会
- 竹田敬牧 1987『橿原町能作遺跡群II（北山・西山・南山編）』奈良県立橿原考古学研究所
- 鳥羽正剛 2007a『瓦器小椀にみる特異な使用痕に関する考察－真言密教の仏前作法からの検討－』
- 『金剛峯寺遺跡 KET05-21 大乗院跡駐車場整備事業に伴う発掘調査報告書－高野町教育委員会・(財)元興寺文化財研究所』
- 鳥羽正剛 2007b『瓦器小椀にみる特異な使用痕に関する考察（その2）－天台密教の仏前作法からの検討－』
- 『中近世土器の基礎研究』21 日本中世土器研究会
- 藤田三郎 1989『昭和62・63年度 底古・鍵遺跡 第32・33次発掘調査概報』田原本町教育委員会
- 森下恵介 1990『平城京左京三条六坊十二坪の調査 第176次』『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成元年度』奈良市教育委員会

関連資料

図 78 検出遺構配置略図

表 1 ~ 10 報告遺物一覧 (1) ~ (10)

表 11 ~ 20 検出遺構および出土遺物一覧 (1) ~ (10)

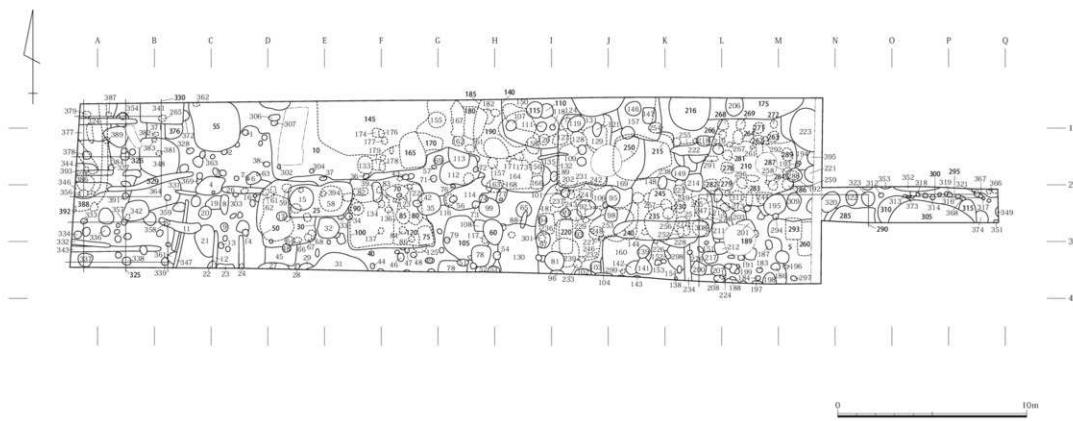


図 78 挨出遺構配置略図 (S=1/200)

表1 報告遺物一覧 (1)

報告 番号	神社 名	写真 番号	出土遺構 位置	種別 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (mm)	重 量	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項	
1	国8	国版20	SD388	須弥器 鉢	*	(2.6)	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 ～1mm石英・長石 鐵片	良 灰 N5/0		
2	国48	国版20	SB290e	土師器 皿	(9.1)	1.4	*	*	35%	やや粗 ～1mm石英・長石・雲母	良 橙 5YR7/6		
3	国48		SB290a	土師器 皿	(16.8)	1.3	*	*	15%	やや粗 ～6mm石英・長石・雲母	良 明褐灰 5YR7/2		
4	国48		SB290a	土師器 皿	*	1.6	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 ～1mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良 淡橙 5YR8/4		
5	国48	国版20	SB290e	土師器 皿	*	1.3	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 ～1mm石英・長石・クサリ礫	良 淡橙 5YR8/4		
6	国48		SB290a	土師器 皿	*	1.6	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 ～1mm石英・長石・雲母	良 にぶい橙 5YR7/3		
7	国48		SB290a	土師器 皿	*	1.8	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 ～1mm石英・長石・雲母	良 にぶい橙 5YR7/4		
8	国48		SB290a	土師器 皿	*	2.0	*	*	口縁～体部 破片	微小鉢 微小鉢・雲母	良 浅黄橙 7.5YR8/4		
9	国48	国版20	SB290b	土師器 皿	*	(1.8)	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 ～1mm石英・長石・雲母	良 にぶい黄橙 10YR7/2		
10	国48		SB290b	土師器 皿	*	(2.1)	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 微小鉢	良 浅黄橙 7.5YR8/4		
11	国48		SB290g	土師器 皿	*	(2.4)	*	*	口縁部破片	やや粗 ～1mm石英・長石	良 灰白 10YR8/2		
12	国48		SB290e	土師器 皿	*	(2.9)	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 ～2mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良 5YR7/8		
13	国48		SB290g	土師器 皿	*	(2.7)	*	*	口縁部破片	やや粗 ～2mm石英・長石・雲母・クサリ礫 チャート	良 5YR7/6		
14	国48		SB290a	須弥器 鉢	*	(5.3)	*	*	口縁部破片	やや粗 ～2mm石英・長石	良 N4/0		
15	国48		SB290e	須弥器 鉢	(14.3)	(3.9)	*	10%	やや粗 微小鉢	良 浅黄橙 10YR8/3	N4/0		
16	国48		SB290a	須弥器 鉢	*	(4.8)	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 ～1mm石英・長石	良 N4/0		
17	国48	国版20	SB290e	石製品 鉢	(13.9)	6.5	7.7	934.8	複数				
18	国48	国版20	SB325b	土師器 皿	10.1	1.9	*	90%	やや粗 ～1mm石英・長石・雲母	良 淡橙 5YR8/4			
19	国48	国版20	SB325b	土師器 皿	10.4	2.2	*	80%	やや粗 ～1mm石英・長石・雲母	良 浅黄橙 10YR8/3			
20	国48	国版21	SB325e	土師器 皿	(15.2)	2.7	*	60%	やや粗 ～5mm石英・長石	良 浅黄橙 7.5YR8/3			
21	国48		SB325b	瓦器	(14.0)	(4.2)	*	10%	微小鉢	良 N5/0			
22	国48		SB325b	瓦器	15.0	5.7	5.7	95%	やや粗 微小鉢	良 N5/0			
23	国48		SB330e	瓦器	(13.8)	5.2	(5.4)	45%	やや粗 微小鉢	良 N5/0			
24	国48	国版21	SB330e	瓦器	(14.8)	6.5	(6.0)	25%	やや粗 ～1mm石英・長石	良 N4/0			
25	国48		SA295c	土師器 皿	(8.5)	1.5	*	25%	やや粗 ～1mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良 5YR7/6			
26	国48	国版21	SA295b	土師器 皿	*	1.1	*	*	口縁～体部 破片	やや粗 ～1mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良 明褐灰 7.5YR7/2		
27	国48	国版21	SA300a	土師器 皿	*	(3.9)	*	*	口縁部破片	やや粗 ～1mm石英・長石	良 浅黄橙 10YR8/3		
28	国48	国版21	SA300e	土師器 皿	*	(4.5)	*	*	口縁部破片	やや粗 ～1mm石英・長石・雲母・チャート	良 浅黄橙 10YR8/4		
29	国49	国版21	SE055	土師器 皿	10.0	2.6	*	80%	やや粗 ～2mm石英・長石・雲母	良 5YR7/6	燒成後穿孔		
30	国49	国版21	SE055	土師器 皿	10.4	2.9	*	90%	やや粗 ～2mm石英・長石・クサリ礫	良 灰白 10YR8/2			
31	国49	国版22	SE055	須弥器 鉢	*	(3.0)	*	*	口縁部破片	やや粗 ～5mm石英・長石	良 にぶい黄調 2.5YR4/3		

表2 報告遺物一覧 (2)

報告 番号	種別 固形	出土遺構 層位	種別 器種	口径 (cm)	高さ (cm)	直径 (cm)	重 量	残存率	施土・素材	焼成・色調	特記事項
32 国49 国版 22	SE055 暗灰色粘土 質	土師器 質	(14.1) - 4.2 - *	-	*	25%	密 ~ 3mm 石英・長石	良 灰白 2.5YR/1			
33 国49 国版 22	SE055 暗灰色粘土 質	輸入陶器 青磁碗	15.6 - 6.7 - *	-	*	80%	密 陶片49粒	良 灰白 N7/D	(地) 明時代? SGY7/1 南京窯系		
34 国49 国版 22	SE055 明灰粘土 質	土師器 質	(41.6) - (25.7) - 11.6	-	-	25%	や少粗 ~ 4mm 石英・長石・雲母・黒色粒	良 灰 NS/0			
35 国49	SE055	土師器 質	(9.4) - 1.4 - *	-	*	25%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石・クサリ繩	良 浅黄緑 10YR8/3			
36 国49 国版 23	SE055	土師器 質	(9.7) - 2.5 - *	-	*	50%	や少粗 ~ 12mm 石英・長石・雲母	良 赤橙 10R6/6			
37 国49 国版 23	SE055	土師器 質	9.9 - 2.8 - *	-	*	100%	や少粗 ~ 8mm 石英・長石・雲母	良 棕 5YR6/8			
38 国49 国版 23	SE055	土師器 質	(10.7) - 2.7 - *	-	*	50%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 灰白 10YR8/1			
39 国50 国版 23	SE060	土師器 質	(8.4) - 1.3 - *	-	*	50%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石・雲母	良 明時代灰 7.5YR7/2			
40 国50 国版 23	SE060	土師器 質	8.6 - 1.2 - *	-	*	70%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石・カサリ繩	良 棕 5YR7/6			
41 国50	SE060	土師器 質	9.2 - 1.1 - *	-	*	65%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石・チャート	良 浅黄緑 10YR8/3			
42 国50 国版 23	SE060	土師器 質	9.6 - 1.7 - *	-	*	80%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 淡褐 5YR8/4			
43 国50 国版 23	SE060	土師器 質	9.9 - 1.6 - *	-	*	100%	や少粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 浅黄緑 7.5YR8/3			
44 国50	SE060	土師器 質	(10.8) - (2.3) - *	-	*	25%	や少粗 ~ 4mm 石英・長石・雲母・カサリ繩	良 に赤・黄褐 10YR7/2			
45 国50 国版 23	SE060	土師器 質	12.0 - 2.2 - *	-	*	35%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石・カサリ繩	良 浅黄緑 7.5YR8/3			
46 国50 国版 23	SE060	土師器 質	(13.4) - 3.0 - *	-	*	50%	や少粗 ~ 4mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 淡褐 5YR8/3			
47 国50 国版 23	SE060	土師器 質	(13.1) - 2.4 - *	-	*	25%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石・カサリ繩	良 浅黄緑 10YR8/3			
48 国50 国版 23	SE060	土師器 質	15.2 - 3.2 - *	-	*	80%	や少粗 ~ 2mm 石英・長石・雲母	良 灰白 2.5YR8/2			
49 国50 国版 23	SE060 台付器	土師器 質	(13.0) - 2.1 - *	-	*	25%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 灰白 10YR8/2			
50 国50 国版 24	SE060 蓋	25.4 - (8.0) - *	-	-	-	13個部65%	や少粗 ~ 4mm 石英・長石・カサリ繩	良 灰白 5YR8/2			
51 国50 国版 24	SE060 蓋	* - (4.1) - *	-	-	-	口縁～体部 破片	や少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 灰 N5/0			
52 国50 国版 24	SE060	瓦底付器 質	* - (4.2) - *	-	-	口縁部破片	や少粗 ~ 2mm 石英・長石	良 灰 N5/0			
53 国50 国版 24	SE060	瓦	13.4 - 4.4 - *	-	*	70%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 灰 N4/0			
54 国50 国版 24	SE060	圓底陶器 質	* - (7.4) - *	-	-	口縁部破片	3mm や少粗 ~ 2mm 石英・長石	良 灰 N4/0			
55 国51 国版 24	SE100 暗灰色粗砂 質	土師器 質	9.4 - 1.7 - *	-	*	100%	や少粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 棕 5YR7/6			
56 国51 国版 24	SE100 暗灰白色砂 質	土師器 質	9.8 - 1.5 - *	-	*	80%	や少粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 淡黄 2.5YB/3			
57 国51 国版 24	SE100 暗灰色粗砂 質	土師器 質	(10.7) - 1.7 - *	-	*	25%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石・雲母	良 浅黄緑 10YR8/3			
58 国51 国版 25	SE100 暗灰白色砂 質	土師器 質	14.4 - 3.4 - *	-	*	90%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石・雲母	良 淡黄緑 10YR8/3			
59 国51	SE100 暗灰白色砂 質	瓦	(13.9) - (4.1) - *	-	*	25%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 暗灰 N3/0			
60 国51 国版 25	SE100 瓦	14.2 - 5.5 - *	-	-	*	65%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 暗灰 N3/D			
61 国51	SE100 暗灰白色砂 質	瓦	(14.5) - (4.6) - *	-	*	25%	や少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 灰 N4/0			
62 国51 国版 25	SE100 暗灰色粗砂 質	瓦	(8.6) - 1.7 - *	-	*	25%	や少粗 ~ 2mm 粒	良 灰 N4/0			

表3 報告遺物一覽（3）

報告書号	陣回	写真 図版	出土遺構 部位	種別 器種	口径 (幅) (高)	器高 (幅) (厚)	底径 (厚)	重 量	残存率	出土・収集	現成・色調	特記事項
63	国 51	SE100 瓦片・器 鉢	*	(4.2)	-	*			口縁一部体 織片	少々粗 - 2mm 石英・長石	良 灰 N4/0	
64	国 51	SE100 輪入磁器 白磁板	(15.2)	(4.3)	-	*	15%		口縁一部体 織片	少々粗 - 1mm 黒色鉄	(糊) 白灰 灰白 N8/0	(糊) 白 7.5YR8/1
65	国 51	SE100 輪入磁器 白磁板	*	(1.5)	-	*			口縁一部体 織片	少々粗 - 小砂粒	良 灰 2.5YR8/1	(糊) 白 2.5YR8/2
66	国 51 回数 25	瓦 軒丸瓦	(4.7)	(10.0)	(10.2)				粗	- 2mm 石英・長石・黑色鉄	灰白 N8/0	
67	国 51 回数 25	瓦 軒平瓦	(5.5)	(15.6)	-	10.4			少々粗 - 4mm 石英・長石・黑色鉄	良 N7/0		
68	国 51 回数 25	土師器 灰黄色粗 目	9.8	-	1.6	-	100%		少々粗 - 1mm 石英・長石・クサリ澤・雲母	良 浅黄褐 7.5YR8/4		
69	国 51 回数 25	土師器 灰黄色粗 目	10.6	-	2.2	-	*	100%	少々粗 - 5mm 石英・長石・クサリ澤・雲母	良 浅黄褐 7.5YR8/3		
70	国 51 回数 25	土師器 灰黄色粗 目	(10.6)	-	1.8	-	*	25%	少々粗 - 1mm 石英・長石・クサリ澤・雲母	良 浅黄褐 10YR8/3		
71	国 51 回数 25	土師器 灰黄色粗 目	14.9	-	2.6	-	*	70%	粗 - 1mm 石英・長石・雲母	良 浅黄褐 10YR8/3		
72	国 51	土師器 灰黄色粗 目	(14.8)	-	3.0	-	*	35%	少々粗 - 1mm 石英・長石・雲母	良 浅黄褐 10YR8/3		
73	国 51	瓦片 灰黄色粗 目	*	(5.6)	-	*			口縁一部体 織片	少 - 1mm 石英・長石	良 灰 N4/0	
74	国 51	瓦片 灰黄色粗 目	(10.0)	-	1.8	-	*	25%	少々粗 - 1mm 石英・長石	良 灰 N3/0		
75	国 51 回数 26	瓦片 灰黄色粗 目	(8.6)	-	2.1	-	*	40%	少々粗 - 1mm 石英・長石	良 灰灰 N3/0		
76	国 51	土師器 墨色土 目	9.2	-	1.5	-	*	70%	粗 - 1mm 石英・長石・クサリ澤	良 灰白 10YR8/2		
77	国 51 回数 26	土師器 墨色粘土 目	9.2	-	1.7	-	*	100%	粗 - 1mm 石英・長石・クサリ澤・雲母	良 灰白 2.5YR8/1		
78	国 51 回数 26	土師器 墨色粘土 目	9.4	-	1.7	-	*	80%	少々粗 - 2mm 石英・長石・クサリ澤・雲母	良 灰白 2.5YR8/1		
79	国 51	SE100 土師器 墨色土 目	9.7	-	1.8	-	*	60%	少々粗 - 5mm 石英・長石・クサリ澤・雲母	良 浅黄褐 7.5YR8/4		
80	国 51 回数 26	SE100 土師器 墨色土 目	10.0	-	2.0	-	*	65%	粗 - 2mm 石英・長石・クサリ澤・雲母	良 浅黄褐 7.5YR8/3		
81	国 51 回数 26	SE100 土師器 墨色土 目	10.0	-	1.8	-	*	100%	粗 - 1mm 石英・長石・雲母	良 灰白 7.5YR8/2		
82	国 51 回数 26	SE100 土師器 墨色土 目	10.0	-	2.0	-	*	60%	少々粗 - 3mm 石英・長石	良 灰白 10YR8/1		
83	国 51 回数 26	SE100 墨色粘土 目	13.8	-	2.7	-	*	66%	少々粗 - 3mm 石英・長石・クサリ澤・雲母	良 灰白 5YR8/3		
84	国 51 回数 26	SE100 墨色粘土 目	14.8	-	3.0	-	*	80%	少々粗 - 1mm 石英・長石・雲母	良 灰白 5YR8/3	に少し黒鉛 10YR7/2	
85	国 52 回数 26	SE100 墨色土 目	11.4	-	4.0	-	4.4	100%	粗 織小砂粒	良 N4/0		
86	国 52 回数 26	SE100 墨色土 目	14.1	-	5.3	-	4.8	90%	粗 織小砂粒	良 N4/0		
87	国 52 回数 26	SE100 墨色土 目	14.2	-	5.0	-	5.1	100%	粗 織小砂粒	良 N4/0		
88	国 52 回数 27	SE100 墨色土 目	8.6	-	2.0	-	*	100%	粗 - 1mm 石英・長石	良 灰灰 N3/0		
89	国 52 回数 27	SE100 墨色粘土 目	9.0	-	2.2	-	*	80%	粗 - 1mm 石英・長石	良 N4/0		
90	国 52 回数 28 3箇所	木製品 不明	9.5	-	6.0	-	2.5					板印取り
91	国 52 回数 28 3箇所	木製品 不明	81.2	-	6.7	-	2.5					通幅印取り
92	国 53 回数 27	SE120 土師器 目	10.2	-	2.0	-	*	80%	粗 - 1mm 石英・長石	良 灰白 10YR8/2		
93	国 53 回数 27	SE120 土師器 目	10.6	-	2.3	-	*	100%	粗 - 2mm 石英・長石・雲母・チート	良 灰白 10YR8/3		

表4 報告遺物一覧(4)

報告 番号	種別	写真 図版	出土遺構 層位	種別 器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	重 量	残存率	埴土・素材	焼成・色調	特記事項
94 国53	円筒	27	SE120	土師器 皿	15.5	-	3.2	-	*	やや粗 ~ 5mm 石英・長石・雲母	良 焼白 2.5YR8/3	
95 国53	円筒	27	SE120	瓦器 皿	(9.6)	-	1.7	-	*	密 微小砂粒	良 灰 N4/0	
96 国53			SE120	輸入磁器 白磁器	(14.2)	-	(2.8)	-	*	密 微小黑色粒	良 白 N9/0	
97 国53	円筒	27	SE120	輸入磁器 白磁器	(16.8)	-	(4.4)	-	*	口縁~全体 25%	良 白 N9/0	
98 国54	円筒	29	SE190 1~4層	土師器 皿	9.7	-	1.4	-	*	密 微小砂粒・雲母	良 灰白 7.5YR8/2	
99 国54	円筒	29	SE190 1~4層	土師器 皿	9.8	-	1.5	-	*	密 微小砂粒・雲母	良 灰白 2.5Y7/1	
100 国54	円筒	29	SE190 1~4層	土師器 皿	(11.0)	-	2.6	-	*	やや粗 ~ 4mm 石英・長石・クサリ繊・雲母 チャート	良 灰白 10YR8/2	
101 国54	円筒	29	SE190 1~4層	土師器 皿	(16.2)	-	3.8	-	*	やや粗 ~ 1mm 石英・長石・雲母	良 焼白 7.5YR6/2	
102 国54	円筒	29	SE190 1~4層	土師器 皿	16.7	-	3.7	-	*	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・雲母	良 焼黄 2.5Y8/3	
103 国54			SE190 1~4層	黒化土器 椀	*	-	(5.0)	-	*	口縁~全体 繊片	良 ~ 4mm 石英・長石	暗灰 N3/0 B類
104 国54			SE190 1~4層	黒化土器 椀	*	-	(1.5)	-	6.8	底部 100%	密 微小砂粒	良 暗灰 N3/0 B類
105 国54	円筒	29	SE190 1~4層	軒丸瓦	(12.3)	-	18.6	-	(18.4)	やや粗 ~ 6mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N6/0	
106 国54	円筒	30	木製品 鉢下盤	曲物	*	-	(7.7)	-	*			板口取り
107 国54	円筒	29	木製品 鉢下盤	曲物	22.0	-	21.0	-	1.3			沿用材取り 油面底板転用
108 国55			SE190 3層	木製品 不明	(86.7)	-	(18.0)	-	4.5			追跡材取り
109 国56	SE235	1~2層	土師器 皿	(8.6)	-	1.5	-	*	50%	やや粗 ~ 1mm 石英・長石・クサリ繊・雲母	良 浅黄褐 7.5YR8/3	
110 国56	SE235	1~2層	土師器 皿	9.8	-	1.7	-	*	100%	やや粗 ~ 4mm 石英・長石・雲母・チャート	良 灰白 10YR7/3	
111 国56	SE235	1~2層	土師器 皿	(9.9)	-	1.7	-	*	40%	やや粗 ~ 1mm 石英・長石・クサリ繊・雲母	良 灰 5YR6/6	
112 国56	SE235	1~2層	瓦器 皿	(9.2)	-	1.8	-	*	35%	密 微小砂粒	良 灰 N4/0	
113 国56	SE235	1~2層	輸入磁器 白磁器	*	-	(2.8)	-	*	口縁~繊片	密 微小砂粒	良 灰白 N8/0	
114 国56	SE235	3~4層	土師器 皿	(15.4)	-	2.5	-	*	25%	やや粗 ~ 4mm 石英・長石・クサリ繊・雲母	良 灰白 10YR8/2	
115 国56	SE235	3~4層	瓦器 皿	(12.0)	-	3.5	-	*	10%	やや粗 ~ 1mm 石英・長石	良 灰 N4/0	
116 国56	SE235	3~4層	輸入磁器 青磁器	(15.9)	-	6.2	-	*	30%	密 微小砂粒	良 灰白 5Y8/1	(種) 青オリーブ 5Y6/2 海底葉系
117 国56	SE235	3~4層	木製品 柱	31.2	-	10.7	-	10.3				心材
118 国56	SE235	3~4層	木製品 柱	6.2	-	12.6	-	6.2				心材
119 国56	SE235	3~4層	木製品 柱	8.5	-	6.4	-	6.4				板口取り
120 国56	SE235	3~4層	木製品 棒・ささら	26.8	-	2.8	-	1.2				板口取り
121 国56	SE235	5~7層	土師器 皿	*	-	2.0	-	*	口縁~全体 繊片	やや粗 ~ 4mm 石英・長石・クサリ繊・雲母	良 淡褐 5YR8/4	
122 国56	SE235	5~7層	土師器 皿	*	-	(1.8)	-	*	口縁~全体 繊片	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・クサリ繊・雲母	良 灰白 7.5YR8/2	
123 国56	SE235	5~7層	瓦質土器 盆	*	-	10.6	-	*	口縁~全体 繊片	やや粗 微小砂粒	良 灰 N4/0	

表5 報告遺物一覧(5)

報告 番号	神社 名	写真 図版	出土遺構 層位	地質 岩種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (mm)	重 量	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
124 国 57	国版 31	SE235	土師器 釜	(26.0) - (8.0) - *	10	2.0	25%	半中粗 ~1mm石英・長石・雲母	良 焼灰N3/0			
125 国 57	国版 32	SE235	木製品 丸板	20.8 - 8.2 - 1.1							道桟目取り 手道具軋用	
126 国 57	国版 32	SE235	木製品 不明	(20.2) - 9.3 - 1.2							道桟目取り	
127 国 57	国版 32	SE235	木製品 不明	(19.3) - (6.0) - 0.7							道桟目取り	
128 国 57	国版 32	SE235	木製品 不明	(46.1) - 6.3 - 1.9							板目取り	
129 国 58	国版 33	SE240 1-7層	土師器 釜	10.2 - 2.0 - *	80%			半中粗 ~1mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良			
130 国 58	国版 33	SE240 1-7層	土師器 釜	* - (7.4) - *	10	1.8	100%	半中粗 ~2mm石英・長石 口縁~体部 細片	良 明褐色7.5YR7/2			
131 国 58		SE240 8-11層	土師器 釜	8.7 - 1.7 - *	50%			半中粗 ~2mm石英・長石・クサリ礫	良 にぶい褐色	5YR7/4		
132 国 58		SE240 8-11層	土師器 釜	(10.0) - 1.9 - *	40%			半中粗 ~2mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良			
133 国 58		SE240 8-11層	土師器 釜	(12.6) - 2.2 - *	50%			半中粗 ~2mm石英・長石・クサリ礫	良		灰白10YR8/2	
134 国 58	国版 33	SE240 8-11層	瓦器 桶	(13.8) - 4.5 - (5.7)	25%			半中粗 ~1mm石英・長石	良			
135 国 58	国版 33	SE240	土師器 組	8.2 - 1.4 - *	50%			微小砂粒・雲母	良		にぶい黄褐色 10YR7/2	
136 国 58	国版 34	SE240	土師器 組	(9.4) - 1.1 - *	15%			半中粗 ~4mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良			
137 国 58	国版 33	SE240	土師器 組	9.7 - 1.9 - *	100%			半中粗 ~2mm石英・長石・雲母	良		灰黃褐色10YR6/2	
138 国 58	国版 33	SE240	土師器 組	9.5 - 1.7 - *	80%			半中粗 ~5mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良		灰白7.5YR8/2	
139 国 58	国版 33	SE240	土師器 組	9.7 - 2.0 - *	100%			半中粗 ~2mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良		5YR7/6	
140 国 58	国版 33	SE240	土師器 組	9.9 - 2.1 - *	60%			半中粗 ~3mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良		5YR7/6	
141 国 58	国版 34	SE240	土師器 組	13.7 - 2.9 - *	100%			半中粗 ~2mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良		淡橙5YR8/4	
142 国 58	国版 34	SE240	土師器 組	(14.6) - 2.9 - *	35%			半中粗 ~2mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良		にぶい褐色 7.5YR7/4	
143 国 58	国版 34	SE240	須磨器 組	* - (3.8) - *	10	1.8	100%	半中粗 ~3mm石英・長石・黒色粒	良		灰白NB/D	
144 国 58	国版 34	SE240	瓦器 組	(13.0) - 5.0 - *	33%			半中粗 ~1mm石英・長石	半中不直 浅灰組	10YR8/3		
145 国 58	国版 34	SE240	瓦器 組	(9.9) - 1.7 - *	25%			半中粗 ~1mm石英・長石	良		N4/0	
146 国 58	国版 34	SE240	輪入磁器 白磁板	(17.0) - (5.0) - *	10	1.8	100%	口縁~体部 細片	良			
147 国 58	国版 35	SE240	輪入磁器 白磁板	(9.6) - (5.0) - *	10	1.8	100%	口縁~体部 細片	良		灰白NB/D	
148 国 58	国版 35	SE240	輪入陶器 組	(8.3) - (4.1) - *	10	1.8	100%	口縁~体部 細片	良		灰白10R5/4 (輪)箱赤面 2.5YR3/2	
149 国 59	国版 35	SG005	土師器 組	(13.6) - 2.7 - *	25%			半中粗 ~3mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良		にぶい褐色 7.5YR7/4	
150 国 59	国版 35	SG005	土師器 組	* - 2.1 - *	10	1.8	100%	半中粗 ~3mm石英・長石・クサリ礫	良		5YR7/6	
151 国 59	国版 35	SG005	土師器 組	* - 1.1 - *	10	1.8	100%	半中粗 ~2mm石英・長石・クサリ礫・雲母	良		5YR7/3	
152 国 60	国版 35	SK025	瓦 軒瓦	(9.5) - (13.2) - (5.7)				半中粗 ~10mm石英・長石	良		N4/0	
153 国 60	国版 35	SK050	土師器 組	(14.1) - 1.9 - *	30%			半中粗 ~1mm石英・長石・雲母	良		浅灰橙10YR8/3	

表6 報告遺物一覧 (6)

報告 番号	地図 図版	出土遺構 層位	種別 器種	口径 (cm)	高さ (cm)	直径 (cm)	重 量	残存率	施土・素材	焼成・色調	特記事項
154 国 60 国版 35 SK050	瓦踏 板	*	- (3.9) - *						口縁～体部 破片	やや粗 ～1mm 石英・長石	良 灰 N4/0
155 国 60 国版 36 SK050	輸入磁器 青磁板	*	- (4.3) - *						口縁部破片	密	良 灰オリーブ 5Y4/2
156 国 60 国版 36 SK075	土師器 皿	(9.8)	- 1.5 - *					50%	やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ繩・雲母	良 に茶・黄 7.5YR7/4	
157 国 60 国版 36 SK075	土師器 皿	(10.0)	- 2.1 - *					30%	やや粗 ～1mm 石英・長石・クサリ繩・雲母	良 に茶・黄 10YR7/4	
158 国 60 国版 36 SK075	土師器 皿	(15.3)	- 3.8 - *					30%	やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ繩	良 に茶・黄 10YR7/3	
159 国 60 国版 36 SK075	瓦踏 板	(8.8)	- 4.8 - (4.8)					25%	やや粗 ～1mm 石英・長石・雲母	良 暗灰 N3/0	
160 国 61 国版 36 SK080	土師器 皿	10.2	- 1.8 - *					85%	やや粗 ～3mm 石英・長石・雲母	良 灰白 10YR8/2	
161 国 61 国版 36 SK080	土師器 皿	10.4	- 2.2 - *					100%	密 ～3mm 石英・長石・雲母・チャート	良 に茶・黄 10YR7/3	
162 国 61 国版 36 SK080	土師器 皿	10.8	- 2.2 - *					80%	やや粗 ～4mm 石英・長石・雲母・チャート	良 灰白 2.5Y8/2	
163 国 61 国版 36 SK080	土師器 皿	15.0	- 3.2 - *					55%	やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ繩・雲母	良 に茶・黄 10YR7/3	
164 国 61 国版 36 SK080	土師器 皿	15.1	- 3.1 - *					75%	やや粗 ～4mm 石英・長石・クサリ繩・雲母 チャート	良 灰白 2.5Y8/2	
165 国 61 国版 37 SK080	土師器 蓋	30.0	- (15.7) - *					70%	粗 ～4mm 石英・長石・クサリ繩・雲母	良 灰白 5YR8/2	
166 国 61 国版 36 SK080	瓦踏 板	(13.9)	- 5.0 - (4.8)					20%	やや粗 ～1mm 石英・長石	良 暗灰 N3/0	
167 国 61 国版 37 SK080	瓦踏 板	(14.8)	- (4.3) - *					15%	密	良 N4/0	
168 国 61 国版 36 SK080	瓦踏 板	10.1	- 2.1 - *					95%	～1mm 石英・長石	良 灰 N5/0	
169 国 61 国版 37 SK080	瓦踏 板	10.1	- 2.2 - *					100%	密 微小砂粒	良 灰 N5/0	
170 国 61 国版 37 SK080	瓦踏 板	10.7	- 2.0 - *					90%	密 微小砂粒	良 灰 N5/0	
171 国 61 国版 37 SK105	土師器 皿	9.9	- 1.9 - *					90%	密 ～1mm 石英・長石・雲母	良 灰青 2.5Y7/2	
172 国 61 国版 37 SK105	土師器 皿	9.9	- 1.8 - *					80%	やや粗 ～3mm 石英・長石・雲母・チャート	良 に茶・黄 5YR8/4	
173 国 61 国版 37 SK105	土師器 皿	10.1	- 1.7 - *					95%	密 ～2mm 石英・長石・雲母・チャート	良 灰青 2.5Y7/3	
174 国 61 国版 37 SK105	土師器 皿	10.0	- 1.8 - *					95%	やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ繩・雲母	良 に茶・黄 10YR7/3	
175 国 61 SK105	土師器 皿	(13.8)	- 3.0 - *					45%	やや粗 ～1mm 石英・長石・雲母	良 灰 2.5Y6/1	
176 国 62 国版 38 SK110	土師器 皿	8.2	- 1.4 - *					100%	やや粗 ～1mm 石英・長石・クサリ繩・雲母	良 に茶・橙 5YR7/4	
177 国 62 国版 38 SK110	土師器 皿	8.5	- 1.5 - *					100%	やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ繩・雲母	良 に茶・橙 5YR7/4	
178 国 62 国版 38 SK110	土師器 皿	8.8	- 1.5 - *					90%	やや粗 ～1mm 石英・長石・クサリ繩・雲母 粗 5YR7/6	良	
179 国 62 国版 38 SK110	土師器 皿	8.9	- 1.6 - *					100%	やや粗 ～2mm 石英・長石・クサリ繩・雲母 粗 5YR7/6	良	
180 国 62 国版 38 SK110	土師器 皿	11.0	- 2.5 - *					90%	やや粗 ～1mm 石英・長石・クサリ繩・雲母 粗 5YR7/6	良	
181 国 62 国版 38 SK110	土師器 皿	11.0	- 1.4 - *					100%	やや粗 ～1mm 石英・長石・クサリ繩・雲母 粗 5YR7/4	良	

表7 報告遺物一覧(7)

報告 番号	種類 図版	写真 図版	出土遺構 部位	種別 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (mm)	重 量	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項	
182 国 62 国版 38 SK110			土師器 組	土師器	11.7	-	2.6	-	*	100%	やや粗 ~1mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 にぶい緑 5YR7/4	
183 国 62 国版 38 SK110			土師器 組	土師器	11.8	-	2.7	-	*	80%	やや粗 ~2mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 にぶい緑 5YR7/4	
184 国 62 国版 38 SK110			土師器 組	土師器	13.6	-	3.3	-	*	70%	やや粗 ~2mm石英・長石・雲母	良 粗 5YR7/6	
185 国 62 国版 38 SK110			瓦器 組	瓦器	(10.3)	-	3.5	-	(2.8)	25%	やや粗 微小砂粒	良 灰 N5/0	
186 国 62 国版 38 SK110			瓦器 組	瓦器	(11.2)	-	3.4	-	3.8	70%	やや粗 ~1mm石英・長石・クサリ輝	良 灰 N5/0	
187 国 62 国版 39 SK110			圓座陶器 組	圓座陶器	47.8	-	82.8	-	20.9	70%	やや粗 ~6mm石英・長石・クサリ輝	良 灰 灰 5YR5/2	黒斑
188 国 63 国版 40 SK165			木製品 組	木製品	(18.1)	-	(4.4)	-	*			横木取り	
189 国 63 国版 40 SK165			木製品 組	木製品	(31.7)	-	(11.1)	-	1.2				
190 国 63 国版 40 SK170			土師器 組	土師器	8.5	-	1.3	-	*	90%	やや粗 ~2mm石英・長石・クサリ輝	良 浅黄緑 10YR8/3	
191 国 63 SK170			土師器 組	土師器	(11.8)	-	2.6	-	*	45%	やや粗 ~1mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 灰白 10YR8/2	
192 国 63 国版 40 SK170			土師器 組	土師器	12.0	-	3.1	-	*	60%	やや粗 ~3mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 粗 5YR7/6	
193 国 63 国版 40 SK180			土師器 組	土師器	8.6	-	1.4	-	*	70%	やや粗 ~1mm石英・長石	良 灰白 10YR8/2	
194 国 63 国版 40 SK180			灰陶陶器 組	灰陶陶器	(12.5)	-	2.3	-	(7.2)	40%	や ~1mm石英・長石	良 灰白 2.5Y7/1	
195 国 64 国版 41 SK185			土師器 組	土師器	(8.7)	-	1.6	-	*	40%	やや粗 ~3mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 粗 5YR7/6	
196 国 64 SK185			土師器 組	土師器	(12.5)	-	2.9	-	*	35%	やや粗 ~3mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 浅黄緑 7.5YR8/3	
197 国 64 SK185			土師器 組	土師器	*	-	(2.9)	-	*	口縁-体部 組片	やや粗 ~1mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 粗 5YR6/6	
198 国 64 国版 41 SK185			土師器 竹口付 組	土師器 竹口付	11.0	-	4.9	-	8.8	80%	や ~1mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 浅黄緑 7.5YR8/3	
199 国 64 国版 41 SK185			須恵器 組	須恵器	*	-	(6.7)	-	*	口縁部組片	やや粗 ~3mm石英・長石・黒色粒	良 灰白 2.5Y7/1	
200 国 64 国版 41 SK185			瓦器 組	瓦器	12.9	-	3.9	-	4.5	80%	やや粗 ~1mm石英・長石	良 灰 N3/0	
201 国 65 国版 41 SK215			土師器 組	土師器	(13.2)	-	2.5	-	*	40%	やや粗 ~2mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 明灰灰 7.5YR7/2	
202 国 65 国版 41 SK215			土師器 組	土師器	12.4	-	3.0	-	*	65%	やや粗 ~2mm石英・クサリ輝・雲母	良 にぶい・黒闊 10YR7/2	
203 国 65 国版 41 SK215			土師器 組	土師器	*	-	(7.3)	-	*	口縁-体部 組片	やや粗 ~1mm石英・長石・雲母	良 灰灰 2.5Y5/1	
204 国 65 国版 42 SK215			黑色土器 組	黑色土器	*	-	(2.1)	-	7.2	底部 100%	や ~2mm石英・長石・クサリ輝	良 暗灰 N3/0	A類
205 国 65 SK245			土師器 組	土師器	(10.0)	-	1.8	-	*	45%	やや粗 ~1mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 灰白 7.5YR8/2	
206 国 65 国版 42 SK245			瓦質土器 組	瓦質土器	*	-	(2.5)	-	*	口縁部組片	やや粗 ~1mm石英・長石・クサリ輝	良 暗灰 N3/0	
207 国 65 国版 42 SK245			木製品 組	木製品	85.5	-	10.0	-	6.3			心去削削材	
208 国 65 国版 42 SK245			木製品 組	木製品	132.5	-	10.4	-	10.5			心持材	
209 国 66 国版 43 SK250			土師器 組	土師器	26.9	-	22.0	-	*	50%	やや粗 ~4mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 灰白 10YR8/2	
210 国 66 国版 43 SK260			土師器 組	土師器	(10.0)	-	2.0	-	*	40%	やや粗 ~2mm石英・長石・雲母	良 灰 2.5Y7/2	
211 国 66 国版 43 SK260			土師器 竹口付 組	土師器 竹口付	*	-	(3.1)	-	10.3	底部 80%	やや粗 ~4mm石英・長石・クサリ輝	良 浅黄緑 7.5YR8/3	
212 国 66 国版 43 SK260			瓦器 組	瓦器	14.4	-	5.1	-	4.8	90%	や 微小砂粒	良 灰 N4/0	

表8 報告遺物一覧(8)

報告 番号	埋蔵 層	出土遺物 層位	種別 器種	口径 (cm)	高さ (cm)	直径 (cm)	重 量	残存率	施土・素材	焼成・色調	特記事項
213	岡66	岡版43	SK260	輪入磁器 白磁片	*	(4.7)	*		口縁～体部 織片	密 ~1mm 黒色粒	良 灰白 7.5YR8/1
214	岡66	岡版43	SK293	土師器 皿	*	(2.7)	*		口縁～体部 織片	やや粗 ~2mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 にぶい・黄褐色 7.5YR7/4
215	岡66	岡版43	SK293	土師器 皿	*	(2.5)	*		口縁～体部 織片	やや粗 ~1mm 長石・カサリ繩・雲母	良 灰黄褐色 10YR5/2
216	岡67	岡版44	SK305	土師器 皿	8.8	1.2	*	45%	やや粗 ~1mm 石英・長石・雲母	良 にぶい・黄褐色 10YR7/4	
217	岡67	岡版44	SK305	土師器 皿	(13.3)	2.5	*	25%	やや粗 ~5mm 石英・長石・カサリ繩・チャート	良 粗 5YR7/6	
218	岡67	岡版44	SK305	土師器 皿	(14.6)	(3.0)	*	40%	やや粗 ~3mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 5YR0/6	
219	岡67	岡版44	SK305	土師器 皿	(10.0)	2.3	5.5	65%	やや粗 ~5mm 石英・長石・雲母・チャート	良 灰白 10YR8/2	
220	岡67	岡版44	SK305	瓦器 皿	15.0	4.4	9.3	35%	密 ~1mm 石英・長石・雲母	良 灰 N5/0	
221	岡67	岡版44	SK310	土師器 皿	(12.0)	2.5	*	25%	やや粗 ~2mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 粗 5YR7/6	
222	岡67	岡版44	SK310	瓦器 皿	(11.0)	4.3	(3.7)	25%	やや粗 ~1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N4/0	
223	岡67	岡版44	SK315	土師器 皿	9.7	2.0	*	55%	やや粗 ~2mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 灰黄褐色 7.5YR8/3	
224	岡67	岡版44	SK315	土師器 皿	10.0	1.6	*	100%	やや粗 ~2mm 石英・長石・雲母	良 粗 5YR7/6	
225	岡67		SK315	土師器 皿	*	2.0	*		口縁～体部 織片	密 ~1mm 石英・長石・雲母	灰黄褐色 10YR8/3
226	岡67	岡版45	SK315	土師器 皿	(14.5)	2.6	*	40%	やや粗 ~2mm 石英・長石・雲母	良 にぶい・黄褐色 10YR7/4	
227	岡67	岡版45	SK315	土師器 皿	14.9	3.2	*	100%	やや粗 ~3mm 石英・長石・雲母	良 灰白 7.5YR8/2	
228	岡67	岡版45	SK376	土師器 皿	10.2	2.1	*	80%	やや粗 ~1mm 石英・長石・雲母	良 灰白 2.5YR8/1	
229	岡67		SK376	土師器 皿	(10.2)	1.9	*	50%	やや粗 ~1mm 石英・長石・雲母	良 にぶい・粗 7.5YR7/4	
230	岡67		SK376	土師器 皿	(10.7)	2.1	*	70%	やや粗 ~1mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 粗 7.5YR7/6	
231	岡67	岡版45	SK376	土師器 皿	14.6	2.7	*	70%	やや粗 ~1mm 石英・長石・雲母	良 淡黄 2.5YB8/3	
232	岡67	岡版45	SK376	土師器 皿	14.8	2.9	*	85%	やや粗 ~3mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 灰 灰黄褐色 10YR8/4	
233	岡67	岡版45	SK376	土師器 皿	15.0	2.9	*	100%	密 ~2mm 石英・長石・雲母	良 にぶい・黄褐色 10YR7/3	
234	岡67		SK376	土師器 皿	15.8	3.2	*	70%	やや粗 ~2mm 石英・長石・雲母	良 にぶい・黄褐色 10YR7/3	
235	岡67	岡版45	SK376	瓦器 皿	(15.4)	5.7	5.4	30%	密 ~1mm 石英・長石・カサリ繩	良 灰 N4/0	
236	岡67	岡版45	SK376	瓦器 皿	(15.6)	5.0	6.0	40%	密 ~1mm 石英・長石・カサリ繩	良 灰 N4/0	
237	岡67	岡版45	SK376	瓦器 皿	(11.4)	2.2	*	35%	密 ~1mm 石英・長石・カサリ繩	良 灰 N4/0	
238	岡68	岡版45	SK268	土師器 皿	(13.2)	2.2	*	45%	密 ~3mm 石英・長石・雲母	良 にぶい・粗 5YR7/4	
239	岡68		SK268	土師器 皿	*	(2.0)	*		口縁～体部 織片	やや粗 ~1mm 石英・長石・雲母	良 灰黄褐色 7.5YR8/3
240	岡68	岡版46	SK269	陶質陶器 皿	*	(10.5)	*		口縁部織片	やや粗 ~3mm 石英・長石	良 暗赤褐色 2.5YR3/3 褐色
241	岡68	岡版46	SK272	土師器 皿	8.6	1.8	*	70%	やや粗 ~1mm 石英・長石・カサリ繩・雲母	良 にぶい・粗 5YR7/4	

表9 報告遺物一覧(9)

報告 番号	種類 図版	出土遺構 層位	地質 岩種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (mm)	重 量	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
242 国 68	国版 46	SX281	全灰製品 陶器	2.5	2.6	~ 0.2	7.3		陶		2枚跳着 元貯造實
243 国 69	国版 46	暗灰色粘土 組	土器部 組	6.7	1.6	~	*	90%	陶	良 灰白 10YR8/2	
244 国 69	国版 46	SX010	暗灰色粘土 組	9.3	2.0	~	*	80%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母	良 橙 5YR6/6	
245 国 69		SX010	暗灰色粘土 組	10.2	2.0	~	*	25%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 灰白 10YR8/2	
246 国 69	国版 46	暗灰色粘土 組	土器部 組	10.4	2.5	~	*	60%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母	良 橙 5YR6/6	
247 国 69	国版 46	SX010	暗灰色粘土 組	10.8	2.2	~	*	100%	少少粗 ~ 2mm 石英・長石・ 雲母	良 灰 にぶい緑 7.5YR7/4	
248 国 69	国版 46	SX010	暗灰色粘土 組	11.1	2.5	~	*	90%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母	良 橙 5YR7/6	
249 国 69	国版 46	SX010	暗灰色粘土 組	10.8	2.9	~	*	95%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 灰白 10YR8/1	
250 国 69	国版 47	SX010	暗灰色粘土 組	11.4	2.9	~	*	90%	陶	良 灰白 7.5YR8/2	
251 国 69	国版 47	SX010	暗灰色粘土 組	11.4	2.8	~	*	100%	陶	良 灰白 7.5YR8/2	
252 国 69	国版 47	SX010	暗灰色粘土 組	11.2	2.8	~	*	100%	陶	良 灰白 7.5YR8/2	
253 国 69	国版 47	SX010	土器部 組	(8.9)	1.6	~	*	20%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母	良 灰 にぶい緑 7.5YR7/4	
254 国 69	国版 47	SX010	土器部 組	9.9	1.9	~	*	85%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母	良 灰 にぶい黄緑 10YR7/3	
255 国 69	国版 47	SX010	土器部 組	10.9	2.9	~	*	55%	少少粗 ~ 2mm 石英・長石	良 灰白 10YR8/2	
256 国 69	国版 47	SX010	土器部 組	(11.1)	1.2	~	*	15%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母	良 灰 にぶい緑 7.5YR6/3	
257 国 69	国版 47	SX010	黑色土器 組	*	(4.6)	~	*		口縁～体部 組片	少少粗 ~ 1mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母	良 灰白 N3/0 A類
258 国 69		SX010	口部 組	(15.9)	5.0	~	(5.5)	25%	少少粗 微少粒	良 灰 N4/0	
259 国 69	国版 47	SX010	口部土器 組	*	(10.2)	~	*		口縁～体部 組片	少少粗 ~ 1mm 石英・長石・ 雲母	良 灰白 N3/0
260 国 70	国版 48	SX140	土器部 組	9.2	1.7	~	*	90%	陶	良 灰 にぶい緑 7.5YR7/6	
261 国 70	国版 48	SX140	土器部 組	10.3	1.8	~	*	70%	少少粗 ~ 2mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母 チャート	良 橙 5YR7/6	
262 国 70	国版 48	SX140	土器部 組	13.1	2.8	~	*	80%	少少粗 ~ 2mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母	良 灰 5YR7/6	
263 国 70	国版 48	SX140	土器部 組	13.1	2.7	~	*	70%	陶	良 灰 にぶい緑 7.5YR7/4	
264 国 70	国版 48	SX140	土器部 組	(10.8)	4.7	~	*	65%	陶	良 灰 浅洪相 10YR8/3	
265 国 70	国版 48	SX140	口部土器 組	(38.7)	5.5	~	*	35%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石	良 灰 N5/0	
266 国 70	国版 48	SX145	茶褐色土 組	(8.0)	1.8	~	*	40%	陶	良 微少粒	
267 国 70		SX145	茶褐色土 組	(8.6)	1.4	~	*	50%	少少粗 ~ 1mm 石英・長石・ クサリ礫・チャート	良 洪灰 2.5YR8/3	
268 国 70	国版 48	SX145	茶褐色土 組	(8.8)	1.5	~	*	60%	少少粗 ~ 2mm 石英・長石・ 雲母	良 橙 5YR7/6	
269 国 70		SX145	茶褐色土 組	(9.6)	2.5	~	*	40%	粗	良 橙 5YR7/6	
270 国 70	国版 49	SX145	茶褐色土 組	12.9	2.8	~	*	70%	少少粗 ~ 7mm 石英・長石・ クサリ礫・雲母	良 橙 5YR7/6	

表 10 報告遺物一覧 (10)

報告 番号	種類 固形	出土遺物 層位	種別 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	直径 (cm)	重 量	残存率	施土・素材	焼成・色調	特記事項
271 国70 国版 49	SX145 新潟色土	石製品 砾石		8.8	3.8	1.1	54.5		粘板瓦		吸水用
272 国70 国版 49	SX145 青灰色粘土	土師器 皿	(8.4)	1.5	*			60%	やや粗 ~2mm石英・長石・雲母	良 にぶい・粗 7.5YR7/3	
273 国70 国版 49	SX145 青灰色粘土	土師器 皿	10.5	2.0	*			80%	やや粗 ~2mm石英・長石・クサリ繩・雲母	良 明灰褐7.5YR7/2	
274 国70 国版 49	SX145 青灰色粘土	土師器 皿	12.8	2.8	*			100%	やや粗 ~2mm石英・長石・クサリ繩・雲母	良 粗 5YR7/6	
275 国70 国版 49	SX145 青灰色粘土	土師器 皿	12.9	3.0	*			90%	やや粗 ~2mm石英・長石・クサリ繩・雲母 チャート	良 浅黄褐7.5YR8/3	
276 国70 国版 49	SX145 青灰色粘土	土師器 皿	13.0	3.4	*			100%	やや粗 ~2mm石英・長石・クサリ繩・雲母 チャート	良 浅黄褐7.5YR8/6	
277 国70 国版 49	SX175	土師器 皿	7.3	1.5	*			100%	やや粗 ~1mm石英・長石・クサリ繩・雲母	良 浅黄 2.5Y7/3	
278 国70 国版 49	SX175	土師器 皿	7.6	1.5	*			100%	やや粗 ~1mm石英・長石	良 浅黄褐 10YR8/3	
279 国70 国版 49	SX175	土師器 皿	(8.2)	1.3	*			100%	やや粗 ~2mm石英・長石	良 浅黄 2.5Y7/3	
280 国70 国版 49	SX175	土師器 皿	9.7	1.8	*			75%	やや粗 ~2mm石英・長石・雲母	良 にぶい・黄褐 10YR7/2	
281 国70 国版 50	SX175	土師器 皿	(13.0)	2.2	*			45%	やや粗 ~2mm石英・長石・雲母	良 浅黄 2.5Y8/3	
282 国70 国版 50	SX175	土師器 付仔皿	8.4	4.8	7.3			100%	やや粗 ~2mm石英・長石・雲母・チャート	良 明灰 10YR6/1	
283 国70 国版 50	SX175	土師器 付仔皿	(11.0)	7.3	9.8			80%	やや粗 ~3mm石英・長石・雲母・チャート	良 灰白 10YR7/1	
284 国71	SP189	土師器 皿	*	(2.5)	*				口縁～体部 織片	良 5YR7/6	
285 国71	SP189 軒丸瓦	(14.1)	14.0	14.2					やや粗 ~5mm石英・長石・雲母・チャート	良 灰 N6/0	
286 国72	国版 50 SE216	瓦 平瓦	(7.7)	(8.3)	2.7				やや粗 ~1mm石英・長石	良 灰褐 10R4/4	
287 国72	国版 51 SE285	土師器 皿	*	1.4	*				口縁～体部 織片	良 にぶい・粗 7.5YR7/4	
288 国72	国版 51 SE285	土師器 皿	*	2.7	*				口縁～体部 織片	良 ~5mm石英・長石・クサリ繩・雲母 粗 5YR7/6	
289 国73	国版 51 表土	白色土器 皿	21.8	4.8	7.3			70%	やや粗 ~5mm石英・長石・雲母・チャート	良 灰白 10YR8/2	
290 国73	国版 51 表土	土製品 土瓦	4.3	6.1	*			100%	密 微小凹粒・クサリ繩	良 浅黄褐 7.5YR8/4	
291 国73	国版 51 表土 東側括弧区	金屬製品 鉄錆	3.7	3.7	0.1	6.1	100%	銅		質水道質	

数値の単位は法寸 cm、重量 g

表 11 検出遺構および出土遺物一覧 (1)

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
1			ピット		土師器(中世～) 瓶	D2
2			ピット		国産陶器甕、平瓦	D2
3			ピット		土師器(中世～) 瓶・繩片、瓦器柄	D2
4			土坑		土師器(中世～) 瓶・繩片、須恵器(中世～) 豆・甕、瓦質土器鉢・縁片、平瓦	D2・3
5	SG005		池		土師器(中世～) 瓶、須恵器(古代) 甕、瓦器柄、瓦質土器鉢・浅鉢、輪入白磁碗、國產染付繩片、国産陶器甕・鉢、瓦質、平瓦、丸瓦、不明瓦	M・N3・4
6			土坑		土師器(中世～) 瓶、須恵器(古墳時代) 甕、瓦器柄、輪入青磁碗、平瓦	D2
7			ピット		土師器(中世～) 繩片	D2
8			土坑		土師器(中世～) 瓶・繩片、須恵器(古墳時代) 甕、須恵器(中世～) 豆・甕、瓦器柄	D3
9			ピット		土師器(中世～) 瓶・杯・繩片、瓦器柄	D3
10	SK010	落ち込み 褐色シルト 暗紅色 粘土			土師器(中世～) 瓶・釜・釜・甕・繩片、須恵器(古代) 甕、須恵器(中世～) 瓶・甕・繩片、黑色土器A類、瓦器柄・瓶、瓦質土器鉢・縁片、輪入白磁碗、甕、国産染付柄・縁片、国産陶器甕・甕・鉢・瓶、輪入白磁碗、瓦質土器鉢、平瓦・丸瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦	D・II～3
					瓦質土器鉢、平瓦・丸瓦	
					土師器(中世～) 瓶・釜、瓦器柄、輪入白磁碗、国産陶器甕、平瓦・丸瓦・輪入瓦、椅子	
11			溝		土師器(中世～) 瓶・繩片、瓦器柄	C3
12			素掘り		土師器(中世～) 瓶、瓦器柄	D3・4
13			ピット		土師器(中世～) 繩片	D4
14			ピット		土師器(中世～) 瓶・繩片、須恵器、国産陶器鉢・丸瓦	D3
15	約上層 鈴内理上	トイレ	近世		土師器(中世～) 瓶・釜、須恵器(古代) 甕、瓦質土器鉢・火鉢、平瓦・丸瓦・丸瓦	E3
					土師器(中世～) 瓶・繩片、須恵器(古代) 甕、瓦質土器鉢、国産陶器甕、平瓦・丸瓦	
16		ピット			土師器(中世～) 瓶・繩片、丸瓦	D3
17		ピット				E3
18		ピット			土師器(中世～) 瓶・繩片、国産陶器繩片	E4
19			土坑		土師器(中世～) 瓶・瓦器柄、国産陶器片、平瓦	C・D3
20			土坑		土師器(中世～) 瓶・繩片、瓦器柄、平瓦	C3
21			土坑		土師器(中世～) 瓶・釜・繩片・甕片、須恵器(古代) 高杯・甕、国産染付柄、国産陶器甕、平瓦・丸瓦	C・D3・4
22			ピット		土師器(中世～) 瓶	C・D4
23			土坑		土師器(中世～) 瓶	D4
24			ピット		国産陶器甕	D4
25	SK025		土坑		土師器(中世～) 瓶・繩片、瓦器柄、瓦質土器鉢・鉢・輪入白磁碗、輪入染付鉢、瓦質陶器・焼鉢、軒丸瓦・平瓦・丸瓦	E・F2・3
26			溝		土師器(中世～) 瓶・釜・甕・瓦器柄・瓶・軒丸瓦・平瓦	D3
27			土坑		土師器(中世～) 瓶・繩片、平瓦	D・E4
28			ピット		土師器(中世～) 瓶・繩片、瓦器柄	E4
29			土坑		土師器(中世～) 瓶・釜・繩片、平瓦・丸瓦	E4
30	SX030	落ち込み			土師器(中世～) 瓶・釜・甕・須恵器(古代) 杯・甕・繩片、須恵器(中世～) 瓶、瓦器柄、瓦質土器鉢・鉢片、国産陶器甕・甕、平瓦・丸瓦	D・E2・4
31		井戸			土師器(中世～) 甕	E・F4
32			土坑		土師器(中世～) 甕	E・F3
33			ピット		土師器(中世～) 瓶、須恵器(古代) 甕	F3
34			ピット		土師器(中世～) 繩片	F3
35			土坑		土師器(中世～) 瓶・釜・甕・繩片・瓦器柄・瓶、輪入白磁碗片、平瓦・丸瓦	G・H3
36			ピット		土師器(中世～) 瓶・釜・甕・繩片、瓦器柄、平瓦	F2
37			ピット		土師器(中世～) 瓶・繩片、瓦器柄、平瓦	E・F2
38			ピット		土師器(中世～) 瓶・平瓦・丸瓦	D・E2
39			土坑		土師器(中世～) 瓶・繩片、須恵器(中世～) 甕、国産陶器甕	F2・3

表 12 検出遺構および出土遺物一覧（2）

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
40	SX040	I層	落ち込み		土師器（中世～）楕・皿・釜・甕、瓦底器（中世～）鉢、瓦器柄・頭、瓦質土器標誌・鉢・頭片、輸入白磁碗・盤・頭片、輸入青白磁器、国産陶器標誌・頭片、平瓦・丸瓦	F・G2～4
					土師器（中世～）皿・釜・頭片、頭底器（中世～）頭片、瓦器柄・頭、瓦質土器標誌・頭片、国産陶器標誌、平瓦・丸瓦	
					土師器（中世～）皿・釜・頭片、輸入白磁碗、国産陶器標誌、平瓦・丸瓦	
					土師器（中世～）皿・釜・頭片、輸入白磁碗、國産陶器標誌、平瓦・丸瓦	
					土師器（中世～）皿・釜・頭片、頭底器（中世～）鉢	
41		II層	ビット	土師器（中世～）皿、国産陶器標	G3	
42			ビット	土師器（中世～）皿・頭・頭片、瓦器柄、瓦質土器頭片、平瓦	G3	
43			ビット	磚	G2	
44			ビット	土師器（中世～）頭片、頭底器（中世～）鉢	F4	
45			土坑	土師器（中世～）楕・皿・釜・頭片、頭底器（中世～）鉢・甕、瓦器柄、国産陶器標誌・平瓦・丸瓦	D・E4	
46		III層	ビット	土師器（中世～）皿・頭・頭片、瓦器柄、平瓦	G4	
47			ビット	瓦器柄	G4	
48			ビット	国産陶器標	G4	
49			ビット	土師器（中世～）皿	G4	
50	SK050	土坑	S-30 下	土師器（中世～）皿・釜、頭底器（中世～）鉢、瓦器柄、輸入青磁碗、輸入白磁碗、國産陶器標誌、平瓦	D・E3	
51		III層	ビット	土師器（中世～）皿・頭片、頭底器（中世～）鉢、瓦器柄	H4	
52			溝	土師器（中世～）皿・頭片、頭底器（古代）甕、瓦器柄	H2～4	
53			ビット	土師器（中世～）皿・頭片	H・H4	
54			ビット	土師器（中世～）楕・皿・頭片、瓦器柄、平瓦	H・H4	
55	SE055	褐色土	月牙		土師器（中世～）皿、頭底器（中世～）甕、瓦器柄、瓦質土器頭片・平瓦・丸瓦	C・D1・2
					土師器（中世～）皿・釜、頭片、頭底器（古代）甕、瓦器柄、瓦質土器頭片、國産陶器標誌、軒丸瓦・平瓦・丸瓦	
					土師器（中世～）皿・頭片、瓦質土器頭片、輸入青磁碗、國產陶器標誌、平瓦・遺瓦	
					土師器（中世～）楕・皿・頭片、國產陶器標誌、平瓦・丸瓦	
					土師器（中世～）皿、頭底器（古代）甕、瓦器柄、瓦質土器頭片	
56			ビット	土師器（中世～）皿・頭・頭片、國產陶器標誌	H3	
57			ビット	土師器（中世～）皿・頭片、瓦器柄、不規則製品	G2	
58		土坑	S-25 下	土師器（中世～）皿・頭片、瓦器柄、砾石	E・F3	
59		ビット	土師器（中世～）皿・釜	E3		
60	SE060	月牙	土師器（中世～）楕・皿・台付頭・頭片、頭底器（古代）甕、頭底器（中世～）甕・瓦器柄、瓦質土器頭片・頭・輸入青磁碗・輸入白磁碗片、國產陶器標誌・甕・平瓦・丸瓦	H・E3・4		
61		S-60	ビット	土師器（中世～）楕・皿・瓦器柄、平瓦	E3	
62			ビット	土師器（中世～）釜・甕・瓦器柄、丸瓦	D・E3	
63			ビット	平瓦	D2	
64			ビット	土師器（中世～）頭片	E3・4	
65			土坑	土師器（中世～）皿・頭・頭片、瓦質土器頭・火鉢、國產陶器標誌、平瓦・丸瓦	I3	
66		S-30	ビット	土師器（中世～）皿・頭片	E3・4	
67			ビット	瓦器柄	E3	
68			ビット	土師器（中世～）頭片、瓦器柄	E3	
69			ビット	土師器（中世～）頭片、頭底器（古代）頭片	G・H2	
70	SK070	土坑	S-40 下	土師器（中世～）皿・頭片、頭底器（古代）甕、瓦器柄、輸入白磁碗片、甕・平瓦・遺瓦	G3	
71		S-30	ビット	瓦器柄、平瓦	G2	
72			ビット	土師器（中世～）楕・皿・頭片、瓦器柄	H2	
73			ビット	土師器（中世～）楕・皿・釜・瓦器柄	H3	
74			ビット	土師器（中世～）皿・頭片、頭底器（古代）甕、瓦器柄、國產白磁碗、甕土	H3	

表 13 検出遺構および出土遺物一覧 (3)

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
75	SK075	土坑	S-40 下	土師器 (中世～) 盆・釜、瓦器小鉢・皿、丸瓦		G3・4
76		ピット		土師器 (中世～) 盆・磁片		H2・3
77		土坑		土師器 (中世～) 盆・釜、瓦器碗・罐片、国産陶器残片、平瓦		I3
78		土坑		土師器 (中世～) 盆・釜・磁片、瓦器碗・皿、国産陶器残片、平瓦		G・H4
79		ピット		土師器 (中世～) 盆・磁片、平瓦		H3・4
80	SK080	土坑	S-40 下 S-70・85に切られる	土師器 (中世～) 盆・皿・罐、須恵器 (中世～) 盆・甕、瓦器碗・皿、国産陶器残片、平瓦・丸瓦		G2・3
81		土坑	木組み?	土師器 (中世～) 盆・磁片、輸入青磁碗、国産柒付碗、国産陶器残片、丸瓦		I・J4
82		ピット	S-40 下	土師器 (中世～) 盆・皿・罐片、瓦器碗・皿、平瓦		F3
83		ピット	S-40 下	土師器 (中世～) 盆・磁片		F・G3
84		ピット	S-40 下	土師器 (中世～) 盆・磁片、瓦器碗		G3
85	SK085	土坑	S-40 下	土師器 (中世～) 盆・甕、須恵器 (中世～) 盆、瓦器碗・皿、国産陶器残片、平瓦		G3
86		ピット	S-40 下	土師器 (中世～) 盆・磁片、瓦器碗、平瓦		G3
87		土坑		土師器 (中世～) 盆・皿・罐片、瓦質土器罐、国産陶器残片、平瓦		H4
88		溝		土師器 (中世～) 盆・磁片、国産陶器残片		I3
89		ピット		土師器 (中世～) 盆・皿・罐片		I・J2
90	SK090	土坑	S-40 下 埴土置じり	土師器 (中世～) 盆・甕、須恵器 (中世～) 盆、瓦器碗・皿、平瓦		F3
91		土坑		土師器 (中世～) 磁片、国産陶器残片		J3
92		土坑		土師器 (中世～) 盆・磁片、瓦器碗、国産陶器残片、平瓦		J3
93		土坑		土師器 (中世～) 盆・磁片、平瓦		J3
94		土坑		土師器 (中世～) 盆・皿・瓦器碗、平瓦・丸瓦		I3
95		土坑		土師器 (中世～) 盆、平瓦		J・K3
96		土坑		土師器 (中世～) 盆、平瓦		I・J4
97		土坑		土師器 (中世～) 盆、平瓦		I3・4
98		土坑		土師器 (中世～) 盆・磁片、瓦器碗、国産陶器残片、平瓦		J・K3
99		土坑		土師器 (中世～) 盆・釜・蓋、須恵器 (中世～) 盆、瓦器碗、輸入白磁碗、平瓦		H・I3
100	SE100	井戸	S-40 下	土師器 (中世～) 盆・蓋・釜、須恵器 (古代) 瓶、須恵器 (中世～) 盆、瓦器碗・皿、 鉢、輸入白磁碗・皿、斜平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦		F・G3・4
				土師器 (中世～) 盆、須恵器 (古代時代) 瓶、瓦器碗・皿、平瓦		
				土師器 (中世～) 盆・磁片、瓦器碗、平瓦・丸瓦		
101		ピット		土師器 (中世～) 盆、瓦器碗、国産陶器残片、平瓦		J3
102		土坑		土師器 (中世～) 盆・磁片、瓦器碗・皿、国産陶器残片、丸瓦		J3
103		土坑		土師器 (中世～) 盆・釜・罐片、瓦質土器罐、国産陶器残片、罐鉢、平瓦・丸瓦		J3
104		土坑		土師器 (中世～) 盆・磁片		J・K3
105	SK105	土坑		土師器 (中世～) 盆・釜・蓋・磁片、須恵器 (中世～) 盆、瓦器碗、国産陶器残片、 平瓦・丸瓦		H3・4
106		ピット		土師器 (中世～) 盆・磁片、罐鉢、瓦器碗、平瓦・丸瓦		J3
107		ピット		土師器 (中世～) 盆・磁片、瓦器碗・皿、輸入白磁碗		I1・2
108		土坑		土師器 (古代) 盆・磁片、瓦質土器鉢、輸入白磁碗、平瓦		H3
109		ピット		土師器 (中世～) 盆・磁片、瓦質土器鉢、輸入白磁碗、国産陶器残片、平瓦		J2
110	SK110	土坑		土師器 (中世～) 盆・釜・蓋、須恵器 (中世～) 盆、瓦器碗、国産陶器残片、瓦、平瓦		I・J1
111		ピット		土師器 (中世～) 盆・釜・磁片		I1・2
112		土坑		土師器 (中世～) 盆・蓋・釜・蓋、須恵器 (古代) 盆、須恵器 (中世～) 盆、瓦器碗、 瓦質土器蓋、平瓦		H2
113		土坑		土師器 (中世～) 盆・釜・台付鉢・罐片、瓦器碗・皿、輸入白磁碗、瓦、平瓦		H2
114		土坑		土師器 (中世～) 盆・磁片、須恵器 (中世～) 盆、瓦器碗・小鉢、輸入青磁碗、 輸入白磁碗、国産陶器残片、平瓦		H2・3
115	SK115	土坑		土師器 (中世～) 盆、瓦器碗、国産陶器残片、平瓦・丸瓦		I1

表 14 検出遺構および出土遺物一覧 (4)

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
116		土坑		土師器（中世～）鉢・釜・罐片、須恵器（古代）甕、須恵器（中世～）甕、瓦器類、平瓦		H3
117		ピット		土師器（中世～）鉢・釜		H3・4
118		ピット		土師器（中世～）鉢・罐片		J1・J1・2
119		土坑		土師器（中世～）鉢・甕、罐片、輪入白磁片		J1・2
120	SIE120	月刊 S-40 下 S-100 に切られる		土師器（中世～）鉢・釜・釜、須恵器（古墳時代）甕、須恵器（古代）甕、瓦器類、瓦片、輪入白磁片、圓座陶器類、平瓦		G3・4
121		土坑		土師器（中世～）鉢・罐片、圓座陶器類、平瓦		J1・2
122		ピット		土師器（中世～）鉢・罐片		G3
123		ピット		土師器（中世～）鉢・釜・罐片、瓦器類		G3
124		土坑	S-135 下	土師器（中世～）鉢・甕、輪入青磁細片		J1・2
125		土坑				G4
126		ピット	S-140 下	土師器（中世～）鉢・罐片、須恵器（中世～）甕、瓦器類、平瓦・丸瓦		I2
127		土坑	S-140 下	土師器（中世～）鉢・罐片、瓦器類、丸瓦		J2
128		土坑	S-135 下	土師器（中世～）鉢・輪入白磁細片、丸瓦		J2
129		土坑	S-135 下 S-128 に切られる	土師器（中世～）鉢・罐片、瓦器類、圓座陶器類、平瓦		J1・2
130		落ち込み		土師器（中世～）鉢・釜・甕・罐片、須恵器（中世～）甕、瓦器類・小鉢・皿、瓦質土器類、輪入白磁片、圓座陶器類、瓦片・丸瓦		I3・4
131		土坑	S-135 下	土師器（中世～）鉢・瓦器類、瓦質土器細片、平瓦		J1・2
132		月刊	S-135 下 S-128 に切られる	土師器（中世～）鉢・罐片、須恵器（古代）甕、瓦片、建築部材		J2
133		土坑	S-10 下	土師器（中世～）鉢・罐片、瓦片・丸瓦		F2
134		ピット	S-40 下	土師器（中世～）鉢・罐片、瓦器類		F・G3
135		土坑		土師器（中世～）鉢・皿、須恵器（古代）杯・甕・瓶、須恵器（中世～）甕、瓦器類、瓦質土器細片、輪入白磁片、圓座陶器類、瓦片・丸瓦		J・K1・3
136		ピット	S-40 下	土師器（中世～）鉢・罐片、瓦器類、瓦質土器細片		G3
137		ピット	S-40 下	土師器（中世～）鉢・罐片、瓦器類		F・G3
138		ピット		土師器（古代）皿、土師器（中世～）鉢・罐片		I4
139		土坑		土師器（中世～）鉢・罐片、瓦質土器細片、輪入青磁片、圓座陶器類、平瓦		K4
140	SX140	落ち込み		土師器（中世～）鉢・釜・罐片、瓦器類、須恵器（中世～）甕・瓶、瓦器類、瓦質土器細片		J・J1・2
141		土坑	S-139 に切られる	土師器（中世～）鉢・釜・罐片、瓦器類、瓦質土器類、圓座陶器類、平瓦		K4
142		土坑	S-141 に切られる	土師器（中世～）鉢・罐片、須恵器（中世～）甕、圓座陶器類、平瓦		K4
143		土坑		土師器（中世～）鉢・罐・罐片		K4
144		溝		土師器（中世～）鉢・罐・罐片、瓦器類、瓦質土器細片、輪入青磁片、圓座陶器類、平瓦・丸瓦、鐵上		K・L3
145	SX145	落ち込み 青褐色 粘土	S-10 下	土師器（中世～）皿、瓦器類、瓦質土器細片、輪入白磁片、圓座陶器類、平瓦・丸瓦		E～G1・2
146				土師器（古代）甕・瓶、須恵器（中世～）鉢・釜・釜、須恵器（古代）杯、瓦器類、圓座陶器類、平瓦・丸瓦		
147				土師器（中世～）罐片、瓦質土器細片、圓座陶器類・瓶、平瓦・丸瓦、土製人形		
148		土坑		土師器（中世～）鉢・甕・瓶、罐片、圓座陶器細片、平瓦		K・L1・2
149		土坑		土師器（中世～）鉢・罐片、瓦器類		L2
150		土坑	S-140 下	土師器（古代）甕・瓶、土師器（中世～）鉢・釜・釜、須恵器（古代）杯、瓦器類、圓座陶器類、平瓦・丸瓦		I・J1・2
151		ピット		土師器（中世～）鉢・罐片、平瓦		L3・4
152		土坑		須恵器（古代）甕		I4
153		ピット		土師器（中世～）鉢・罐片、須恵器（中世～）甕		K4

表15 検出遺構および出土遺物一覧（5）

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
154		土坑		平瓦		L4
155		土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・繩片、瓦器柄、圓座白磁盤、圓座陶器繩片、平瓦・丸瓦	G・H1	
156		土坑	S-10 下	土師器（中世～）釜		I2
157		土坑		土師器（中世～）輪・釜、須恵器（古代）蓋・甕、須恵器（中世～）輪・繩片、黑色土器A輪鉢・瓦器柄、瓦質土器盤、輪人白磁盤、軒平瓦・平瓦・丸瓦	K1・2	
158		土坑	S-10・140 下	土師器（中世～）輪・繩片		I2
159		土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・繩片、瓦質土器盤、平瓦	H・I2	
160		落ち込み		土師器（中世～）輪・釜、須恵器（古代）蓋・甕、瓦器柄、輪人青磁盤、輪人白磁盤、圓座陶器盤、平瓦・丸瓦	J・K3・4	
161		土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・繩片、瓦器柄、丸瓦	H2	
162		土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・繩片、須恵器（古代）杯・甕、瓦器柄	H2	
163		土坑	S-10・70・114 下	土師器（中世～）輪・瓦器柄、圓座陶器繩片	H・I2・3	
164		土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・釜・蓋、須恵器（古代）甕、須恵器（中世～）輪・瓦器柄、輪人白磁盤、平瓦・丸瓦	H・I2・3	
165	SK165	土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・繩片、瓦器柄、瓦質土器盤、圓座陶器盤、平瓦・丸瓦	G2	
166		土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・繩片、瓦器柄	I2・3	
167		土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・繩片、平瓦	H1・2	
168		ピット	S-10 下	平瓦・丸瓦	H2・3	
169		土坑		土師器（中世～）輪・釜、須恵器（古代）甕、黑色土器A輪鉢、瓦器柄、輪人白磁盤、圓座陶器盤、平瓦・丸瓦	J・K2・3	
170	SK170	土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・繩片	G・H2	
171		ピット	S-10 下	土師器（中世～）輪	I2	
172		土坑	S-185 下	土師器（中世～）輪・繩片、瓦器柄、輪人白磁盤、圓座陶器盤、軒丸瓦・平瓦・丸瓦	H・I2	
173		ピット	S-10 下	土師器（中世～）輪・釜・繩片、丸瓦	I2	
174		土坑	S-145 下	土師器（中世～）輪・繩片、瓦器柄	F1・2	
175	SK175	落ち込み		土師器（中世～）輪・釜・甕・瓦付輪・繩片、須恵器（中世～）甕、瓦器柄、瓦質土器盤、繩片、輪人白磁盤・繩片、圓座陶器盤、平瓦・丸瓦	L～N1	
176		ピット	S-145 下	土師器（中世～）輪・繩片、瓦器柄、丸瓦	F・G2	
177		ピット		土師器（中世～）輪・繩片、瓦器盤	G2	
178		ピット		土師器（中世～）輪・繩片、須恵器（中世～）繩片、瓦器柄	F・G2	
179		土坑		土師器（中世～）輪・繩片	F・G2	
180	SK180	土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・須恵器（古代）杯・須恵器（中世～）甕・瓦質灰釉鉢・瓦器盤、平瓦・丸瓦	H1・2	
181		落ち込み		土師器（中世～）輪・繩片、瓦器柄・小輪、瓦質土器盤、圓座梁付輪、圓座陶器盤、鐵石、平瓦・丸瓦	J～K2～4	
182		土坑	S-185 下	土師器（古代）輪・土器・土師器（中世～）輪・釜・繩片	H1	
183		ピット		土師器（中世～）繩片、瓦器盤	M4	
184		ピット		土師器（中世～）繩片・瓦器盤、圓座陶器盤	M4	
185	SK185	土坑	S-10 下	土師器（中世～）輪・壺・瓦付輪・繩片、須恵器（古代）杯・甕、須恵器（中世～）甕・瓦器柄、瓦質土器盤・繩片、輪人青磁盤、圓座陶器盤、軒丸瓦・平瓦・丸瓦	H・I1・2	
186		ピット		土師器（中世～）輪・繩片、須恵器（古代）甕	M・N4	
187		ピット		土師器（中世～）輪・釜・繩片、瓦器柄	M3・4	
188		土坑		土師器（中世～）繩片・瓦器盤、須恵器（中世～）甕	M4	
189	SP189	ピット		土師器（中世～）輪・軒丸瓦	M3	
190	SE190	1～4組 5～9組	井戸 S-10 下 S-140・150・158に切 られる	土師器（中世～）輪・壺・瓦付輪・繩片、須恵器（古代）杯・甕、黑色土器A輪鉢、瓦器盤、瓦質土器盤・甕・軒丸瓦・平瓦・丸瓦 平瓦	H・I2	
191		ピット		土師器（中世～）輪・甕	M4	
192		土坑		土師器（中世～）輪・瓦質灰釉鉢・丸瓦	N2	

表 16 検出遺構および出土遺物一覧 (6)

番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
193			ピット	瓦質土器		N2
194			ピット	S-193に切られる 土師器（中世～）皿・縦片		N2
195		土坑		調査器（中世～）皿・瓦質土器類・輸入青磁碗、国産染付碗、国産陶器類	M・N3	
196			ピット	土師器（中世～）皿		N4
197		土坑		土師器（中世～）皿・縦片、瓦質土器類・平瓦・丸瓦		M4
198		土坑		土師器（中世～）皿・縦片、瓦質土器・皿、国産陶器類		M4
199			ピット	調査器（中世～）皿・縦片、国産陶器類		M4
200	SB290a		ピット	土師器（中世～）皿・縦片、調査器（中世～）鉢・皿・瓦器柄、平瓦・丸瓦、灰、灰、灰津		L4
201		土坑		土師器（中世～）皿・縦片、輸入白磁碗		M3
202		土坑	S-181 F S-135 + 132に切られる	土師器（中世～）皿・瓦質碗・皿、平瓦・丸瓦		J3
203		土坑		土師器（中世～）皿・縦片、瓦器柄、国産陶器類		M3
204				矢希		
205		土坑		土師器（中世～）碗・皿・縦片・瓦質土器（古代）杯・甕、調査器（中世～）鉢・皿・瓦 瓦器柄・皿・縦片、瓦質土器類・皿・縦片、国産陶器類・鉢・丸瓦・平瓦・丸瓦	K・L3・4	
206		土坑		土師器（中世～）皿・台付盤・縦片、瓦質土器類・輸入青磁碗		M1
207		土坑		土師器（中世～）皿・縦片、須恵器（古世）甕		L・M4
208		土坑		土師器（中世～）皿・縦片、須恵器（中世）・縦片、瓦器柄		L・M4
209		土坑		土師器（中世～）皿・縦片、国産陶器類・縦片、平瓦		M・N4
210	SX210	落ち込み		土師器（中世～）皿・釜、須恵器（古代）杯・甕、瓦器柄・皿、瓦質土器火鉢・縦片・ 輸入青磁碗、国産陶器類・縦片、平瓦		L～N1～3
211		土坑		土師器（中世～）皿、瓦器柄、瓦質土器縦片		L・M3
212		土坑		土師器（中世～）皿・縦片		L・M4
213		土坑		国産陶器類		L・M3
214		土坑		土師器（中世～）皿・釜・甕、須恵器（古代）甕・瓦器柄		L2・3
215	SK215	土坑	S-135 + 238 F	土師器（中世～）皿・縦片、瓦質碗・須恵器（中世～）甕・黑色土器A型椀・瓦器柄・ 瓦質土器類・輸入白磁碗、国産陶器類・平瓦		K・L2
216	SE216	井戸		土師器（中世～）皿・縦片、黑色土器A型椀・瓦器柄・瓦質土器火鉢・鉢炉・国産 白磁碗、国産染付碗・皿・縦片、国産陶器類・鉢・皿・縦片・土瓦・丸瓦・瓦片・ 瓦瓦		L1・2
217		土坑		土師器（中世～）皿・甕、黑色土器B型椀・瓦器柄、国産陶器類・平瓦・丸瓦・雁 瓦		L4
218		土坑		土師器（中世～）皿・釜・縦片、国産陶器類・鉢・縦片・縦片		L2
219		土坑		土師器（中世～）皿・甕・縦片、国産陶器類・皿・丸瓦		L2
220		土坑	S-181 + 239 + 246 F	土師器（中世～）皿・釜・縦片、瓦器柄、国産陶器類・平瓦		J3・4
221		土坑		土師器（中世～）皿・縦片、須恵器（古代）甕、須恵器（中世～）甕・瓦器柄・瓦 質土器類・鉢・國産陶器類・平瓦		N3
222		溝		土師器（中世～）皿・釜・縦片・縦片、国産陶器類・平瓦		L2
223		井戸		土師器（中世～）皿・甕・瓦質土器類・須恵器・壁口・国産陶器類・火鉢・平 瓦・丸瓦・瓦片・道端瓦		N1・2
224		ピット		土師器（中世～）皿・縦片・須恵器（中世～）甕・平瓦		L・M4
225		土坑		土師器（中世～）皿・縦片・須恵器（古代）甕・瓦器柄		L3
226		ピット		土師器（中世～）皿・縦片・瓦器柄		K3・4
227		ピット	S-181 F	土師器（中世～）皿・縦片・瓦器柄		J3
228		土坑		土師器（中世～）皿・縦片・瓦器柄・砾石・丸瓦		K・L3・4
229		土坑	S-181 F	土師器（中世～）皿・瓦器柄・輸入白磁碗・国産陶器類		J3
230	SK230	土坑				L3
231		土坑	S-181 F	土師器（中世～）皿・釜・甕・縦片・瓦器柄・平瓦		J3
232		ピット	S-181 F	土師器（中世～）皿・縦片・瓦器柄		J4
233		ピット	S-181 F	土師器（中世～）皿・縦片		J4
234		溝	S-181 F	土師器（中世～）皿		L4

表 17 検出遺構および出土遺物一覧 (7)

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
235	SE235	1・2層	井戸	土師器 (中世～) 壺、平瓦		K・L3
				土師器 (古代) 高杯、土師器 (中世～) 壺、瓦器柄・皿、瓦質土器跡、輪入白磁碗、国産陶器標。軒平瓦、平瓦・丸瓦、輪郭		
				土師器 (中世～) 壺・皿・壺・細片、瓦器柄、輪入青磁碗、国産陶器標。平瓦・丸瓦		
				土師器 (中世～) 壺、瓦質土器跡、平瓦		
236		土坑	S-181下	土師器 (中世～) 壺、釜・罐片、瓦器標。須恵器 (中世～) 壺・甕。瓦器柄・小壺、瓦質土器跡、輪入白磁碗、国産陶器標。平瓦・丸瓦		I・J3
237		土坑	S-181下	土師器 (中世～) 壺・甕・罐片、須恵器 (中世～) 壺・甕。瓦器標、輪入白磁碗、平瓦・丸瓦		I・J3
238		土坑	S-181下	土師器 (中世～) 壺・罐片、須恵器 (中世～) 壺・甕、平瓦		K・L3
239		土坑	S-181下	土師器 (中世～) 壺・罐片、瓦器標、國産陶器標。平瓦		J3・4
240	SE240	1～7層	井戸	土師器 (中世～) 壺・釜、須恵器 (古代) 甕、須恵器 (中世～) 壺、瓦器標・皿、瓦質土器跡、輪入白磁碗、盤・輪入青白磁碗、国産陶器標・盤、石調、平瓦・丸瓦		J・K3
				土師器 (中世～) 壺・釜・罐片、須恵器 (古代) 甕、須恵器 (中世～) 壺・甕、瓦器標・皿、瓦質土器跡・大甕、輪入白磁碗、国産陶器標。平瓦・丸瓦		
				土師器 (中世～) 壺・罐片・不明品、須恵器 (中世～) 甕。瓦器標、輪入白磁碗、国産陶器標。平瓦・小判斜切品		
241		土坑	S-181下	土師器 (中世～) 壺、瓦器標、瓦質土器跡、国産陶器標・甕・壺、平瓦		J3
242		土坑	S-181下 S-135・132に切られる	土師器 (中世～) 壺・甕。瓦器標		J3
243		ピット	S-181下 S-241に切られる	土師器 (中世～) 壺・罐片		J3
244	SB290e	ピット	S-210下 S-195に切られる	土師器 (中世～) 壺、須恵器 (中世～) 壺・甕、瓦器標・皿、砾石、平瓦		M3
245	SK245	土坑	S-235に切られる	須恵器 (中世～) 壺・甕、瓦器標、瓦質土器跡・皿、輪入青磁碗。軒平瓦、平瓦・丸瓦		K・L3
246		土坑	S-181下	土師器 (中世～) 壺・釜・壺・罐片、須恵器 (古代) 甕、瓦器標・罐片、瓦質土器跡、国産陶器標。平瓦・丸瓦		J3・4
247		土坑	S-205下	土師器 (中世～) 壺・罐片、其那標。平瓦		L3
248		土坑	S-181下	土師器 (中世～) 壺、国産陶器標		J3
249	SB290c	ピット	S-205下	土師器 (中世～) 罐片、瓦器標		L3
250	SK250	土坑	S-215下	土師器 (中世～) 壺		K3
251		ピット	S-144下	平瓦		L3
252		ピット	S-144下	土師器 (中世～) 壺・皿・罐片、平瓦		L3
253		土坑	S-181・144下	土師器 (中世～) 壺・皿・罐		J・K3
254		土坑	S-157下	土師器 (中世～) 壺・瓦器標・瓦質土器跡		K1・2
255		池?	S-175埋設下	土師器 (中世～) 壺・瓦器標・瓦質土器跡・須恵器 (中世～) 壺、黒色土器B類型。平瓦・丸瓦		K～N1・2
256		土坑	S-205下	土師器 (中世～) 壺・罐片、瓦器標、瓦質土器跡・土製不明品		K・L3
257		土坑	S-205下	土師器 (中世～) 壺・瓦器標、輪入青磁碗、国産陶器標。平瓦・丸瓦		K・L3
258		土坑	S-210下	土師器 (中世～) 罐片		M2
259		溝		土師器 (中世～) 壺、瓦器標、瓦質土器跡		N2・3
260	SK260	土坑	S-5下 S-293に切られる	土師器 (中世～) 壺・台付壺・罐片、須恵器 (古代) 甕、瓦器標、輪入白磁碗・罐片、平瓦・丸瓦		N3・4
261		ピット	S-210下	土師器 (中世～) 罐片		M2
262	SK262	土坑	S-210下理賃遺構	土師器 (中世～) 壺、不明土製品		M2
263	SK263	土坑	S-210下理賃遺構	土師器 (中世～) 壺・罐片、輪入青磁碗、平瓦。不明土製品		M2
264	SK264	土坑	S-210下理賃遺構	土師器 (中世～) 壺		M2
265	SB330f	ピット				C-1
266	SK266	土坑	S-210下理賃遺構	土師器 (中世～) 壺・罐片		L・M2
267		ピット	S-210下	土師器 (中世～) 壺・甕・罐片、須恵器 (中世～) 甕、不明石製品		M2
268	SK268	土坑	S-210下理賃遺構	土師器 (中世～) 壺・甕、平瓦		L・M1・2
269	SK269	土坑	S-210下理賃遺構	土師器 (中世～) 壺・罐片、須恵器 (古代) 甕、瓦器標、瓦質土器跡、平瓦		L・M1・2

表 18 検出遺構および出土遺物一覧 (8)

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
欠番						
270						
271	SK271		土坑	S-210 下埋置遺構	土師器（中世～）皿・縦片。瓦質土器片	M1・2
272	SK272		土坑	S-210 下埋置遺構	土師器（中世～）皿・縦片	M1
273			土坑		土師器（中世～）皿	L・M3
274		ピット		S-205 F	土師器（中世～）縦片	L3
275					欠番	
276		ピット			土師器（中世～）皿・縦片。瓦胎板	L4
277			土坑		土師器（中世～）皿・縦片。輸入白磁板	L3
278	SK278		土坑	S-210 下埋置遺構	土師器（中世～）皿・縦片。瓦胎板	M2
279	SK279		土坑	S-210 下埋置遺構	土師器（中世～）皿・縦片	L・M2・3
280					欠番	
281	SK281		土坑	S-210 下埋置遺構	縦片	M2
282	SK282		土坑	S-210 下埋置遺構	土師器（中世～）皿・縦片。圓底陶器片。平瓦	L2・3
283	SK283		土坑	S-210 下埋置遺構	土師器（中世～）皿・釜・甕。瓦胎板	L2・3
284	SK284		土坑	S-210 下埋置遺構	土師器（中世～）皿・縦片	L2・3
285	SK285	井戸内			土師器（中世～）皿。瓦器片。輸入白磁板片。圓底陶器片。平瓦・丸瓦	N・03
286	SK286		土坑	S-210 下埋置遺構	土師器（中世～）甕	N2・3
287	SK287		土坑	S-210 下埋置遺構	圓底器（中世～）甕	N2
288			土坑		土師器（中世～）皿・縦片。丸瓦	N2
289	SK289		土坑	S-210 下埋置遺構	土師器（中世～）皿・縦片。瓦胎板	N2
290	SB290		建物	S-200・244・249・308・309・311・320・323		L～Q3・4
291			土坑		土師器（中世～）皿・縦片	L2
292			溝		土師器（中世～）縦片	M2
293	SK293		土坑		土師器（中世～）皿・縦片。瓦器片。平瓦・丸瓦	N3
294		ピット			土師器（中世～）縦片。瓦質土器縦片	M3
295	SA295		廻	S-313・314・316・317		P・Q3
296		ピット			土師器（中世～）皿。瓦胎板	M3
297		ピット			土師器（中世～）皿	N4
298			土坑		土師器（中世～）皿・縦片。須恵器（中世～）縦片	L4
299		ピット		S-160 F	土師器（中世～）縦片	K4
300	SA300		廻	S-318・319・321		P・Q3
301		ピット		S-97 F	土師器（中世～）皿。平瓦	J3
302		ピット		S-10 F	土師器（中世～）皿・縦片。平瓦	E2
303		ピット			土師器（中世～）皿。圓筒陶器拂神。軒丸瓦・平瓦	D3
304		ピット		S-10 F	土師器（中世～）皿・甕。須恵器（古代）杯。須恵器（中世～）甕。瓦質土器縫・火跡。圓筒陶器拂神。平瓦・丸瓦	E2
305	SK305		土坑		土師器（中世～）皿・釜・竹口盤。須恵器（古代）杯。須恵器（中世～）甕。瓦質土器縫片。圓底陶器片。平瓦・丸瓦	O～Q3
306		ピット		S-10 F	土師器（中世～）皿・縦片。瓦質土器縫片。平瓦・丸瓦	E1
307		ピット			土師器（中世～）皿	E1
308	SB290b		ピット	S-144 F	土師器（中世～）皿・縦片。平瓦	L3
309	SB290f		ピット		土師器（中世～）皿。須恵器（中世～）甕・縦片。瓦質土器縫片。輸入白磁板。平瓦	N3
310	SK310		土坑		土師器（中世～）皿・釜・縦片。瓦胎板。圓底陶器片。平瓦・丸瓦	O・P3
311	SB290d		ピット	S-210 F		M3
312		ピット			土師器（中世～）皿・縦片。平瓦	O3
313	SA295d		ピット			P3
314	SA295e		ピット		土師器（中世～）皿。瓦胎板	P3

表 19 検出遺構および出土遺物一覧（9）

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
315	SK315	土坑		土師器（中世～）壺・罐片、平瓦		Q3
316	SA295b	ピット		土師器（中世～）壺・皿		Q3
317	SA295a	ピット		土師器（中世～）壺・罐片、国産白磁罐片		Q3
318	SA300c	ピット		土師器（中世～）壺・釜・罐片、輸入青磁碗、平瓦・丸瓦		P3
319	SA300b	ピット		土師器（中世～）壺・罐・罐片		Q3
320	SB290g	ピット		土師器（中世～）壺・皿、平瓦・丸瓦		N・O3
321	SA300a	ピット		土師器（中世～）釜・甕・罐片、平瓦・丸瓦		Q3
322		ピット		土師器（中世～）皿、平瓦		O3
323	SB290h	ピット		土師器（中世～）皿、国産陶器残片、平瓦		O3
324		素掘溝		土師器（中世～）壺・罐片、瓦器柄、平瓦		A・B1
325	SB325	建物		S-333・337・338・339・357・358		A～C3・4
326	SB330b	ピット		土師器（中世～）罐片		B2
327		ピット		土師器（中世～）壺・罐片、須恵器（中世～）罐片		B2
328		ピット		土師器（中世～）壺・罐片、瓦器柄		C2
329		素掘溝		土師器（中世～）壺・罐片、須恵器（中世～）罐片、軒丸瓦・平瓦・丸瓦		B・C2・3
330	SB330	建物		S-265・326・354・356・378・379・381・391		A～C1～3
331		素掘溝		土師器（中世～）罐片		C3
332		素掘溝		土師器（中世～）罐片、瓦器柄		A・B3・4
333	SB325d	ピット		土師器（中世～）壺		A3
334		ピット		瓦器柄		A3
335				欠番		
336		ピット		土師器（中世～）罐片		B3
337	SB325c	ピット		土師器（中世～）壺・甕		A4
338	SB325b	ピット		土師器（中世～）壺・皿、須恵器（古代）杯、瓦器柄、平瓦		B4
339	SB325a	ピット		平瓦		C4
340				欠番		
341		土坑	近世	土師器（中世～）壺・釜、黑色土器A型柄、瓦器柄・皿、瓦質土器跡・火跡・罐片、国産焼付陶・罐片、国産陶器皿・蓋・甕・壺・罐片、平瓦・丸瓦		B・C1
342		土坑		土師器（中世～）壺・甕・罐片、瓦器柄、輸入白磁碗、平瓦・丸瓦・瓦片・道戻瓦		B3
343		素掘溝		土師器（中世～）壺・罐片、須恵器（古代）罐片		A～C4
344		素掘溝		土師器（中世～）罐片		A2
345				欠番		
346		素掘溝		土師器（古代）高杯、土師器（中世～）皿・罐片、須恵器（中世～）甕、平瓦		A・B2・3
347		素掘溝	近世	須恵器（中世～）罐片		C3・4
348		土坑		土師器（中世～）壺・釜・甕・行付壺・罐片、瓦器柄、瓦質土器跡・火跡・罐片、国産焼付陶・皿、国産陶器皿・蓋・甕・壺・罐片、軒丸瓦・平瓦・丸瓦・瓦片・磚瓦・磚		B・C2
349		ピット		土師器（中世～）壺・皿、瓦器柄		Q3
350				欠番		
351		ピット		国産陶器皿		Q3
352		土坑		土師器（中世～）壺・罐片、瓦器柄		P3
353		ピット		平瓦		O3
354	SB330e	ピット		土師器（中世～）罐片、瓦器柄、平瓦		B1
355				欠番		
356	SB330b	ピット		土師器（中世～）罐片、瓦器柄		A3
357	SB325e	ピット		土師器（中世～）壺、瓦器柄		B3
358	SB325f	ピット		土師器（中世～）壺・罐片		C3
359		ピット		土師器（中世～）壺・罐片		C3

表20 検出構造および出土遺物一覧（10）

S番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
欠番						
360				土師器（中世～）皿		C4
361			ピット	土師器（中世～）皿・縁片		C1
362			ピット	土師器（中世～）皿・縁片		C2
363			ピット	土師器（中世～）皿・縁片		B・C3・4
364			土坑	土師器（中世～）皿・釜・縁片、須恵器（古代）甕、瓦器板・皿、輪入白磁碗、圓筒陶器、軒丸瓦、平瓦、丸瓦		
欠番						
365			ピット	土師器（中世～）皿		Q3
366			ピット	土師器（中世～）皿		Q3
367			ピット	土師器（中世～）皿・縁片、釘		Q3
368			ピット	土師器（中世～）皿・縁片、釘		Q3
369			ピット	土師器（中世～）皿・縁片、平瓦		C2
欠番						
370			土坑	土師器（中世～）皿・甕、須恵器（古代）甕、瓦器板、瓦質土器縫、輪入白磁碗、國產染付椀、青磁込付椀、國產陶器甕・縁片、平瓦、丸瓦		B・C1・2
371			土坑	土師器（中世～）皿・縁片、瓦器板、平瓦、丸瓦		C1
372			土坑	土師器（中世～）皿・縁片、瓦器板、平瓦、丸瓦、伏瓦		P3
373			ピット	土師器（中世～）皿・縁片、輪入白磁碗		Q2
374			土坑	土師器（中世～）皿・縁片、平瓦		
欠番						
375	SK376		土坑	土師器（中世～）椀・皿・釜、瓦器板、甕、平瓦		C1・2
376			土坑	土師器（中世～）皿・釜・縁片、須恵器（中世～）甕、瓦器板・皿・縁片、國產染付椀、甕、平瓦、丸瓦		A・B1・2
377			土坑	土師器（中世～）皿・縁片、瓦器板、平瓦、丸瓦		A2
378	SB330c		ピット	土師器（中世～）皿・縁片、瓦器板		A1
379	SB330d		ピット	土師器（中世～）皿・縁片、須恵器（古墳時代）杯、平瓦		
欠番						
380	SB330g		ピット			C2
381			ピット			B・C2
382			ピット			B・C2
383			ピット			A・B1・2
384			土坑	土師器（古代）甕、須恵器（古代）皿・杯・甕、平瓦		
欠番						
385			土坑	土師器（古代）杯・縁片、須恵器（古代）杯・甕		A2・3
386			ピット	土師器（中世～）皿・縁片		B1
387			ピット	土師器（中世～）皿・縁片		A・B1・3
388	SD388		溝	土師器（古代）縁片、須恵器（古代）杯		
389			ピット	土師器（古代）甕		B2
欠番						
390	SB330u		ピット			B3
392	SP392		ピット			A3
393			東側溝			A・B2
394			ピット	土師器（中世～）椀・皿・縁片、國產陶器山茶碗		E・F3
395			ピット	土師器（中世～）皿・釜・縁片、瓦器板、國產陶器甕・縁片		N2
埋瓦						
壁面第2層						
壁面第3層						
表土						
東側試坑区表土						

土師器（中世～）椀・皿・釜・縁片、白色土器燭台・縁片、須恵器（古代）甕、須恵器（中世～）甕・盤・縁片、瓦器板・縁片、輪入白磁碗、國產白磁甕、國產染付椀・縁片、甕・盤・蓋、國產陶器甕・皿・縁片、植木鉢・盆鉢、灰石・石鍋、軒平瓦・平瓦・丸瓦・伏瓦、土頭

写真図版

図版 1



調査前風景（東から）



重機掘削状況（東から）

図版 2



遺構検出状況（1）（北西から）



遺構検出状況（2）（西から）

図版 3



調査区全景（1）（東から）



調査区全景（2）（西から）

図版4



東側拡張区検出状況（東から）



東側拡張区全景（北から）

図版 5



SD388 全景（西から）



SD388 土層断面（東から）

図版 6



SB290 全景（東から）

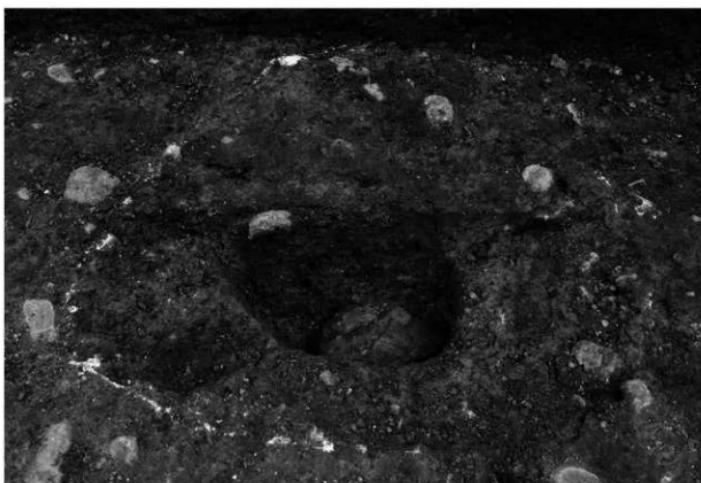


SB325 全景（南西から）

図版 7



SB325a 土層断面（北から）



SB325c 土層断面（北から）

図版 8



SB325e 土層断面（北から）



SB330 全景（北西から）

図版 9



SB330b 土層断面（北から）



SB330d 土層断面（南から）

図版 10



SE055 土層断面（東から）



SE060 完掘状況（西から）



SE100 土層断面（南から）



SE100 完掘状況（西から）

図版 12



SE120 土層断面（東から）



SE120 完掘状況（南から）



SE190 土層断面（南から）



SE190 完掘状況（北から）

図版 14



SE235 土層断面（北から）



SE235 完掘状況（南から）

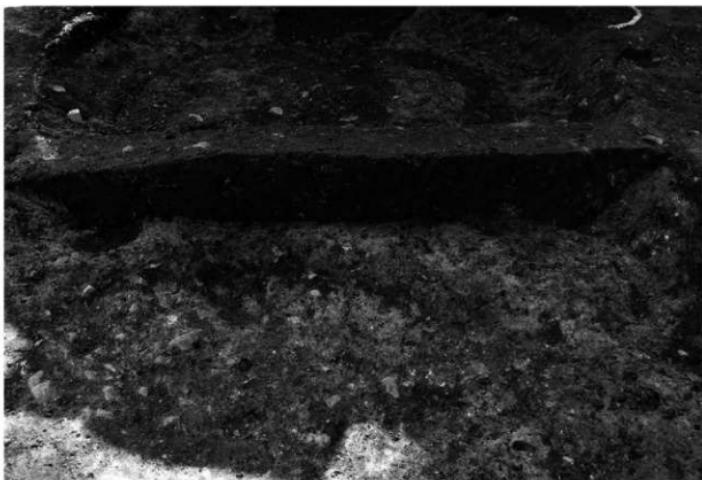


SE240 土層断面（北から）



SE240 完掘状況（南から）

図版 16



SK025 土層断面（西から）



SK245 土層断面（南から）



SK250 遺物出土状況（北から）



SK250 土層断面（北から）

図版 18



SK260 土層断面（北から）



埋葬構造検出状況（北から）



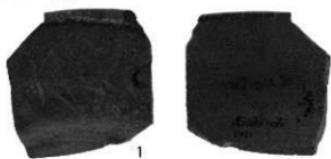
埋め戻し風景（南から）



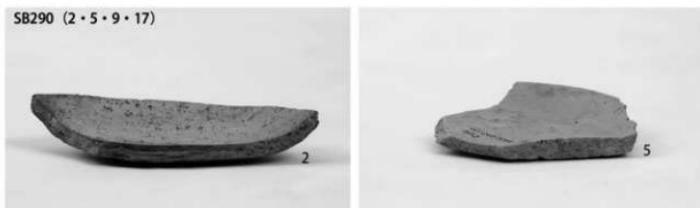
埋め戻し後風景（東から）

図版 20

SD388 (1)



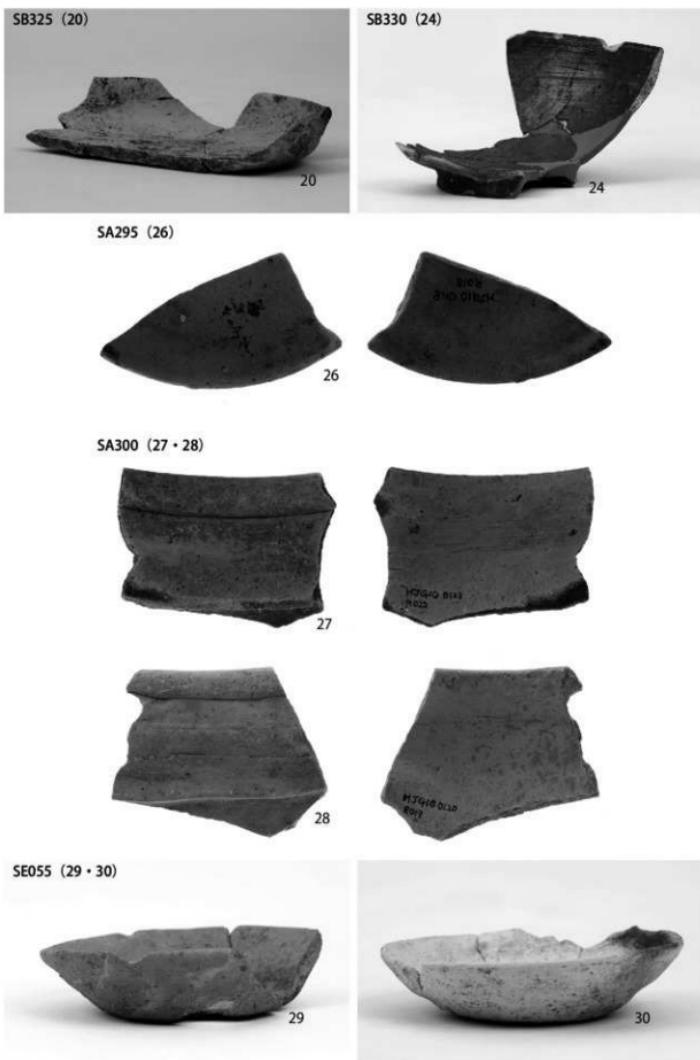
SB290 (2 + 5 + 9 + 17)



SB325 (18 + 19)



図版 21



図版 22

SE055 (31 ~ 34)



31



32



33



34



SE055 (36 ~ 38)



36



37



38

SE060 (39 ~ 40 • 42 • 43 • 45 ~ 49)



39



40



42



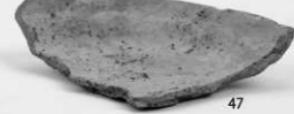
43



45



46



47



48



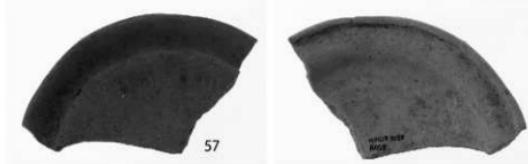
49

図版 24

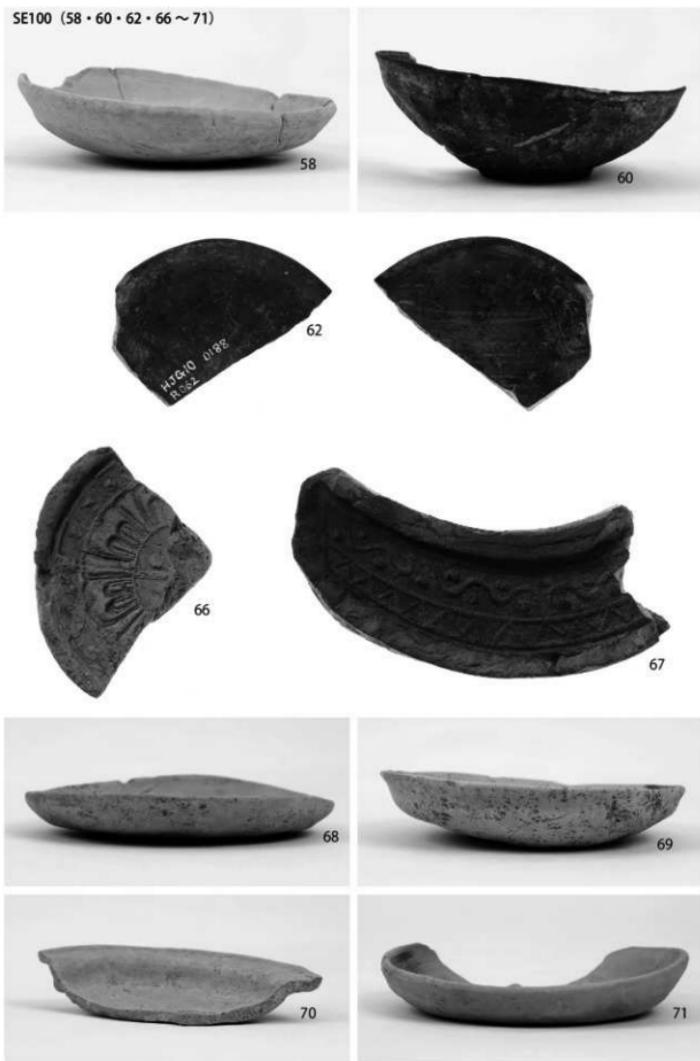
SE060 (50 ~ 54)



SE100 (55 ~ 57)

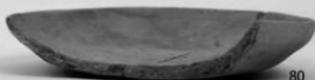


SE100 (58・60・62・66～71)



図版 26

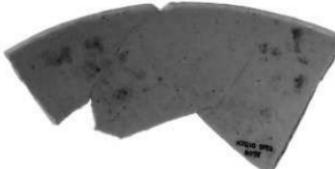
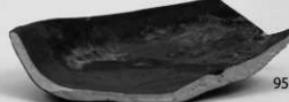
SE100 (75・77・78・80～87)



SE100 (88・89)



SE120 (92～95・97)



図版 28

SE100 (90・91)



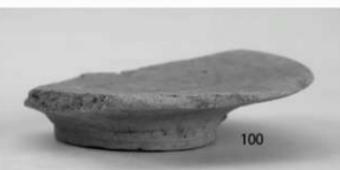
SE190 (98 ~ 102 + 105 + 107)



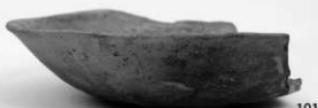
98



99



100



101



100 底部



102



105



107

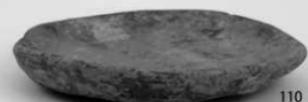
図版 30

SE190 (106)



106

SE235 (110・113・116～118)



110



113



116

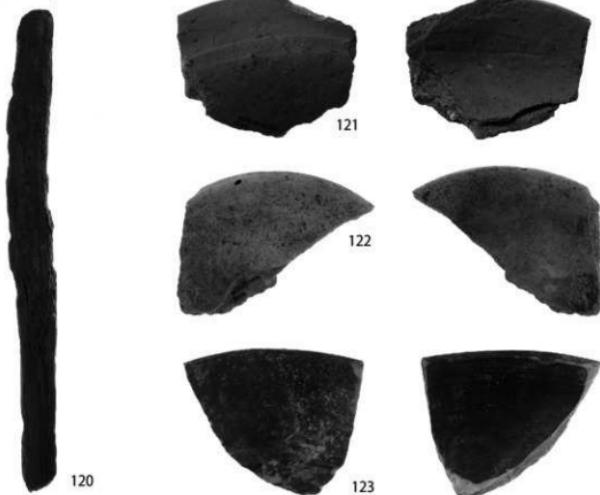


118



117

SE235 (120 ~ 124)



図版 32

SE235 (125 ~ 128)



125



126



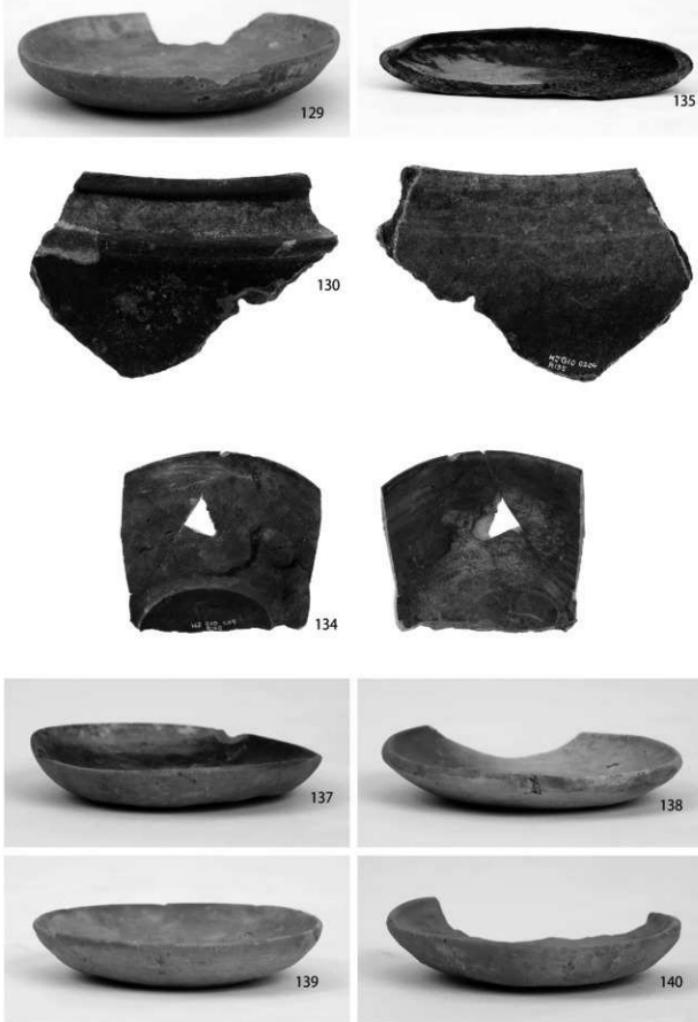
128



127

図版 33

SE240 (129・130・134・135・137～140)



図版 34

SE240 (136・141～146)



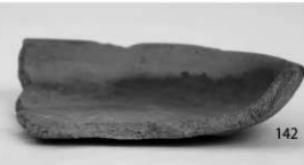
136



142



141



143



146



144



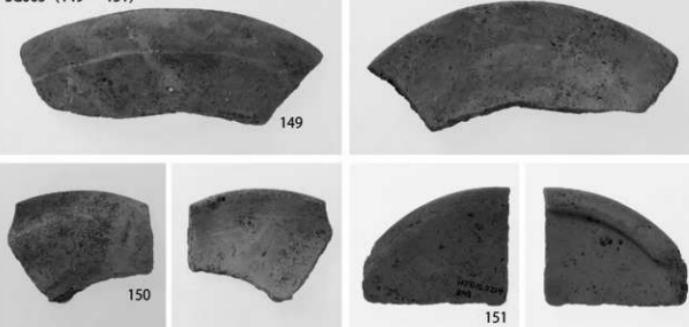
145



SE240 (147・148)



SG005 (149～151)



SK025 (152)



SK050 (153・154)



図版 36

SK050 (155)



155



SK075 (156 ~ 159)



156



157



158

SK080 (160 ~ 164 • 166 • 168)



159



160



161



162



163



164



166



168

SK080 (165・167・169・170)



165



167



170



169



SK105 (171～174)



171



172



173



174

図版 38

SK110 (176 ~ 186)



176



177



178



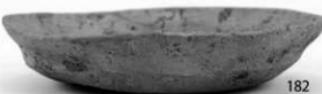
179



180



181



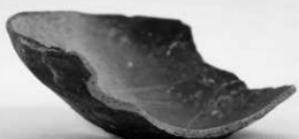
182



183



184



186



185

SK110 (187)



図版 40

SK165 (188・189)



188



190

SK170 (190・192)



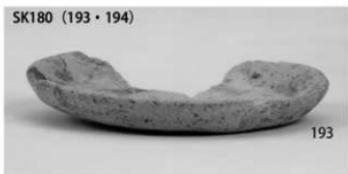
192



194



SK180 (193・194)



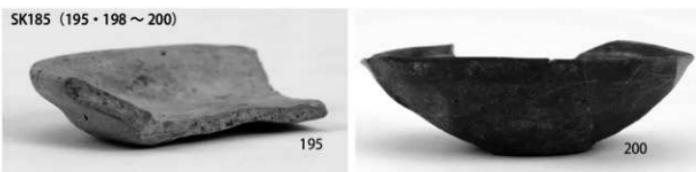
193



194 底部

図版 41

SK185 (195・198～200)



195

200



199



198

SK215 (201～203)



201

202

203

N76.3.11
203

図版 42

SK215 (204)



204 見込み



204

SK245 (206 ~ 208)



206



207

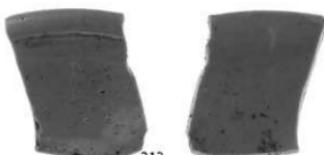


208

SK250 (209)



SK260 (210 ~ 213)



SK293 (214・215)



図版 44

SK305 (216 ~ 220)



216



217



218



219



220

SK310 (221 • 222)



221



222



SK315 (223 • 224)



223



224

SK315 (226・227)



226



227

SK376 (228・231～233・235～237)



228



231



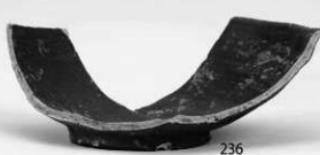
232



233



235



236

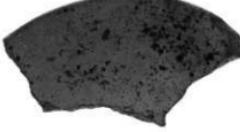


237

SK268 (238)



238



図版 46

SK269 (240)



240



SK272 (241)



241

SK281 (242)



242



SX010 (243・244・246～249)



243



244



246



247



248



249

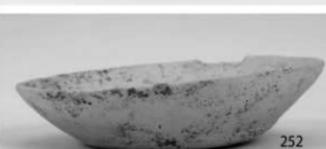
SX010 (250 ~ 257 + 259)



250



251



252



253



254



255



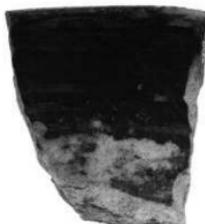
256



257



259



図版 48

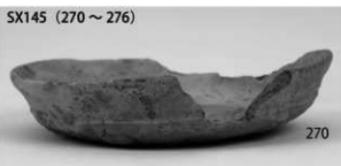
SX140 (260 ~ 265)



SX145 (266 • 268)



SX145 (270 ~ 276)



270



272



271



274



273



276

SX175 (277 ~ 280)



277



278



279



280

図版 50

SX175 (281 ~ 283)



281



282



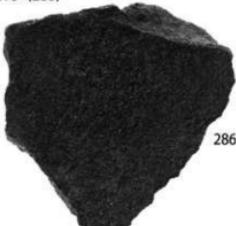
283

SP189 (285)



285

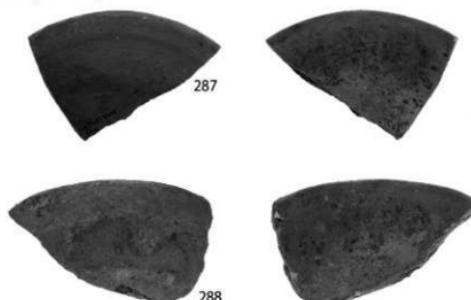
SE216 (286)



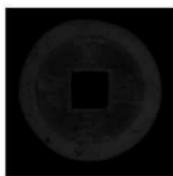
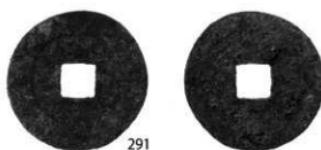
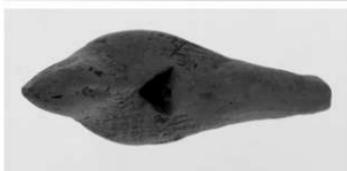
286



SE285 (287・288)



表土 (289～291)



報告書抄録

平城京左京三条六坊十二坪

奈良町遺跡（HJG10次）

—令和2年度発掘調査報告書—

2022.3.31

（発行・編集）公益財團法人 元興寺文化財研究所

（印刷）共同精版印刷株式会社